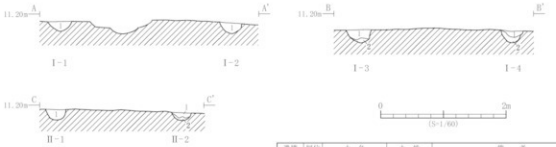


遺構	層位	土色	土性	備考
I・II	1	10YR6/2 灰黄色	粘土質シルト	暗灰黄色土ブロックを含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。

第14図　小溝状遺構群断面図

U字形で、堆積土は灰黄色・黄灰色粘土質シルトが主体である。遺物は出土していない。

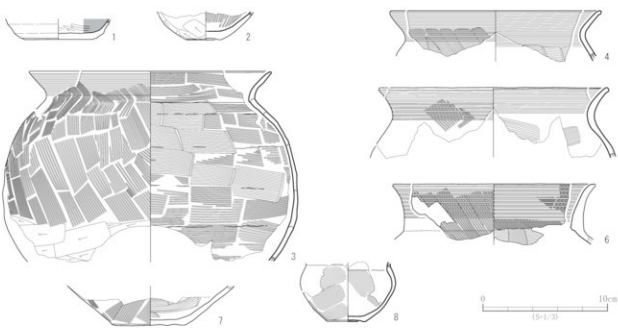
Ⅱ群（第10・14図）　ほぼ調査区全域で検出した。東西方向の遺構群で、２条の小溝で構成されている。方向はN－５～７°－Eで、検出長4.30～4.90m、幅25～42cm、深さ８～18cm、小溝の間隔は1.60m程である。断面形はU字形で、堆積土は灰黄色・黄灰色粘土質シルトが主体である。遺物は出土していない。

４）ピット（第10図）

15基（Ｐ１～３・50～61）のピットを検出した。調査区全域に散漫に分布する。遺物は出土していない。

（２）遺構外出土の遺物（第15図、図版６）

基本層Ⅴ層から須恵器・土師器小片が出土しており、第15図に８点を図示した。１はロクロ土師器坏小片である。底部糸切りである。３～７は土師器甕である。このうち３は土師器甕の口縁部～体部下半の破片である。作りが薄く、球胴形である。４～６は口縁部片である。３点とも頸部の下に段を持たない。７は底部片である。８は小型の



No.	登録番号	層位	遺構・グリッド	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	D-1	Ⅴ	W120・S310	土師器	坏	－×2.8×現2.2	ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色処理		6-7
2	C-6	Ⅴ	W120・S310	土師器	小型甕	－×3.0×現2.6	ヘラケズリ	ハケメ		6-8
3	C-7	Ⅴ	W120・S310	土師器	甕	(19.2)×－×現15.1	ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ	ハケメ・ヘラナデ		6-10
4	C-8	Ⅴ	W120・S310	土師器	甕	(16.8)×－×現4.5	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ		6-9
5	C-9	Ⅴ	W120・S310	土師器	甕	(26.2)×－×現14.8	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ		6-11
6	C-10	Ⅴ	W120・S310	土師器	甕	(16.2)×－×現4.8	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ		6-12
7	C-11	Ⅴ	W110・S310	土師器	甕	－×5.2×現4.1	ハケメ	ヘラナデ		6-13
8	C-12	Ⅴ	W110・S310	土師器	小型甕	－×(5.4)×現1.6	ナデ	ナデ		6-14

第15図　遺構外出土遺物

土師器壺である。１は９世紀後半以降、２～８は５世紀前～中期ごろの遺物と考えらえる。

５．２Ａ区の調査

２Ａ区では基本層Ⅴ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、土坑１基、ピット３基を検出した。また、遺構外出土の遺物として土師器甕小破片が出土している。ピットについては遺構配置図にのみ表示した。

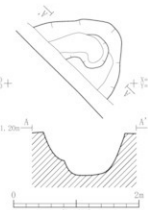
（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物（第18図、図版３）

１）土　坑

SK７土坑（第16図）　W70・S360グリッドで検出し、西側の調査区外へ延びる。平面形は不明であり、検出した規模は西壁際で長さ160cm、深さ65cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は概ねU字形で、底面には15cm程の段差がある。遺物は出土していない。

２）ピット（第18図）

調査区南西際付近で３基（P471・472・463）のピットを検出した。遺物は出土していない。



第16図　SK７土坑平面図・断面図

６．２Ｂ区の調査

２Ｂ区では基本層Ⅴ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、性格不明遺構１基、小溝状遺構群１群、ピット７基を検出した。また、ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示した。

（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物（第19図、図版３）

１）性格不明遺構

SX８性格不明遺構（第17図）　W50・S340グリッドで検出し、西側の調査区外へ延びる。小溝状遺構Ⅰ-１と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は径3.90m程の円形と思われ、深さは70cmである。断面形は漏斗形で、遺物は出土していない。

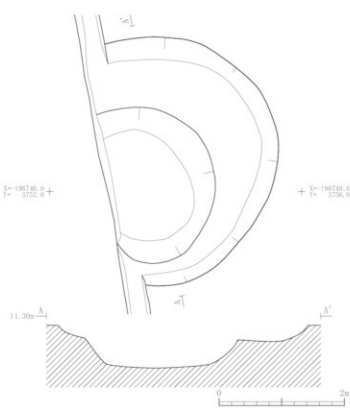
２）小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、Ⅰ群を検出した。

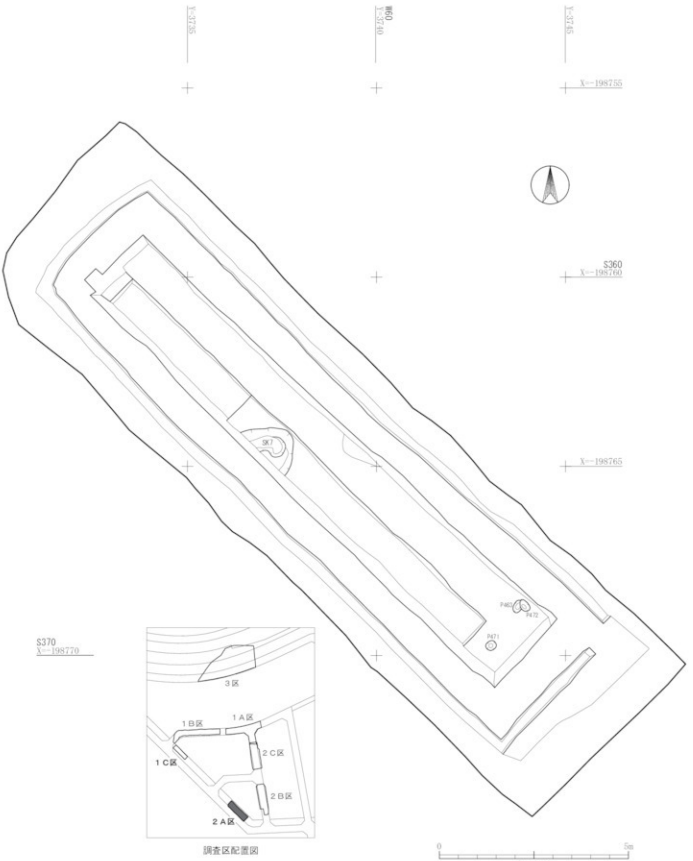
Ⅰ群（第19・20図）　W40・S340～350で検出した。東西方向の遺構群で、５条の小溝で構成されている。方向はN-85～89°-Eで、検出長0.96～3.17m、幅17～35cm、深さ３～19cm、小溝の間隔は1.1～1.7m程である。断面形はU字形で、遺物は出土していない。

３）ピット（第19図）

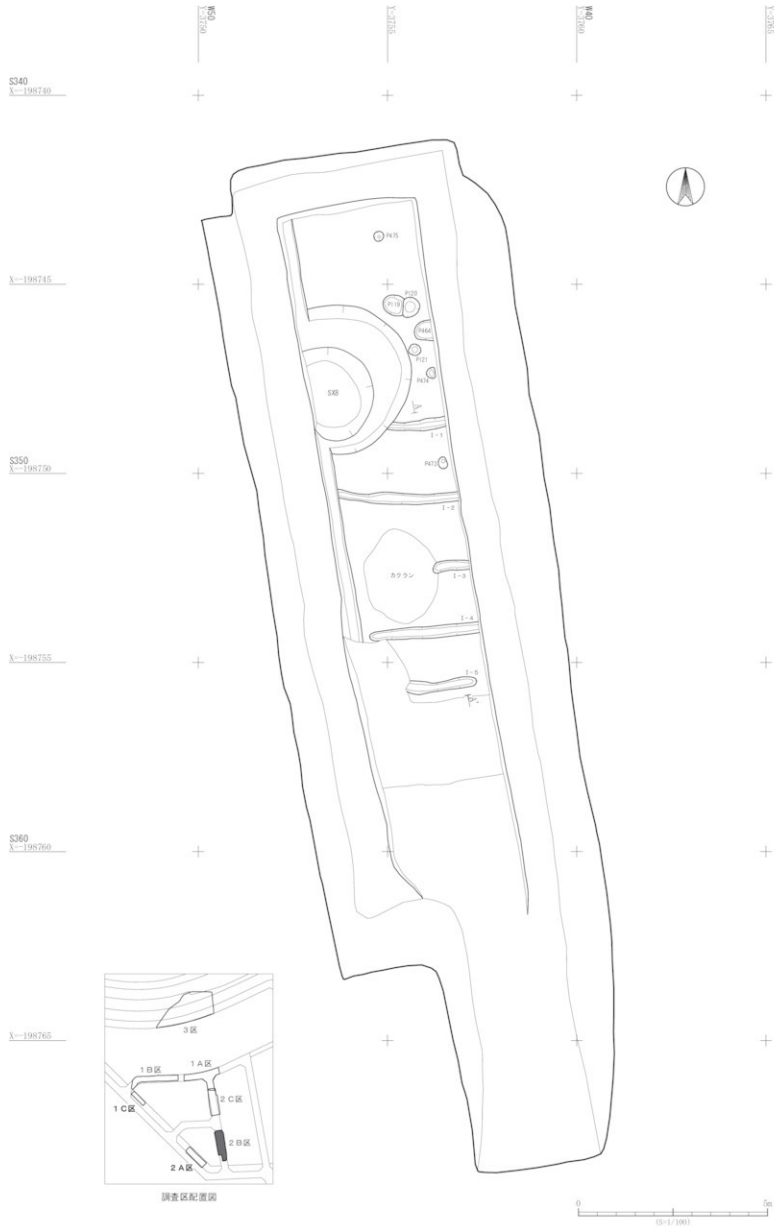
７基のピット（P119～121・464・473～475）を検出した。調査区北側に分布する。遺物は出土していない。



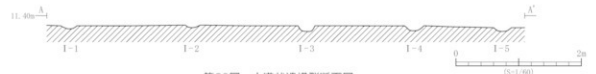
第17図　SX８性格不明遺構平面図・断面図



第18図　伊古田Ｂ遺跡２Ａ区Ⅴ層遺構配置図



第19図　伊古田B遺跡2B区Ⅴ層遺構配置図



第20図　小溝状遺構群断面図

７．２Ｃ区の調査

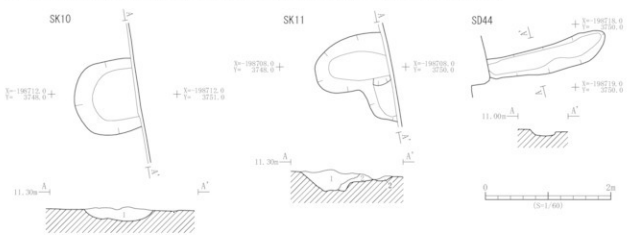
２Ｃ区では基本層Ⅴ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、土坑２基、性格不明遺構１基、溝跡１条、ピット２基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示した。

（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物（第22図、図版３）

１）土　坑

SK10土坑（第21図）　Ｗ50～60・Ｓ310グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。平面形は楕円形と思われ、検出規模は南北長115cm、東西長95cm、深さ15cmである。壁面はやや開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は、縄文土器が１点出土した。

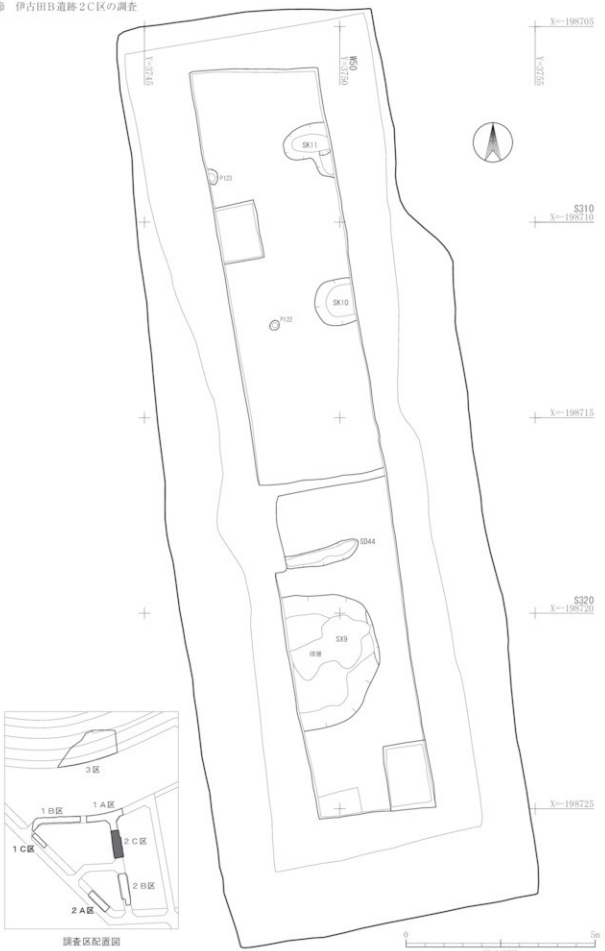
SK11土坑（第21図）　Ｗ60・Ｓ300グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。平面形はＬ字形と思われ、検出された規模は南北長145cm、東西長115cm、深さ５～30cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は柄杓状で、底面は北側が低く、南側が高い。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SK10	1	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土ブロックを北側に多く含み、炭化物粒を若干含む。粘性・締まりあり。

遺　構	層位	土　色	土　性	備　考
SK11	1	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	粘性・締まりあり。
	2	10YR4/4褐色	粘土質シルト	粘性・締まりあり。底部に砂礫を含む。

第21図　SK10・11土坑、SD44溝跡平面図・断面図



第22図　伊古田Ｂ遺跡２Ｃ区Ⅴ層遺構配置図

２）性格不明遺構

SX９性格不明遺構（第23図）　W50～60・S310～320グリッドで検出し、西側の調査区外へ延びる。平面形は円形ないし楕円形と思われ、検出した規模は南北350cm、東西220cm、深さ30～55cmである。遺物は出土していない。

３）溝　跡

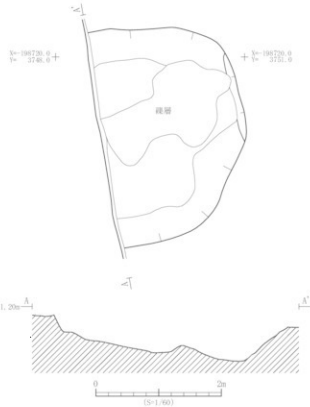
SD44溝跡（第21図）　W50～60・S310グリッドで検出し、西側の調査区外へ延びる。方向はN-77°-Eで、検出した規模は長さ1.90m、幅20～45cm、深さ２～８cmである。遺物は出土していない。

４）ピット（第22図）

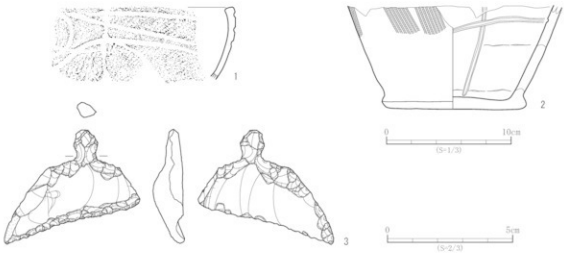
２基（P122・123）のピットを検出した。遺物は出土していない。

（２）遺構外出土の遺物（第24図、図版６）

第24図に３点を図示した。１は縄文土器鉢口縁部片、２は縄文土器深鉢底部片であり、後期に属する土器である。３は石匙である。調整加工はつまみ部と器体の下面に作出された刃部を中心に施され、素材面を大きく残す。裏面から正面に向かう急角度の二次加工により作出される。



第23図　SX９性格不明遺構平面図・断面図



No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-1	V	-	縄文土器	鉢	沈縄文・LR縄文		6-15
2	A-2	V	-	縄文土器	深鉢	外面-胎子状沈縄文		6-16

No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g)	備　考	写真図版
3	Ka-d2-1	V	-	剥片石器	石匙	珪質百岩	4.5×5.4×1.3　13.4	横型。	6-17

第24図　遺構外出土遺物

８．３区の調査

３区では基本層Ⅲ層上面（古代～近世の遺構検出面）において、土坑５基、性格不明遺構２基、溝跡３条、ピット列１列、ピット７基、基本層Ⅴ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、土坑６基、河川跡１条、性格不明遺構６基、小溝状遺構群２群、ピット325基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示した。

（１）Ⅲ層検出の遺構と遺物（第26図）

１）土　坑

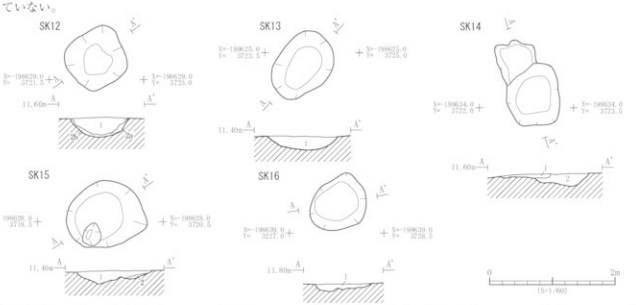
SK12土坑（第25図、図版４）　Ｗ80・Ｓ220グリッドで検出した。SD53と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸方形で、規模は方90cm、深さ29cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はＵ字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は２層に分層され、２層は細分される。遺物は出土していない。

SK13土坑（第25図）　Ｗ80・Ｓ220グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はＮ-40°-Ｅである。規模は長軸110cm、短軸82cm、深さ20cmである。壁面はやや開きぎみに立ち上がり、断面形は幅広のＵ字形で、底面は浅い擂鉢状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK14土坑（第25図）　Ｗ80・Ｓ230グリッドで検出した。平面形は不整楕円形で、長軸方向はＮ-18°-Ｗである。規模は長軸145cm、短軸60～85cm、深さ７cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は柄杓状で、底面には段差があり、南側が低く、北側が高い。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK15土坑（第25図、図版４）　Ｗ80～90・Ｓ220グリッドで検出した。SX50、SD53と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整な円形で、規模は径115cm、深さ12～18cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は底面に凹凸があるため、不整形である。南西側にはピット状の掘り込みがあり、堆積土は２層に分層される。遺物は、肥前産磁器初期伊万里小破片が出土した。

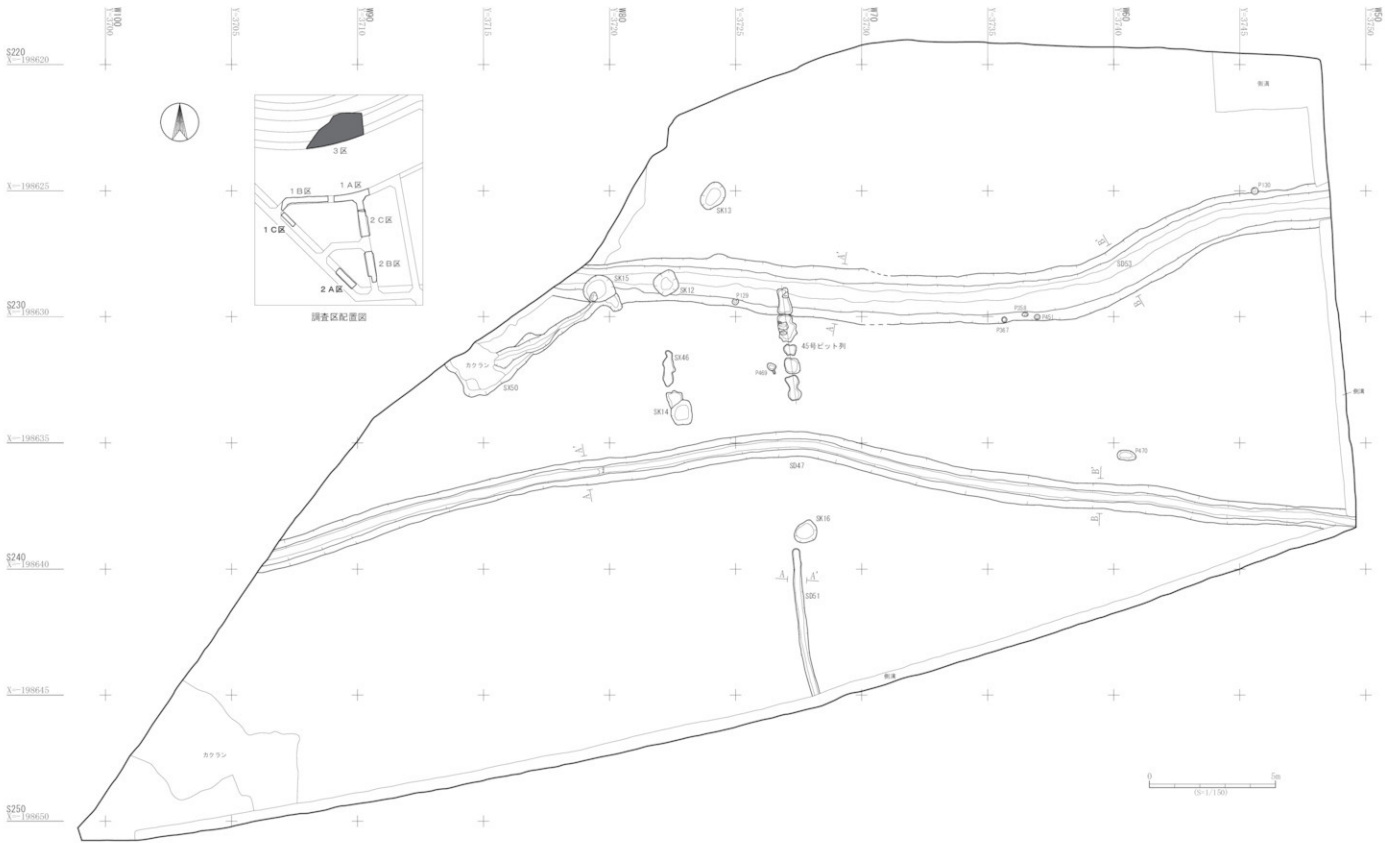
SK16土坑（第25図）　Ｗ80・Ｓ230グリッドで検出した。平面形は不整な円形で、規模は径90cm、深さ７～13cmである。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面には凹凸がある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK12	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄をブロック状に含む。
	2a	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	砂を部分的に含む。
	2b	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。
SK13	1	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	黒褐色シルト質粘土を斑状、酸化鉄を多量含む。
SK14	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。マンガン粒を少量含み、暗褐色シルト質粘土をブロック状に含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK14	2	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄をブロック状に含む。マンガン粒を少量含み、暗褐色シルト質粘土を小ブロック状に含む。
SK15	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	灰黄褐色粘土質シルトを層上半にブロック状に含む。
	2	10YR4/4褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土をブロック状に含む。
SK16	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。マンガン斑が層上半にみられる。

第25図　SK12～16土坑平面図・断面図



第26図　伊古田Ｂ遺跡３区Ⅲ層遺構配置図

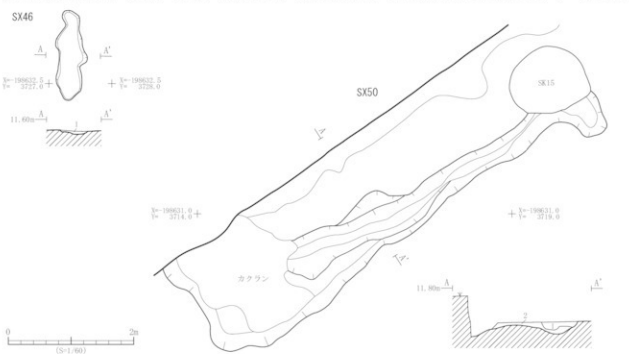
２）性格不明遺構

SX46性格不明遺構（第27図）　W80・S230グリッドで検出した。平面形は不整形で、方向はN－2°－Wである。規模は長軸145cm、短軸20～45cm、深さ５cmで、底面には凹凸がある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SX50性格不明遺構（第27図、図版４）　W80～90・S220～230グリッドで検出した。SK15と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は溝状に近い不整形で、方向はN－62°－Eである。検出した規模は長軸715cm、短軸33～200cm、深さ14～58cmで、東端が南に、西端は北へ屈曲する。堆積土は２層に分層される。遺物は、砥石が１点出土し、第28図に図示した。器体の４面に砥面が観察される棒状の砥石である。正面全体に研磨が観察され、両側面及び裏面は風化した自然面が多く残される。また、自然面には部分的にケズリ痕状の痕跡も認められる。

３）溝　跡

SD47溝跡（第26・29図）　W60～100・S230～240グリッドで検出し、調査区外へ延びる。調査区中央でへの字状に屈折して方向を変えており、調査区西側での方向はN－77°－E、調査区東側ではN－83°－Wである。検出した長さは44.30m、幅70～110cm、深さ35～74cmである。断面形は漏斗形で、堆積土は３層に分層され、１・２層は細



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SX46	1	10YR5/2灰黄褐色	シルト質粘土	褐色粘土質シルトをブロック状に含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SX50	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土をブロック状に含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色シルト質粘土を小ブロック状にわずかに含む。

第27図　SX46・50性格不明遺構平面図・断面図

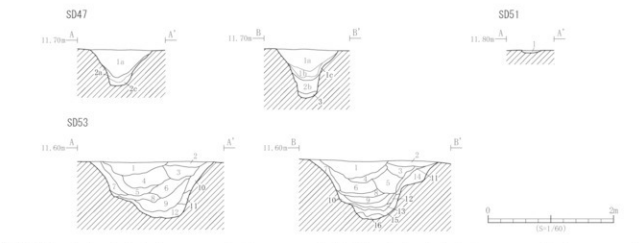
No	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	石　材
1	Kd-u-1	SX50	－	石製品	砥石	凝灰岩
長５×幅４×厚５（cm）　重５（g）			－	備　考		写真図版
9.5×4.2×2.6　115.0			磨４。			6-18

第28図　SX50出土遺物

分される。遺物は、ロクロ土師器小破片が出土した。

SD51溝跡（第26・29図）　Ｗ80・Ｓ230～240グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。方向はＮ－6°－Ｅで、検出した長さは5.90m、幅30～35cm、深さ１～４cmである。断面形は皿状で、堆積土は単層である。遺物は、土師器小破片が出土した。

SD53溝跡（第26・29図）　Ｗ60～90・Ｓ220～230グリッドで検出し、調査区外へ延びる。SK12・15、45号ピット列、Ｐ129・130・358・367・451と重複し、本遺構が古い。やや蛇行しながら走行しており、方向は西側ではＮ－87°－Ｗ、東側ではＮ－71°－Ｅである。検出した長さは31.00m、幅130～215cm、深さ36～92cmである。断面の観察から掘り直しが考えられ、断面形は逆台形である。堆積土は16層に分層され、下層から灰白色火山灰のブロックが検出された。遺物は、土師器坏の底部小破片（回転糸切り）が出土した。



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SD47	1a	10YR5/2灰黄褐色	シルト質粘土	φ1mmの白色粒子を含む。褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
	1b	10YR4/2灰黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄膜を含む。
	1c	10YR4/2灰黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄膜・マンガン膜を含む。
	2a	10YR4/2灰黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄膜・マンガン膜をまばらに含む。
	2b	10YR4/2灰黄褐色	シルト質粘土	灰黄褐色シルト質粘土を小ブロック状に含む。
	2c	10YR5/2灰黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄膜を含む。
	3	10YR5/2灰黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄膜を含む。
SD51	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルトをブロック状にわずかに含む。
SD53（A-A'）	1	10YR3/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	細砂・粗砂をラミナ状に含む。
	2	10YR4/4褐色	粘土質シルト	マンガン膜をまばらに含む。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	白色粒（φ2mm）をまばらに含み、暗褐色シルト質粘土のブロックをわずかに含む。
	4	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	層下部に褐色細砂を層状に含む。
	5	7.5YR4/3褐色	粘土質シルト	酸化鉄膜をまばらに含み、層上部に褐色細砂を含む。
	6	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	層下部に褐色細砂を部分的に含む。
	7	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土を小ブロック状に含む。
	8	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	全体的に酸化鉄膜を含む。
	9	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土をブロック状に含む。
	10	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰を粒状に含む。
	11	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	灰白色火山灰のブロックを多量含む。
	12	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰を小ブロックに含み、下面には酸化鉄・マンガン膜を帯状に含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SD53（B-B'）	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	細砂・粗砂をラミナ状に含み、マンガン膜をわずかに含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	白色粒（φ1～2mm）をまばらに含み、全体的にマンガン膜がみられる。
	3	7.5YR4/3褐色	粘土質シルト	白色粒（φ2mm）をわずかに含む。
	4	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄膜を含む。
	5	10YR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	灰白色火山灰を粒状にごくわずかに含む。
	6	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	細砂をラミナ状に含む。
	7	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	6層を小ブロック状に含む。
	8	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	全体的に酸化鉄膜を含む。
	9	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	微砂をラミナ状に含む。
	10	10YR4/3にぶい黄褐色	細砂	にぶい黄褐色シルト質粘土をブロック状に含み、マンガン膜がまばらにみられる。
	11	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	灰白色火山灰のブロックを多量含む。
	12	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰を粒状に含む。
	13	10YR4/3にぶい黄褐色	細砂	にぶい黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	14	10YR4/4褐色	粘土質シルト	層下面に灰白色火山灰をブロック状に含む。
	15	10YR5/2灰黄褐色	シルト質微砂	酸化鉄の集積がみられる。灰白色火山灰を小ブロック状にわずかに含む。
	16	10YR4/4褐色	シルト質微砂	層下面にマンガンの集積が著しい。

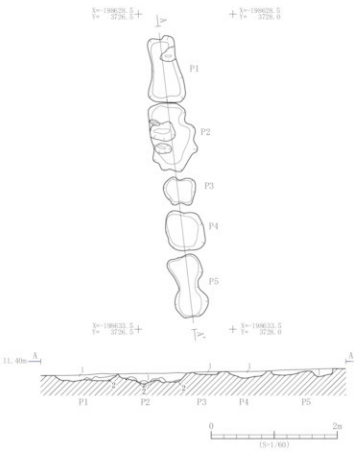
第29図　SD47・51・53溝跡断面図

４）ピット列

45号ピット列（第30図）　Ｗ80・Ｓ220～230グリッドで検出した。方向はＮ－6°－Ｗである。検出したピット列の長さは4.50mで、平面形が楕円形あるいは不整形のピット５基が隣接して並んでいる。各ピットの規模は、長軸45～110cm、短軸30～70cmで、深さは４～22cmである。断面形は緩やかな擂鉢状で、底面には若干凹凸がある。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

５）ピット（第26図）

45号ピット列付近に２基、SD53と重複して５基の合計７基（Ｐ129・130・358・367・451・469・470）のピット



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
45号	1	10YR5/2灰黄褐色	シルト質粘土	褐色粘土質シルトとにぶい黄褐色粘砂を含む。
ピット列	2	10YR4/4褐色	シルト質粘土	マンガン斑をまばらに含む。

第30図　45号ピット列平面図・断面図

を検出した。遺物は出土していない。

（２）Ｖ層検出の遺構と遺物（第33図、図版５）

１）土　坑

SK17土坑（第31図）　W90・S230グリッドで検出した。P273と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-20°-Eである。規模は長軸135cm、短軸102cm、深さ27cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK18土坑（第31図、図版４）　W70・S220グリッドで検出した。P238と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-55°-Eである。規模は長軸120cm、短軸95cm、深さ53cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK19土坑（第31図）　W70・S230グリッドで検出し、撹乱により西半部が削平されている。平面形は円形と思われ、規模は径70cm、深さ15～30cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

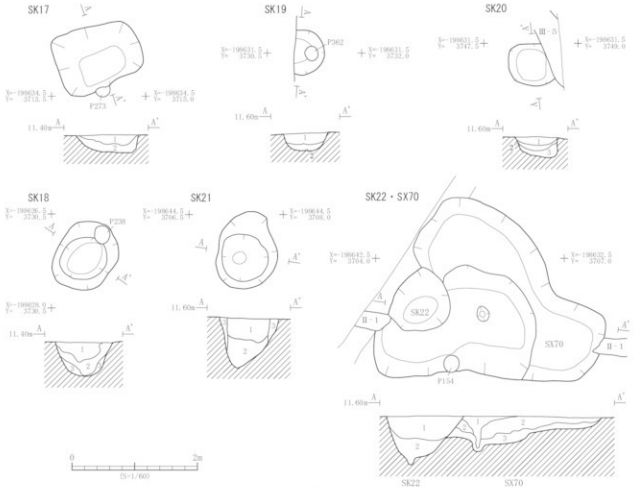
SK20土坑（第31図、図版４）　W60・S230グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅲ-５と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形はほぼ円形と思われ、規模は径70cm、深さ27cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面は北側に傾斜している。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK21土坑（第31図、図版４）　W100・S240グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅱ-２と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-２°-Eである。規模は長軸125cm、短軸95cm、深さ80cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK22土坑（第31図、図版４）　W100・S240グリッドで検出した。SX70と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で、規模は径95cm、深さ77cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

２）河川跡

SR52河川跡（第32・33図）　W60～80・S210～220グリッドで検出した。W70・S210～220グリッドにトレンチ（5.00×1.50m）を設定して部分的な掘り下げを行った。小溝状遺構Ⅰ・Ⅲ群、SX63・64・67、P128と重複関係にあり、小溝状遺構群より新しく、他の遺構より古い。若干蛇行しながらも方向は概ね東西正方位で、検出した長さは26.50m、幅は最大で6.00mで、検出面から深さ1.15mまで掘り下げを行った。堆積土は９層に分層される。遺物は、須恵器甕小破片が出土した。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK17	1	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	褐色砂質シルトをブロック状に含む。
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	暗褐色シルト質粘土を上部にやブロック状に含む。
SK18	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	マンガン斑・褐色細砂を小ブロック状にわずかに含む。
	2	10YR4/4褐色	シルト質砂	にぶい黄褐色シルト質粘土を小ブロック状に多量含む。
	3	10YR4/6褐色	細砂	にぶい黄褐色シルト質粘土を小ブロック状に含む。
SK19	1	10YR3/4暗褐色	シルト質粘土	褐色細砂をブロック状に少量含む。
	2	10YR4/4褐色	シルト質砂	暗褐色シルト質粘土を小ブロック状にわずかに含む。
SK20	1	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	灰黄褐色シルトを小ブロック状にまばらに、マンガン粒を多量含む。
	2	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトを小ブロック状及びマンガン粒を含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
SK20	3	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルトを小ブロック状にまばらに含み、マンガン粒をわずかに含む。
SK23	1	10YR4/4褐色	細砂	にぶい黄褐色シルト質粘土をわずかに含む。
	2	10YR4/6褐色	細砂	炭化物片をわずかに含む。
	3	10YR3/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をブロック状に多量含む。
SK22	1	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	褐色細砂を小ブロック状にまばらに含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	暗褐色シルト質粘土を層上面にブロック状に含む。
SX70	1	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	褐色細砂を小ブロック状にわずかに含む。
	2	10YR3/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色細砂を層下部にブロック状に多く含む。
	3	10YR4/4褐色	細砂	にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。

第31図　SK17～22土坑、SX70性格不明遺構平面図・断面図

遺構	層位	土色	土性	備考
SR52	1	10YR4/4褐色	砂質シルト	φ 2mmの色粒を全体的にまばらに含む。
	2	10YR3/3にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状にわずかに含む。
	3	10YR4/4褐色	砂質シルト	細砂・粗砂・粘土をラミナ状に含む。
	4	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物片をわずかに含む。
	5	10YR5/2灰黄褐色	シルト質粘土	10YR4/4褐色細砂を層下部に帯状に含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
SR52	6	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質砂	10YR4/4褐色細砂をラミナ状に含む。
	7	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	砂と粘土がラミナ状に入る。
	8	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	下部に細砂・粘土を帯状に含む。
	9	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	下部に10YR4/4褐色細砂を小ブロック状に含む。

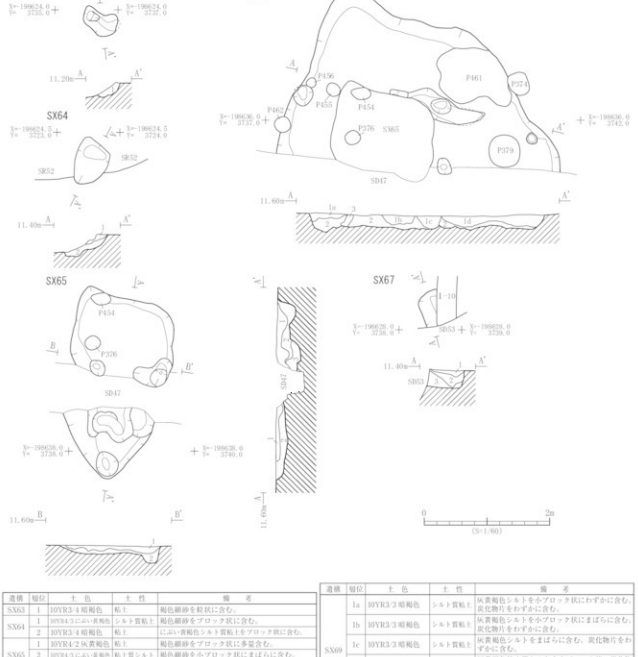
第32図　SR52河川跡断面図

第33図　伊古田Ｂ遺跡３区Ⅴ層遺構配置図

３）性格不明遺構

SX63性格不明遺構（第34図）　W70・S220グリッドで検出した。SR52、小溝状遺構Ⅰ-７と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整な楕円形で、長軸方向はN-66°-Wである。規模は長軸55cm、短軸25～40cm、深さ16cmで、断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SX64性格不明遺構（第34図）　W70・S220グリッドで検出した。SR52、小溝状遺構Ⅰ-６と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整な楕円形で、長軸方向はN-13°-Eである。規模は長軸75cm、短軸50cm、深さ38cmで、断面形は概ねU字形で、底面には段差がある。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SX63	1	10YR3/4暗褐色	粘土	褐色細砂を粒状に含む。
SX64	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をブロック状に含む。
	2	10YR3/4暗褐色	粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土をブロック状に含む。
SX65	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土	褐色細砂をブロック状に多量含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色細砂を小ブロック状にまばらに含む。
	3	10YR4/4褐色	細砂	にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に多量含む。
SX67	1	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	灰黄褐色砂質シルトを小ブロック状にまばらに含む。
	2	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂質シルトを小ブロック状にまばらに含む。
	3	10YR3/4暗褐色	シルト	灰黄褐色砂質シルトをまばらに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SX69	1a	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	灰黄褐色シルトを小ブロック状にわずかに含む。炭化物片をわずかに含む。
	1b	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	灰黄褐色シルトを小ブロック状にまばらに含む。炭化物片をわずかに含む。
	1c	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	灰黄褐色シルトをまばらに含む。炭化物片をわずかに含む。
	1d	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	灰黄褐色粘土質シルトを小ブロック状、炭化物片をわずかに含む。
	2	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルトを小ブロック状にまばらに含む。炭化物片をわずかに含む。
	3	10YR3/2黒褐色	粘土	粒状の土を多量含む。

第34図　SX63～65・67・69性格不明遺構平面図・断面図

SX65性格不明遺構（第34図、図版４）　Ｗ70・Ｎ230グリッドで検出した。SD47、SX69、P376・454と重複関係にあり、SX69より新しく、他の遺構より古い。平面形は不整形で、長軸方向はＮ－７°－Ｅである。規模は長軸300cm、短軸160cm、深さ15～40cmで、底面には凸凹がある。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SX67性格不明遺構（第34図）　Ｗ70・Ｓ220グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ-10、SR53と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、検出規模は南北60cm、東西30cm、深さ30cmである。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SX69性格不明遺構（第34図）　Ｗ60～70・Ｓ230グリッドで検出した。SD47、SX65、P374・376・379・454～456・461・462と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、検出した規模は東西445cm、南北270cm、深さ15～35cmで、断面形は皿状で、底面には凹凸がある。堆積土は３層に分層され、１層は細分される。遺物は出土していない。

SX70性格不明遺構（第31図、図版４）　Ｗ100・Ｓ240グリッドで検出した。SK22、小溝状遺構Ⅱ-１と重複関係にあり、SK22より古く、小溝状遺構Ⅱ-１よりも新しい。平面形は不整形で、長軸方向はＮ-87°-Ｅである。規模は長軸365cm、短軸110～320cm、深さ15～55cmで、断面形は不整形である。底面には段差があり、南西側が低く、北東側が高い。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

４）小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向と重複関係からⅠ～Ⅲ群に分けられる。

Ⅰ群（第33・35図、図版５）　Ｗ60～90・Ｓ220～230グリッドで検出した。南北方向の遺構群で、18条の小溝で構成されている。方向はＮ-２°-Ｗ～Ｎ-４°-Ｅで、検出長1.10～10.40m、幅20～45cm、深さ４～38cm、小溝の間隔は0.5～5.0mである。断面形はＵ字形で、堆積土は暗褐色粘土質シルト、灰黄褐色粘土質シルト・シルト質粘土・粘土、褐色細砂、にぶい黄褐色シルト質粘土が主体となる。Ⅰ-１・８・11・15からロクロ土師器小破片が出土した。

Ⅱ群（第33・35図、図版５）　調査区南西側で検出した。東西方向の遺構群で、９条の小溝で構成されている。方

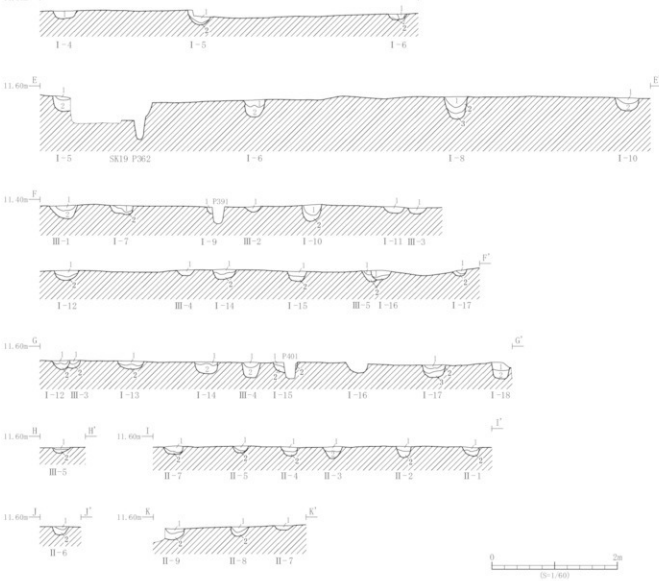
小溝状遺構群土層註記

遺構	層位	土色	土性	備考
Ⅰ-１	1	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	マンガン斑を含み、層下部に褐色細砂をわずかに含む。
	2	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	層全体に褐色細砂をやや多く含む。
Ⅰ-２	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	褐色砂質シルトをやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	灰黄褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。
	3	10YR4/2灰黄褐色	シルト質粘土	層下部に褐色砂質シルトをやや多く含む。
Ⅰ-３	1	10YR4/2にぶい黄褐色	シルト質粘土	褐色砂質シルトをやや多く含む。
Ⅰ-４	1	10YR4/4褐色	細砂	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅰ-５	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。マンガン斑を含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	灰黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅰ-６	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	灰黄褐色粘土をやや多く含む。
Ⅰ-７	1	10YR4/2にぶい黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅰ-８	1	10YR4/2にぶい黄褐色	シルト質粘土	灰色物・マンガン斑が散在し、白色粒をわずかに含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	粘土	褐色細砂をやや多く含む。
	3	10YR4/4褐色	細砂	褐色細砂をやや多く含む。
Ⅰ-９	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をやや多く含む。
Ⅰ-10	1	10YR4/2にぶい黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	にぶい黄褐色シルト質粘土を粒状にわずかに含む。
Ⅰ-11	1	10YR4/4褐色	細砂	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅰ-12	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/2にぶい黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をやや多く含む。
Ⅰ-13	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	灰黄褐色粘土質シルトをやや多く含む。
Ⅰ-14	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	灰黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅰ-15	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	灰黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅰ-16	1	10YR4/2にぶい黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅰ-17	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	粘土	褐色細砂をやや多く含む。
	3	10YR4/4褐色	細砂	灰黄褐色シルト質粘土を小ブロック状に多量含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
Ⅰ-18	1	10YR4/2にぶい黄褐色	シルト質粘土	炭化物片を含み、褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	暗褐色粘土・にぶい黄褐色シルト質粘土をブロック状に含む。
Ⅱ-１	1	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含み、酸化鉄・炭化物を少量含む。
	2	10YR4/2にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅱ-２	1	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含み、炭化物を少量含む。
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含み、酸化鉄を含む。
Ⅱ-３	1	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含み、酸化鉄・炭化物を少量含む。
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む。
Ⅱ-４	1	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含み、酸化鉄を少量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含み、酸化鉄を少量含む。
Ⅱ-５	1	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
	2	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	層下部は砂分が多くなる。
Ⅱ-６	1	10YR4/2にぶい黄褐色	シルト質粘土	褐色砂質シルトをやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状にわずかに含む。
Ⅱ-７	1	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
	2	10YR4/2にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅱ-８	1	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	褐色砂質シルトをやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	暗褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅱ-９	1	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	褐色砂質シルトをやや多く含む。
	2	10YR3/2にぶい黄褐色	粘土質シルト	層下部に褐色砂質シルトをやや多く含む。
Ⅱ-１	1	10YR4/2にぶい黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅱ-２	1	10YR4/4褐色	細砂	にぶい黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅱ-３	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	灰黄褐色粘土質シルトをやや多く含む。
Ⅱ-４	1	10YR4/2にぶい黄褐色	シルト質粘土	褐色細砂をやや多く含む。
	2	10YR4/4褐色	細砂	灰黄褐色シルト質粘土をやや多く含む。
Ⅱ-５	1	10YR4/2にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色砂質シルトをやや多く含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	細砂	層上面に褐色細砂を帯状に含む。マンガン斑を含む。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	細砂	マンガン斑、φ2mmの白色粒をわずかに含む。

向はN-81～88°-Wで、検出長1.95～19.85m、幅15～35cm、深さ７～21cm、小溝の間隔は0.2～1.8mである。断面形はU字形で、堆積土は暗褐色シルト質粘土・粘土質シルト、にぶい黄褐色砂質シルト・粘土質シルト・シルト質粘土、黒褐色シルト質粘土、褐色・灰黄褐色砂質シルトが主体となる。遺物は、Ⅱ-３・６・７からロクロ土師器小破片が出土した。

Ⅲ群（第33・35図、図版５）W70～80・S220～230グリッドで検出した。南北方向の遺構群で、５条の小溝で構成されている。方向はN-10～23°-Wで、検出長3.70～11.05m、幅20～40cm、深さ７～25cm、小溝の間隔は1.5～3.0mである。断面はU字形で、堆積土はにぶい黄褐色シルト質粘土、褐色細砂、灰黄褐色・暗褐色粘土質シルトが主体となる。遺物は出土していない。



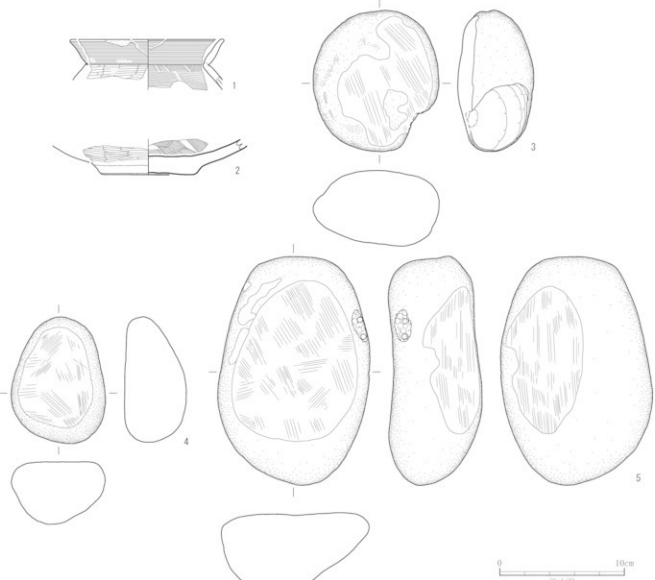
第35図　小溝状遺構群断面図

５）ピット（第33図）

325基のピット（P128・131～171・173～241・243～248・250～270・272～302・304～357・359～366・368～383・385～391・393～433・435～450・452～457・460～462・465～468・884）を検出した。調査区中央のほぼ全域に分布している。遺物はP180・182・187・193・198・334・339からロクロ土師器小破片が出土した。

（３）遺構外出土の遺物（第36図、図版６）

第36図に５点を図示した。１・２は土師器甕である。球胴形の体部で、南小泉式～引田式とみられ、５世紀代の遺物と思われる。３～５は磨石である。３・５は右側縁に敲打痕が認められ、３は敲打による大きな剥離痕が裏面に向かって広がる。なお、５は古代以降の砥石の可能性もある。



No	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-13	Ⅳ	W60・S220	土師器	甕	(12.2)×－×現3.8	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラナデ		6-19
2	C-14	Ⅳ	W60・S220	土師器	甕	－×7.4×現2.8	ヘラミガキ	ヘラナデ		6-20

No	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g)	備　考	写真図版
3	Kc-u-1	Ⅱ	SX50	礫石器	磨石	安山岩	11.2×10.9×6.0　825.0	磨1→0、敲横1。	6-21
4	Kc-u-2	Ⅳ	W60・S220	礫石器	磨石	安山岩	10.0×7.5×5.0　485.0	磨1→0。	6-22
5	Kc-u-3	Ⅱ	SD53B・ベルト以西	礫石器	磨石	安山岩	18.2×12.0×7.4　2,160.0	磨1→1、敲横1。	6-23

第36図　遺構外出土遺物

９．ま　と　め

伊古田Ｂ遺跡は仙台市太白区大野田字イコタにあり、笊川の南側の自然堤防と名取川の北側の自然堤防に挟まれた後背湿地に立地する、縄文・古墳時代～古代の遺跡である。平成10年度、平成14年度、平成16年度に計1,581㎡の調査を行ない、古墳時代から古代の遺構を検出した。

（１）遺構について

１）古代以降（Ⅲ層検出・９世紀以降）の遺構は、Ⅲ層上面で検出した。

１Ａ区－水田跡の上面で検出した火山灰は915年に降灰した十和田a火山灰（To－a）と考えられ、基本層Ⅲ層の時期を特定する材料の一つである。

３区－土坑５基、性格不明遺構２基、溝跡３条、ピット列１列、ピット７基

２）古墳時代から古代の遺構は各区Ⅴ層上面で検出している。

１Ａ区－性格不明遺構１基、溝跡１条、小溝状遺構群２群、ピット48基

１Ｂ区－性格不明遺構１基、小溝状遺構群２群、ピット44基

１Ｃ区－土坑２基、性格不明遺構１基、小溝状遺構群２群、ピット15基

２Ａ区－土坑１基、ピット３基

２Ｂ区－性格不明遺構１基、小溝状遺構群１群、ピット７基

２Ｃ区－土坑２基、性格不明遺構１基、溝跡１条、ピット２基

３　区－土坑６基、河川跡１条、性格不明遺構６基、小溝状遺構群２群、ピット325基

３）小溝状遺構群は、２Ｃ区を除く調査区から検出されており、本遺跡内には畑域が広がっていたと考えられる。

（２）遺物について

伊古田Ｂ遺跡からの出土遺物は平箱５箱である。全体として小破片が多く、図化できる遺物は少ない。

１）縄文時代

２Ｃ区Ⅴ層より後期の深鉢破片が出土している。石器は、２Ｃ区から石匙、３区から磨石が出土した。

２）古墳時代中期

１Ｃ区Ⅴ層SX３から南小泉式と考えられる土師器甕が出土しており、また同区から土師器甕と壺が出土している。３区Ⅳ層から南小泉式あるいは引田式に比定される土師器甕が出土している。

３）古墳時代後期

１Ａ区Ⅴ層から須恵器坏、土師器坏・甕が出土している。４世紀前半～６世紀後半以降の遺物である。

４）古代

１Ａ区Ⅳ層の須恵器甕片と１Ｃ区Ⅴ層の底部糸切りの内黒土師器坏片がある。

第１表　遺構一覧表（１）

１Ａ区Ⅲ層

水田跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
畦畔	W60・S280～300	N-33°-W	長さ11.80×幅0.80～1.80×高さ0.02～0.07	ほぼ直線・台形	

火山灰範囲

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
火山灰範囲	W50～60・S280～290	N-87°-E	東西5.20×南北5.10	-	

１Ａ区Ⅴ層

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SX6	W70・S290	N-31°-E	長軸290×短軸70～115×深さ26～42	不整形・逆台形	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
SD7	W70・S290	N-41°-E	長さ[5.10]×幅1.60～2.90×深さ0.20～0.28	ほぼ直線・浅い擂り鉢形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
Ⅰ-1	W80・S290	N-13°-E	長さ[2.90]×幅0.24～0.34×深さ0.07～0.11	直線・U字形	
Ⅰ-2	W80・S290	N-10°-E	長さ[2.95]×幅0.30～0.40×深さ0.07～0.11	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-3	W70～80・S290	N-5°-E	長さ[3.00]×幅0.26～0.34×深さ0.11～0.19	直線・U字形	
Ⅰ-4	W70・S290	N-15°-E	長さ[3.30]×幅0.25～0.40×深さ0.10～0.19	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-5	W70・S290	N-12°-E	長さ[2.70]×幅0.25～0.36×深さ0.15～0.18	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-6	W70・S290	N-5°-E	長さ[2.80]×幅0.30～0.41×深さ0.14～0.18	直線・U字形	
Ⅰ-7	W60・S290	N-5°-E	長さ[4.95]×幅0.30～0.46×深さ0.16～0.26	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-8	W60・S290	N-7°-E	長さ5.40×幅0.26～0.34×深さ0.01～0.09	ほぼ直線・（U字形）	
Ⅰ-9	W60・S290	N-13°-E	長さ6.40×幅0.25～0.34×深さ0.05～0.14	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-10	W60・S290	N-25°-E	長さ3.10×幅0.20～0.40×深さ0.04～0.10	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-1	W80・S290	南北	長さ[1.58]×幅0.18～0.22×深さ0.05～0.07	直線・（U字形）	
Ⅱ-2	W80・S290	N-5°-W	長さ[1.80]×幅0.15～0.24×深さ0.06～0.08	直線・U字形	
Ⅱ-3	W70・S290	N-2°-W	長さ[2.00]×幅0.10～0.20×深さ0.07～0.09	直線・U字形	
Ⅱ-4	W70・S290	N-6°-E	長さ[2.10]×幅0.24～0.30×深さ0.05～0.15	直線・U字形	
Ⅱ-5	W60・S290～300	N-4°-W	長さ3.58×幅0.22～0.35×深さ0.09～0.11	ほぼ直線・U字形	

１Ｂ区Ⅴ層

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SX4	W100・S290	N-52°-W	東西[160]×南北[70]×深さ20～26	不整形・逆台形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
Ⅰ-1	W90・S290	N-80°-W	長さ[7.70]×幅0.20～0.52×深さ0.04～0.20	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-2	W90～100・S290	N-78°-W	長さ[14.90]×幅0.26～0.50×深さ0.04～0.20	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-3	W90～110・S290	N-80°-W	長さ[19.80]×幅0.30～0.48×深さ0.15～0.20	やや蛇行・U字形	
Ⅰ-4	W100～120・S290	N-81°-W	長さ[21.60]×幅0.20～0.40×深さ0.15～0.20	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-5	W110～130・S290	N-85°-W　N-78°-W	長さ[14.90]×幅0.28～0.40×深さ0.09～0.18	やや湾曲・U字形	
Ⅰ-6	W120～130・S290	N-85°-W	長さ[5.50]×幅0.20～0.45×深さ0.02～0.20	直線・U字形	
Ⅰ-7	W120～130・S290～300	N-83°-W	長さ[5.30]×幅0.30～0.40×深さ0.10～0.32	直線・U字形	
Ⅰ-8	W120～130・S300	N-86°-W	長さ[3.90]×幅0.35～0.50×深さ0.21～0.29	直線・U字形	
Ⅰ-9	W130・S300	N-86°-W	長さ[2.50]×幅0.42～0.55×深さ0.25～0.28	直線・U字形	
Ⅱ-1	W110・S290	N-7°-W	長さ[3.05]×幅0.28～0.36×深さ0.08～0.14	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-2	W110・S290	N-8°-E	長さ[3.75]×幅0.20～0.42×深さ0.09～0.15	直線・U字形	
Ⅱ-3	W110・S290	南北	長さ[4.20]×幅0.26～0.40×深さ0.10～0.15	直線・U字形	
Ⅱ-4	W100・S290	N-6°-W	長さ3.50×幅0.26～0.36×深さ0.17～0.19	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-5	W100・S290	N-4°-W	長さ3.88×幅0.24～0.44×深さ0.10～0.18	やや湾曲・U字形	
Ⅱ-6	W100・S290	N-1°-E	長さ3.00×幅0.34～0.46×深さ0.12～0.19	直線・U字形	
Ⅱ-7	W100・S290	N-5°-E	長さ[4.00]×幅0.25～0.44×深さ0.12～0.17	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-8	W90・S290	N-1°-E	長さ2.68×幅0.20～0.35×深さ0.08～0.11	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-9	W90・S290	N-8°-E	長さ1.08×幅0.20～0.36×深さ0.07～0.10	直線・U字形	
Ⅱ-10	W90・S290	N-13°-E	長さ3.45×幅0.34～0.40×深さ0.10～0.19	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-11	W90・S290	N-8°-E	長さ[3.90]×幅0.28～0.40　×深さ0.06～0.17	ほぼ直線・U字形	

１Ｃ区Ⅴ層

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規　模（cm）	平面形・底面形状	時　期
SK2	W120・S300	N-4°-E	長軸100×短軸75×深さ21	不整楕円形・概ねU字形	
SK5	W130・S300	N-47°-W	長軸[65]×短軸57×深さ22	（楕円形）・概ねU字形	

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SX3	W120～130・S310	-	南北[140]×東西95×深さ13	不明・皿状	5世紀前半

小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
Ⅰ-1	W120～130・S300	N-86°-W	長さ[3.70]×幅0.34～0.40×深さ0.15～0.35	直線・U字形	
Ⅰ-2	W120～130・S310	N-82°-W	長さ[6.00]×幅0.35～0.40×深さ0.15～0.41	直線・U字形	
Ⅰ-3	W120・S310	N-81°-W	長さ[6.20]×幅0.36～0.40×深さ0.15～0.34	直線・U字形	
Ⅰ-4	W120・S310	N-79°-W	長さ[5.10]×幅0.25～0.35×深さ0.13～0.22	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-1	W130・S300～310	N-5°-E	長さ[4.30]×幅0.30～0.36×深さ0.12～0.18	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-2	W120・S300～310	N-7°-E	長さ[4.90]×幅0.25～0.42×深さ0.08～0.14	直線・U字形	

第２表　遺構一覧表（２）

２A区Ⅴ層

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	方向	規模（cm）	平面形・断面形	時期
SK7	W70・S360	-	北西～南東[160]×深さ65	不明・概ねU字形	

２B区Ⅴ層

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方向	規模（cm）	平面形・断面形	時期
SX8	W50・S340	-	径[390]×深さ70	(円形)・漏斗形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方向	規模（m）	平面形・断面形	時期
Ⅰ-1	W50・S340	N-87°-E	長さ[1.55]×幅0.18～0.30×深さ0.03～0.06	ほぼ直線・(U字形)	
Ⅰ-2	W50・S350	N-89°-E	長さ[3.17]×幅0.17～0.32×深さ0.04～0.07	ほぼ直線・(U字形)	
Ⅰ-3	W50・S350	N-88°-E	長さ[0.96]×幅0.20～0.27×深さ0.06～0.09	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-4	W50・S350	N-86°-E	長さ[2.88]×幅0.25～0.31×深さ0.05～0.19	直線・U字形	
Ⅰ-5	W50・S350	N-85°-E	長さ1.88×幅0.22～0.35×深さ0.03～0.10	ほぼ直線・U字形	

２C区Ⅴb層

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・底面形状	時期
SK10	W50～60・S310	-	南北115×東西[95]×深さ15	(楕円形)・皿状	
SK11	W60・S300	-	南北145×東西[115]×深さ5～30	(L字形)・柄杓状	

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方向	規模（cm）	平面形・断面形	時期
SX9	W50～60・S310～320	-	南北350×東西[220]×深さ30～55	(円形or楕円形)	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方向	規模（m）	平面形・断面形	時期
SD44	W50～60・S310	N-77°-E	長さ[1.90]×幅0.20～0.45×深さ0.02～0.08	ほぼ直線・皿状	

３区Ⅲ層

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・底面形状	時期
SK12	W80・S220	-	方90×深さ29	隅丸方形・U字形	
SK13	W80・S220	N-40°-E	長軸110×短軸82×深さ20	楕円形・幅広のU字形	
SK14	W80・S230	N-18°-W	長軸145×短軸60～85×深さ7	不整楕円形・柄杓状	
SK15	W80～90・S220	-	径115×深さ12～18	不整円形・不整形	近世
SK16	W80・S230	-	径90×深さ7～13	不整円形・皿状	

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方向	規模（cm）	平面形・断面形	時期
SX46	W80・S230	N-2°-W	長軸145×短軸20～45×深さ5	不整形・皿状	
SX50	W80～90・S220～230	N-62°-E	長軸715×短軸33～200×深さ14～58	溝状の不整形	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方向	規模（m）	平面形・断面形	時期
SD47	W60～100・S230～240	N-77°-E　N-83°-W	長さ[44.30]×幅0.70～1.10×深さ0.35～0.74	「へ」の字に屈折・漏斗形	
SD51	W80・S230～240	N-6°-E	長さ[5.90]×幅0.30～0.35×深さ0.01～0.04	ほぼ直線・皿状	
SD53	W60～90・S220～230	N-87°-W　N-71°-E	長さ[31.00]×幅1.30～2.15×深さ0.36～0.92	やや蛇行・逆台形	

ピット列

遺構番号	位置（グリッド）	主軸方位	ピット数	規模（m）	時期
45号	W80・S220～230	N-6°-W	5基	長さ4.50	

３区Ⅴ層

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規模（cm）	平面形・底面形状	時期
SK17	W90・S230	N-20°-E	長軸135×短軸102×深さ27	隅丸長方形・逆台形	
SK18	W70・S220	N-55°-E	長軸120×短軸95×深さ53	楕円形・U字形	
SK19	W70・S230	-	径[70]×深さ15～30	(円形)・U字形	
SK20	W60・S230	-	径70×深さ27	(ほぼ円形)・逆台形	
SK21	W100・S240	N-2°-E	長軸125×短軸95×深さ80	楕円形・U字形	
SK22	W100・S240	-	径95×深さ77	ほぼ円形・U字形	

河川跡

遺構番号	位置（グリッド）	方向	規模（m）	平面形・断面形	時期
SR52	W60～80・S210～220	東西	長さ[26.50]×幅[6.00]×深さ不明	不明	

性格不明遺構

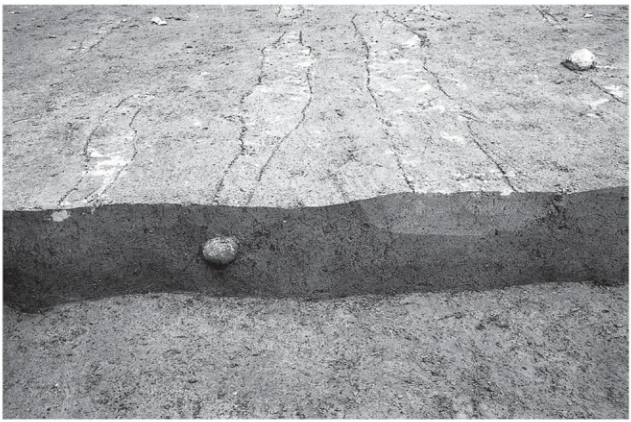
遺構番号	位置（グリッド）	方向	規模（cm）	平面形・断面形	時期
SX63	W70・S220	N-66°-W	長軸55×短軸25～40×深さ16	不整楕円形・U字形	
SX64	W70・S220	N-13°-E	長軸75×短軸50×深さ38	不整楕円形・概ねU字形	
SX65	W70・S230	N-7°-E	長軸300×短軸160×深さ15～40	不整形・皿状	
SX67	W70・S220	-	南北[60]×東西[30]×深さ30	不整形・矩形	
SX69	W60～70・S230	-	東西445×南北[270]×深さ15～35	(不整形)・皿状	
SX70	W100・S240	N-87°-E	長軸365×短軸110～320×深さ15～55	不整形・皿状	

第３表　遺構一覧表（３）

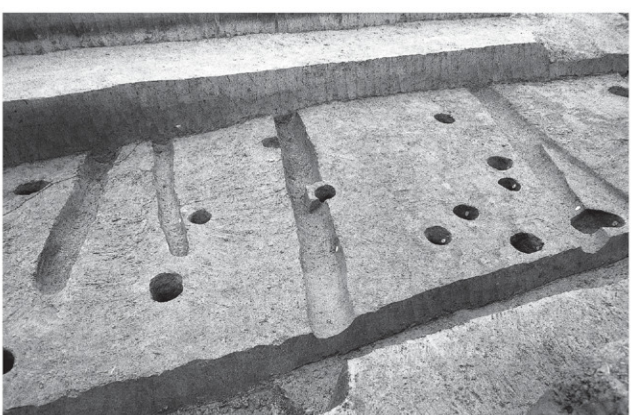
３区Ⅴ層
小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
Ⅰ-1	W90・S230	N-1°-E	長 2.20×幅0.35～0.45×深 0.06～0.23	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-2	W80・S220～230	N-1°-W	長 2.35×幅0.35～0.40×深 0.16～0.25	直線・U字形	
Ⅰ-3	W80・S230	N-1°-W	長 1.10×幅0.30～0.40×深 0.10～0.15	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-4	W80・S220	N-1°-W	長 3.10×幅0.35～0.50×深 0.11～0.17	直線・U字形	
Ⅰ-5	W70～80・S220～230	N-4°-E	長 5.765×幅0.25～0.40×深 0.11～0.25	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-6	W70・S220～230	N-4°-E	長 5.725×幅0.30～0.55×深 0.05～0.27	やや弧行・U字形	
Ⅰ-7	W70・S220	N-2°-E	長 3.385×幅0.30～0.35×深 0.04～0.13	直線・U字形	
Ⅰ-8	W70・S230	N-2°-W	長 5.270×幅0.35～0.40×深 0.24～0.38	直線・U字形	
Ⅰ-9	W70・S220	N-2°-E	長 3.395×幅0.20～0.45×深 0.13～0.20	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-10	W70・S220～230	N-2°-W	長 5.940×幅0.30～0.40×深 0.21～0.35	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-11	W60～70・S220	N-1°-W	長 5.190×幅0.30～0.35×深 0.10～0.11	直線・U字形	
Ⅰ-12	W60・S220～230	曲足	長 5.780×幅0.25～0.45×深 0.09～0.15	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-13	W60・S220	N-1°-E	長 5.155×幅0.40～0.45×深 0.13～0.20	直線・U字形	
Ⅰ-14	W60・S220～230	N-3°-E	長 5.875×幅0.25～0.45×深 0.13～0.28	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-15	W60・S220～230	N-2°-E	長 5.700×幅0.25～0.40×深 0.09～0.17	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-16	W60・S220～230	N-2°-E	長 5.850×幅0.25～0.40×深 0.09～0.16	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-17	W60・S220～230	N-2°-E	長 5.710.20）×幅0.20～0.40×深 5.0.06～0.20	ほぼ直線・U字形	
Ⅰ-18	W60・S220～230	N-4°-E	長 5.3.40）×幅0.30～0.40×深 5.0.21～0.35	直線・U字形	
Ⅱ-1	W90～100・S240	N-85°-W	長 5.6.65）×幅0.25～0.30×深 5.0.14～0.18	直線・U字形	
Ⅱ-2	W80～100・S240	N-85°-W	長 5.19.85）×幅0.20～0.35×深 5.0.07～0.18	やや湾曲・U字形	
Ⅱ-3	W90～100・S240	N-85°-W	長 5.8.10）×幅0.20～0.35×深 5.0.10～0.20	やや蛇行・U字形	
Ⅱ-4	W90～100・S240	N-88°-W	長 5.16.60）×幅0.20～0.35×深 5.0.10～0.18	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-5	W90～100・S240	N-81°-W	長 5.11.90）×幅0.15～0.30×深 5.0.08～0.19	やや蛇行・U字形	
Ⅱ-6	W100・S240	N-81°-W	長 5.1.95）×幅0.20～0.25×深 5.0.11～0.15	直線・U字形	
Ⅱ-7	W90～100・S240	N-88°-W	長 5.10.50）×幅0.15～0.30×深 5.0.07～0.15	ほぼ直線・U字形	
Ⅱ-8	W100～110・S240	N-86°-W	長 5.12.50）×幅0.20～0.35×深 5.0.12～0.14	直線・U字形	
Ⅱ-9	W100～110・S240～250	N-88°-W	長 5.13.25）×幅0.25～0.40×深 5.0.17～0.21	ほぼ直線・U字形	
Ⅲ-1	W70・S220	N-19°-W	長 5.270×幅0.30～0.40×深 5.0.19～0.24	ほぼ直線・U字形	
Ⅲ-2	W70・S220	N-23°-W	長 5.395×幅0.20～0.30×深 5.0.07～0.15	やや湾曲・U字形	
Ⅲ-3	W60・S220～230	N-10°-W	長 5.965×幅0.25～0.40×深 5.0.10～0.25	やや蛇行・U字形	
Ⅲ-4	W60・S220～230	N-11°-W	長 5.10.60×幅0.20～0.40×深 5.0.07～0.25	ほぼ直線・U字形	
Ⅲ-5	W60・S220～230	N-16°-W	長 5.11.05）×幅0.20～0.40×深 5.0.07～0.20	ほぼ直線・U字形	

伊古田B遺跡写真図版

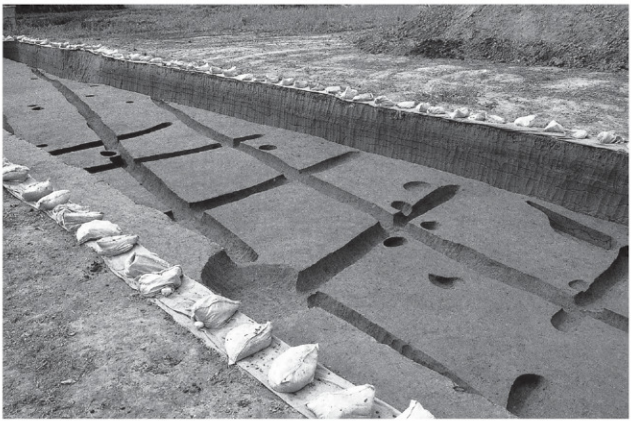


１Ａ区Ⅲ層水田跡火山灰範囲（西より）



１Ａ区Ⅴ層西側全景（北より）

写真図版1　伊古田B遺跡（1）



１Ｂ区Ⅴ層中央部全景（南東より）

３区Ⅴ層全景（西より）

写真図版２　伊古田Ｂ遺跡（２）

１Ｃ区Ｖ層全景（南東より）

２Ａ区Ｖ層全景（北西より）

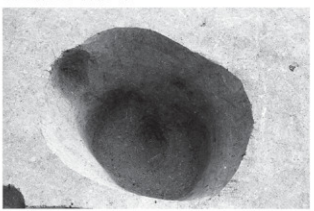
２Ｂ区Ｖ層全景（南より）

２Ｃ区Ｖ層全景（北より）

写真図版３　伊古田Ｂ遺跡（３）

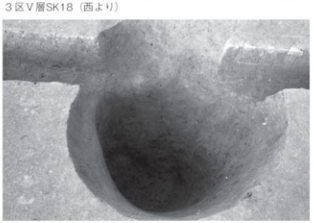
３区Ⅲ層SK15（南東より）

３区Ⅲ層SX50（西より）



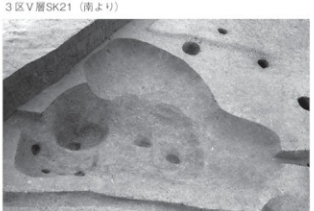
３区Ⅴ層SK18（西より）

３区Ⅴ層SK20（東より）



３区Ⅴ層SK21（南より）

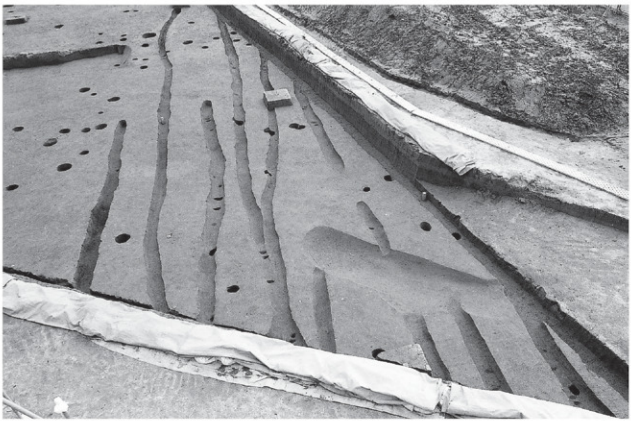
３区Ⅴ層SK22（南より）



３区Ⅴ層SK22・SX70（南より）

３区Ⅴ層SX65（西より）

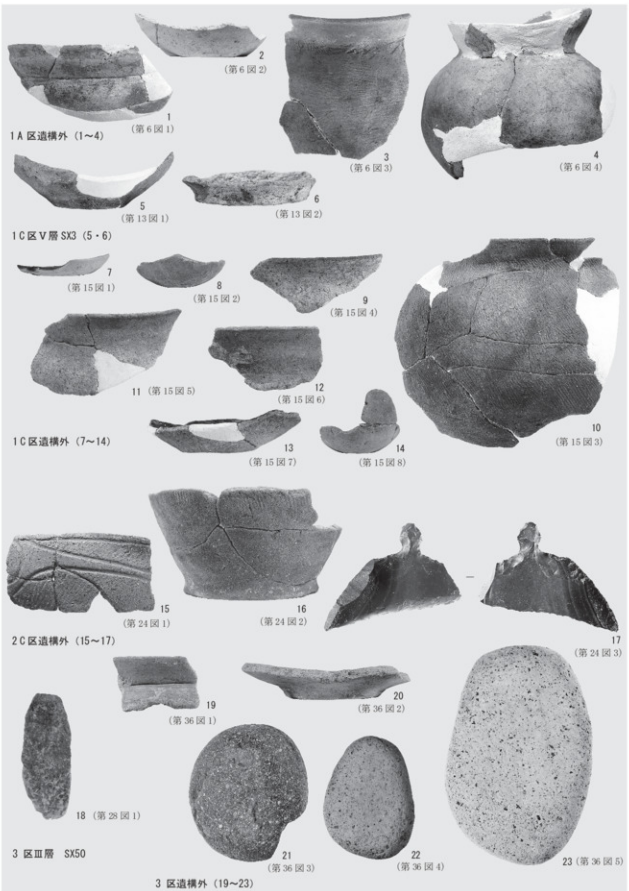
写真図版４　伊古田Ｂ遺跡（４）



３区Ⅴ層南西部小溝状遺構群（北より）

３区Ⅴ層中央から北東側小溝状遺構群（南より）

写真図版５　伊古田Ｂ遺跡（５）



写真図版６　伊古田Ｂ遺跡出土遺物

第４節　下ノ内遺跡

１．調査要項

（１）遺 跡 名：下ノ内遺跡（宮城県遺跡登録番号01425）
（２）所 在 地：仙台市太白区富沢四丁目、大野田字五反田
（３）調査面積：約4,230㎡
・平成11年度：約915㎡（１Ａ・１Ｂ・１Ｃ・１Ｄ区）
・平成12年度：約1,590㎡（２Ａ・２Ｂ・２Ｃ区）
・平成13年度：約960㎡（３Ａ区）
・平成14年度：約620㎡（４Ａ・４Ｂ区）
・平成15年度：約145㎡（５Ａ・５Ｂ区）
（４）調査主体：仙台市教育委員会
（５）調査担当：仙台市教育委員会文化財課
（６）担当職員
・平成11年度：小川淳一・佐藤　洋・渡部　紀
・平成12年度：金森安孝・我妻　仁・阿部博朗・伊東真文
・平成13年度：荒井　格・阿部博朗・篠原信彦
・平成14年度：吉岡恭平・阿部博朗・豊村宏幸・宮内　周
・平成15年度：佐藤　淳・橋本顕嗣
（７）調査期間
（野外調査）・平成11年度：平成11年４月19日～12月27日
・平成12年度：平成12年６月９日～平成13年３月13日
・平成13年度：平成13年４月12日～８月６日
・平成14年度：平成14年４月15日～11月15日
・平成15年度：平成15年11月18日～11月26日
（整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で一括最終整理を実施した。
・平成22年６月18日～平成23年３月31日

２．１Ａ区の調査

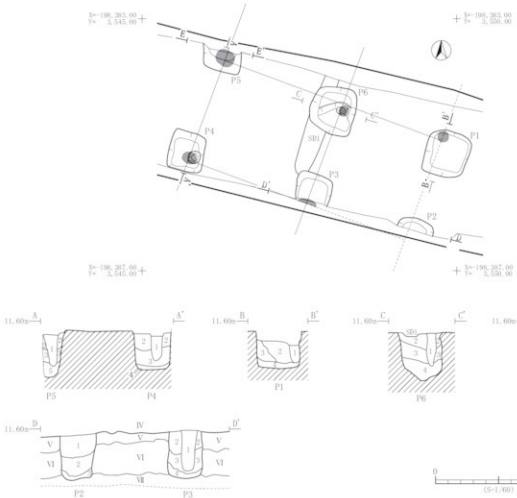
１Ａ区では基本層Ⅴ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、掘立柱建物跡１棟、溝跡１条、小溝状遺構群２群、ピット１基を検出した。

（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物（第１図、図版１）

１）掘立柱建物跡

SB２掘立柱建物跡（第２図、図版１）　Ｗ250～260・Ｎ20グリッドで検出した。調査区の制約から、掘立柱建物跡の一部のみを検出した。SD１と重複関係にあり、本遺構が古い。検出規模は桁行１間（東列南から1.65m、西列南から1.65m）、梁行２間（北列西から2.00m＋1.65m、総長3.65m・南列西から2.00m）の建物であり、桁行柱列方向はＮ-19°-Ｅの総柱建物と思われる。柱抜き取り痕を除いた柱穴掘り方の規模は長軸63～75㎝・短軸56～68㎝の方形あるいは隅丸方形である。検出面からの深さは57～75㎝である。Ｐ１・３～６から長軸15～30㎝の柱痕跡を検出した。遺物は出土していない。

第１図　下ノ内遺跡１Ａ区Ｖ期遺構配置図



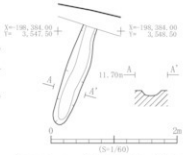
遺構	層位	土色	土性	備考
SB2 P1	1	10YR6/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	下部がグライ化している。（柱痕）
	2	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロックを含む。
	3	10YR5/3にぶい黄褐色	-	にぶい黄褐色シルトと灰黄褐色シルトのブロック（φ30mm）を含む。
	4	10YR7/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトのブロック（φ20mm）を含む。
SB2 P2	1	10YR6/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	にぶい黄橙色シルトとにぶい黄橙色シルトのブロック（φ30mm程）、マンガン斑を多く含む。
	2	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色土とにぶい黄橙色シルトのブロック（φ30mm程）、マンガン斑を多く含む。
	3	10YR5/3にぶい黄褐色	-	にぶい黄褐色粘土質シルトとにぶい黄橙色砂をブロック状に含む。締まりが上層より弱い。
SB2 P3	1	10YR6/1褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄斑を多く含み、締まりが弱い。（柱痕）
	2	10YR6/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトのブロック（φ10～50mm）、マンガン斑を多く含む。
	3	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄橙色シルトのブロック（φ10mm以下）を少量、マンガン斑を多く含む。炭化物片をわずかに含む。
	4	10YR7/3にぶい黄橙色	-	にぶい黄橙色砂とにぶい灰黄褐色粘土質シルトをブロック状（φ10mm程）に混在。締まりが弱い。
SB2 P4	1	10YR6/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	にぶい黄橙色シルトの鍛粒が混じり、締まりが弱い。（柱痕）

遺構	層位	土色	土性	備考
SB2 P4	2	10YR6/4にぶい黄橙色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトのブロック（φ30mm）、炭化物片をわずかに含む。
	3	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄橙色シルトのブロック（φ30mm）を含む。
	4	10YR7/2にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトのブロック（φ20mm）、砂を含む。
SB2 P5	1	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	締まりが弱い。（柱痕）
	2	10YR6/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	下層に類似。色調は下層より若干明るい。
	3	10YR5/2灰黄褐色	-	灰黄褐色粘土質シルトとにぶい黄橙色粘土質シルトをブロック状に含み、にぶい黄橙色砂のブロック（φ20mm程）、炭化物片をわずかに含む。
	4	10YR6/4にぶい黄橙色	-	にぶい黄橙色粘土質シルトとにぶい黄橙色砂をブロック状に含む。締まりが弱い。
	5	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物片をわずかに含む。締まりが弱い。
SB2 P6	1	10YR5/1褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄斑を含む。（柱痕）
	2	10YR6/4にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロックを含む。
	3	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトのブロック（φ30～50mm）とにぶい黄橙色土の小ブロックを含む。
	4	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトの小ブロックを含む。

第２図　SB２掘立柱建物跡平面図・断面図

２）溝　跡

SD１溝跡（第３図）　W260・N20グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びる。SB2と重複関係にあり、本遺構が新しい。検出長1.48m、幅20～33cm、深さ５～７cmで、方向はN-20°-Eである。断面形はU字形である。遺物は出土していない。



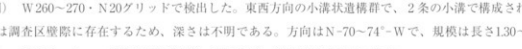
第３図　SD１溝跡平面図・断面図

３）小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群である。方向と重複関係からⅠ・Ⅱ群に分けられ、Ⅰ群からⅡ群への変遷が追える。

Ⅰ群（第1・4図）　W270・N20グリッドで検出した。南北方向の小溝状遺構群で、２条の小溝で構成されている。方向はN－３～10°－Eで、検出長1.42～1.55m、幅20～30cm、深さ５cm、小溝の間隔は1.4m程である。遺物は出土していない。

Ⅱ群（第1・4図）　W260～270・N20グリッドで検出した。東西方向の小溝状遺構群で、２条の小溝で構成されているが、Ⅱ－２は調査区壁際に存在するため、深さは不明である。方向はN－70～74°－Wで、規模は長さ1.30～4.10m、幅20～50cm、深さ５～７cm、小溝の間隔は0.50m程である。遺物は出土していない。



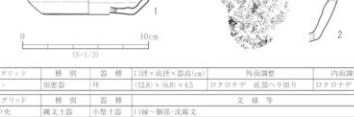
第４図　小溝状遺構群断面図

４）ピット（第１図）

ピットは１基検出した。調査区西側のW260・N20グリッドに位置し、径25cm、深さ８cmである。遺物は出土していない。

（２）遺構外出土の遺物（第５図、図版22）

第５図に図示した。１は須恵器の坏で、平底である。口径に対する底部法量比が大きいことから、８世紀後半の所産と考えられる。縄文時代の遺物は縄文土器が少量出土し、１点を図示した。２は小型の鉢である。口縁部直下に横位の沈線が巡り、胴部には縦位の鋸歯状沈線文がみられる。器面全体に成形時の指頭圧痕が残る。



No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	E-1	Ⅲ	-	須恵器	坏	(12.8)×(6.8)×4.5	ロクロナデ　底部ヘラ切り	ロクロナデ		22-1

No.	登録番号	層　位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
2	A-2	Ⅷ	中央	縄文土器	小型土器	口縁～胴部:沈線文		22-2

第５図　遺構外出土遺物

３．１B区の調査

１B区ではⅢ層上面（古代～近世の遺構検出面）において、掘立柱建物跡１棟、井戸跡１基、土坑24基、河川跡１条、性格不明遺構２基、ピット列１列、溝跡12条、ピット664基を検出した。Ⅴ・Ⅵ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡３軒、掘立柱建物跡２棟、土坑４基、性格不明遺構１基、溝跡２条、小溝状遺構群５群、ピット145基を検出した。Ⅷ層上面（縄文時代の遺構検出面）において、性格不明遺構１基を検出した。Ⅸ層上面（縄文時代の遺構検出面）において、性格不明遺構１基を検出した。Ⅺ層は上面・中位に細分され、上面（縄文時代中期～後期の遺構検出面）において竪穴住居跡１軒、理設土器５基、性格不明遺構３基、ピット２基を検出した。中位（縄文時代中期末葉の遺構検出面）において土坑５基、性格不明遺構５基を検出した。Ⅻ層上面（縄文時代中期中葉の遺構検出面）において掘立柱建物跡１棟、土坑38基、性格不明遺構１基、ピット56基を検出した。ピットは

W230
Y=3470
W220
Y=3480
W210
Y=3490
W200
Y=3500
Y=3505
Y=3475
Y=3485
Y=3495
X=198355
N40
X=198360
X=198365
N30
X=198370
X=198375
N20
X=198380
X=198385
N10
X=198390
X=198395
N0-S0
X=198400
X=198405
S10
X=198410
SR3溝状リトレンチ
SR3
SK43
SK40
SK41
SK39
SK42
SD7
SD6
SK35
SK36
SK37
SK38
SK44
SK45
SK46
SK47
SK48
SK49
SK50
SK51
SK52
SK53
SK54
SK55
SK56
SK57
SK58
SK59
SK60
SK61
SK62
SK63
SK64
SK65
SK66
SK67
SK68
SK69
SK70
SK71
SK72
SK73
SK74
SK75
SK76
SK77
SK78
SK79
SK80
SK81
SK82
SK83

建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

（１）Ⅲ層検出の遺構と遺物（第６図）

１）掘立柱建物跡

SB47掘立柱建物跡（第７図）　W330・N10～20グリッドに位置する。桁行３間（東列北から1.95m＋1.95m＋1.80m、総長5.70m、西列北から1.80m＋1.95m＋1.65m、総長5.40m）、梁行１間（北列西から3.75m、南列西から3.75m）の南北棟の建物である。桁行柱列方向はN－2°－Eである。柱穴掘り方の規模は長軸46～87cm、短軸35～50cmの不整円形・隅丸方形・楕円形である。柱痕はP１～８で確認され、直径10～21cmである。遺物は出土していない。

２）井戸跡

SE38井戸跡（第８図）　W330・N20グリッドで検出した。SD８、P117と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形、断面形は漏斗形である。規模は径1.54m、深さ2.80m以上で、底面までの深さは不明である。堆積土は３層に分層され、遺物は出土していない。

３）土　坑

SK12土坑（第９図）　W310・N20グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で、規模は径120cm、深さ26cmで、壁面は急角度で立ち上がり、断面形は幅広のU字形である。底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は、山茶碗窯系の無釉陶器片口鉢と銅板転写の染付碗片が出土した。

SK13土坑（第９図）　W320・N10グリッドで検出した。SK16、P422・432と重複関係にあり、SK16より新しく、他の遺構より古い。平面形は台形で、長軸方向はN－87°－Wである。SK16と重複している箇所に礫が６個並べられている。規模は長軸250cm、短軸90～160cm、深さ12～16cmで、断面形は皿状である。底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は、須恵器甕の小片と瓦器小片が出土し、後者を第12図１に図示した。獣足の破片で、手焙りの脚部の可能性が考えられる。中世以降の製品である。

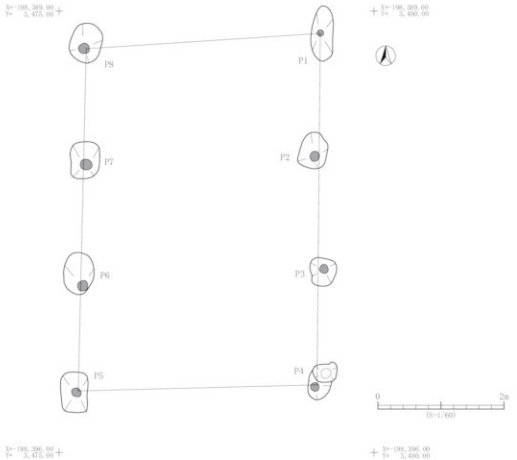
SK14土坑（第９図）　W320・N10グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN－７°－Eである。規模は長軸86cm、短軸70cm、深さ10cmで、壁面はほとんど残存していない。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。遺物は、瀬戸産磁器皿、中国産青磁碗の小片が出土し、前者を第12図２に図示した。線刻文小皿で、19世紀前半～中葉の製品である。

SK15土坑（第９図）　W320・N10グリッドで検出した。P427と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN－82°－Wである。規模は長軸110cm、短軸86cm、深さ７cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

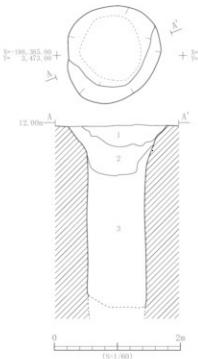
SK16土坑（第９図）　W320・N10グリッドで検出した。SK13、P540と重複関係にあり、P540より新しく、SK13より古い。平面形は不整な楕円形で、長軸方向はN－86°－Eである。規模は長軸350cm、短軸44～140cm、深さ２～10cm、断面形は皿状で、底面はやや東側に傾斜している。堆積土は３層に分層される。遺物は、肥前系染付磁器小杯、大堀相馬産皿、肥前産陶器皿の小片が出土し、肥前産染付磁器小杯を第12図３に図示した。19世紀前半の製品である。

SK17土坑（第９図）　W320・N10グリッドで検出した。SD33、P549と重複関係にあり、SD33より新しく、P549より古い。平面形は不整な楕円形で、長軸方向はN－33°－Wである。規模は長軸140cm、短軸80cm、深さ５～12cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は柄杓状で、底面には段差があり、北西側が高く、南東側が低い。遺物は出土していない。

SK18土坑（第９図）　W320・N10グリッドで検出した。SD33と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は長方形で、長軸方向はN－86°－Wである。規模は長軸63cm、短軸44cm、深さ42cmで、壁面の西側と北側はほぼ垂直



第７図　SB47掘立柱建物跡平面図



遺構	層位	土色	土性	備考
SE38	1	10YR4/2暗黄褐色	シルト	明黄褐色砂質シルトブロックを含む。
	2	10YR6/8明黄褐色	シルト	炭化物粒・地土粒を含む明黄褐色シルトブロック。
	3	5G4/1暗緑灰色	粘土	木片・枝・丸太・礫を多く含む。丸太の一部には加工痕がある。礫は20～30cm大で、焼けたものも含まれる。

第８図　SE38井戸跡平面図・断面図

に立ち上がるが，東側と南側はやや開きぎみに立ち上がる。断面形はU字形で，底面はほぼ平坦である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK19土坑（第９図）　W320～330・N10グリッドで検出した。SD33、P532と重複関係にあり、SD33より新しく、他の遺構より古い。平面形はほぼ円形で、規模は径80cm、深さ25cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は幅広のU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK20土坑（第９図）　W320・N10グリッドで検出した。P553と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形はほぼ円形で、規模は径70cm、深さ７cm、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

SK21土坑（第９図）　W330・N10グリッドで検出した。SD33、P529・530と重複関係にあり、SD33より新しく、他の遺構より古い。平面形はほぼ円形で、規模は径120cm、深さ51cm、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK26土坑（第９図）　W330・N10グリッドで検出した。SD33と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、規模は長軸120cm、短軸98cm、深さ20cmで、長軸方向はN-76°-Eである。断面形は幅広のU字形で、壁面は急角度で立ち上がる。底面は擂鉢状である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK27土坑（第９図）　W330・N10グリッドで検出した。SK32、P504と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-8°-Wである。規模は長軸80cm、短軸60cm、深さ12cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は幅広のU字形で、底面には凹凸がある。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK28土坑（第10図）　W330・N10グリッドで検出した。SD33と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で、規模は径94cm、深さ22cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は３層に分層され、２層は細分される。遺物は出土していない。

SK29土坑（第10図）　W330・N10グリッドで検出した。SD35、P315・316と重複関係にあり、SD35より新しく、他の遺構より古い。平面形は不整な楕円形で、長軸方向はN-71°-Wである。規模は長軸102cm、短軸55cm、深さ10～22cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

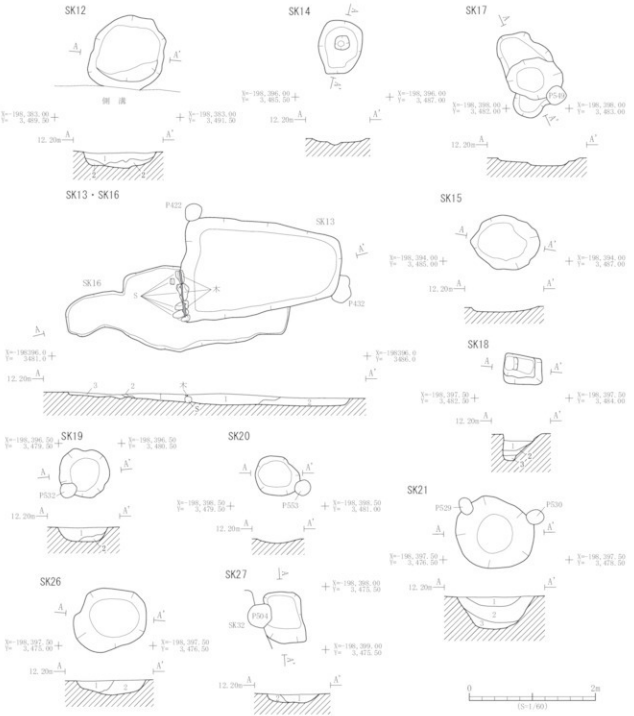
SK30土坑（第10図）　W330・N10グリッドで検出した。SD35、P288・289と重複関係にあり、SD35より新しく、他の遺構より古い。平面形はほぼ円形で、規模は長軸85cm、短軸70cm、深さ38cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は３層に分層され、１層は細分される。遺物は出土していない。

SK31土坑（第10図）　W330・N0-S0グリッドで検出した。P610・611・615と重複関係にあり、P611より古く、他の遺構より新しい。平面形は不整円形で、規模は径145cm、深さ１～８cm、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面には凹凸があり、ピット状の窪みが３ヶ所確認された。堆積土は単層である。遺物は、近世土器が出土し、第12図４に図示した。灯明皿として使用されたかわらけで、口唇部には煤が付着している。

SK32土坑（第10図）　W330・N10グリッドで検出した。SK27、46号ピット列P２、P504・506と重複関係にあり、SK27より新しく、その他の遺構より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-13°-Wである。規模は長軸134cm、短軸72cm、深さ４cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

SK37土坑（第10図）　W320・N10グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。Ⅲ層で検出したが、Ⅱ層からの掘り込みを確認した。SX36、P568と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と思われ、規模は南北50cm、東西の検出長30cm、深さ40cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK39土坑（第10図）　W300～310・N30グリッドで検出した。撹乱で東部を削平されている。平面形は不明で



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SK12	1	10YR6/2にぶい黄橙色	シルト	炭化物片と意図ブロック(φ5cm)をわずかに含む。
	2	10YR6/1褐灰色	粘土質シルト	炭化物片と意図ブロック(φ3cm)をわずかに含む。
SK13	1	10YR8/2灰白色	砂	酸化鉄斑を含む。
	2	10YR5/1褐灰色	砂質シルト	にぶい黄橙色砂質シルトブロックを含む。
SK16	1	10YR7/1灰白色	シルト質粘土	にぶい黄橙色シルト質粘土ブロック(φ20mm)と炭化物片をわずかに含む。
	2	10YR8/2灰白色	砂	–
	3	10YR5/1褐灰色	シルト質粘土	褐灰色シルト質粘土ブロック(φ50mm)と灰白色シルト質粘土ブロック(φ10mm)を含む。
SK18	1	10YR6/1褐灰色	粘土質シルト	マンガン粒を多く含む。
	2	10YR6/1褐灰色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルトブロック(φ20mm)とにぶい黄橙色粘土質シルトブロック(φ20mm)を含む。
	3	10YR7/4にぶい黄橙色	粘土質シルト	にぶい黄橙色粘土質シルトブロック(φ30mm)と褐灰色粘土質シルトブロック(φ30mm)を含む。

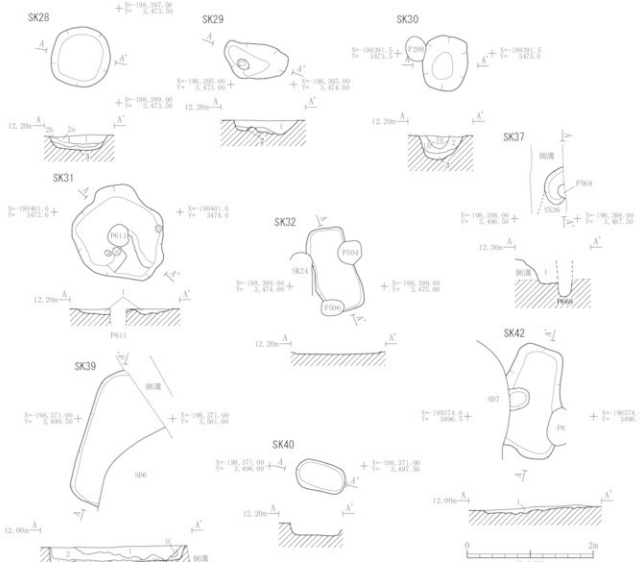
遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SK19	1	10YR4/1褐灰色	砂質シルト	地土粒・炭化物片・意図ブロック(φ10mm)を含む。
	2	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	地土粒・炭化物片・意図ブロック(φ10mm)を含む。
SK23	1	10YR4/1褐灰色	砂質シルト	黒色粘土質シルトブロック・地土ブロックを含む。
	2	10YR2/1黒色	粘土質シルト	炭化物・灰と昔・苫層ブロック(φ30mm以下)を含む。
SK26	3	10YR2/1黒色	粘土質シルト	黒色粘土質シルトブロックと苫・V層ブロックを含む。
	1	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルトブロックと黒褐色粘土質シルトブロック、地土・炭化物・意図ブロック(φ20mm)を含む。
	2	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	褐灰色土ブロック(φ30mm)と昔・苫層ブロック(φ30mm・地土・炭化物をわずかに含む。
SK27	1	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	炭化物と意図ブロック(φ10mm)を含む。
	2	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物と意図ブロック(φ5mm)を含む。

第９図　SK12～21・26・27土坑平面図・断面図

ある。検出長は南北220cm、東西120cm、深さ25cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は４層に分層される。遺物は、山茶碗窯系無釉陶器片口鉢の小片が出土した。

SK40土坑（第10図）　W310・N30グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-75°-Wである。規模は長軸80cm、短軸47cm、深さ９～15cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

SK42土坑（第10図）　W310・N30グリッドで検出した。SD７、Ｐ８と重複し、本遣構が古い。平面形は不整隅丸長方形で、長軸方向はN-７°-Eである。規模は長軸175cm、短軸90cm、深さ８cmで、壁面は緩やかに立ち上が



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SK28	1	10YR3/2にぶい黄褐色	砂質シルト	黄褐の小ブロックをわずかに含む。
	2a	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	黄褐の小ブロックを多く含む。
	2b	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	灰・炭化物、黄褐ブロック（φ10mm以下）を多く含む。
	3	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	黄褐ブロックに黄褐ブロック（φ20mm）と褐灰色粘土質シルトブロックをわずかに含む。
SK29	1	10YR5/1褐灰色	粘土質シルト	にぶい黄橙色砂質シルトブロック（φ10mm）、炭化物片をわずかに含む。
	2	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルト（灰褐ブロック（φ10mm）と黄褐ブロック（φ5mm）を含む。
SK30	1a	10YR6/1褐灰色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルト層ブロックと炭化物片、上面に灰のブロックを含む。
	1b	10YR3/2にぶい黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトと灰・炭化物の混在層。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SK30	2	10YR6/1褐灰色	粘土質シルト	黄褐ブロック（φ5mm）を含む。
	3	10YR7/2にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰・炭化物とにぶい黄橙色粘土質シルト（5Y8/4）を含む。
SK31	1	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	黄褐ブロック（φ20mm）・にぶい黄橙色砂質シルトブロック（φ20mm）・灰白色砂質シルトブロック（φ20mm）を含む。
SK39	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物・灰、黄褐ブロック（φ20mm）を含む。
	2	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物・灰、黄褐のブロック（φ30～50mm）を多く含む。
	3	10YR5/1褐灰色	粘土質シルト	炭化物・灰、黄・黄褐小ブロックをわずかに含む。
	4	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	炭化物・灰を多く含む。
SK42	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	種・炭化物を少量含む。

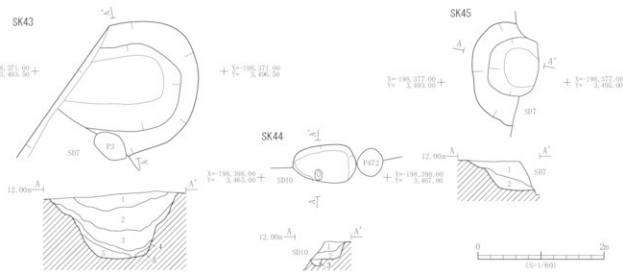
第10図　SK28～32・37・39・40・42土坑平面図・断面図

る。断面形は皿状で、底面には凹凸があり、南に傾斜している。遺物は出土していない。

SK43土坑（第11図）　W310・N30グリッドで検出し、西部を撹乱で削平されている。P3と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN－86°－Eである。規模は南北215㎝、東西215㎝、深さ102㎝で、壁面は底面から急角度で立ち上がり、上半はやや開きぎみとなる。断面形は漏斗形で、底面は擂鉢形である。堆積土は５層に分層され、４層から出土した炭化種実を分析した。遺物は、須恵器甕の小片及び鉄片が出土している。

SK44土坑（第11図）　W340・N10グリッドで検出した。SD10と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と思われる。規模は東西の検出長100㎝、南北の検出長60㎝、深さ25～33㎝で、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦であるが、ピット状の掘り込みを１ヶ所検出した。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

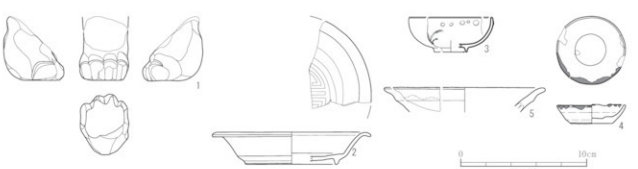
SK45土坑（第11図）　W310・N30グリッドで検出した。SD7と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と思われる。規模は南北の検出長162㎝、東西の検出長105㎝、深さ48㎝で、壁面は底面から急角度で立ち上がり、



遺構	層位	土色	土性	備考
SK43	1	10YR3/3暗褐色	シルト	黄褐色粘土質シルトブロックを多量、炭化物・礫を少量含む。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	黄褐色粘土質シルトブロック・炭化物・礫を少量含む。
	3	10YR3/3暗褐色	粘土	灰黄褐色粘土ブロックを多量、炭化物・炭化木を少量含む。
	4	10YR3/2黒褐色	粘土	炭化種を多量、焼土ブロックを少量含む。
	5	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土	鉄分・炭化物を少量含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
SK44	1	10YR6/2灰黄褐色	シルト	黄褐ブロックを含む。
	2	10YR4/1褐灰色	シルト	黄褐ブロックを含む。
	3	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	礫まりが弱い。
SK45	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	黄褐小ブロックを多量、炭化物粒を少量含む。
	2	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物粒・灰を多量含む。

第11図　SK43～45土坑平面図・断面図



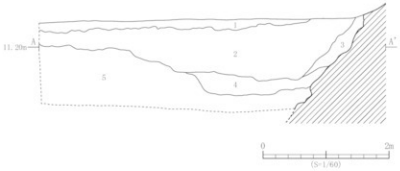
No.	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	特徴	産地	時期	写真図版
1	1-1	SK13	1・2	瓦質	-	幅3.8×厚4.7×現5.0	手づくね　撥足	在地	不明	22-3
2	1-1	SK14	1	磁器	染付小皿	(11.8)×(6.1)×2.6	ロクロ　整形し　白磁	肥前	19世紀前半	22-4
3	1-2	SK16	3	磁器	染付小鉢	(6.6)×(2.6)×2.7	ロクロ　外面-円形浮文・草花文	肥前	19世紀前半	22-5
4	D-1	SK31	1	土器	灯明皿	5.6×3.2×1.5	ロクロ　口唇部-煤付着	-	近世	22-6
5	1-2	SK45	-	施釉陶器	擂鉢小鉢	(12.5)×-×現1.9	ロクロ　口縁部-灰釉	古瀬戸	15世紀末	22-7

第12図　土坑出土遺物

上半はやや開きぎみとなる。断面形は漏斗形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は、中世陶器小片が出土し、第12図５に図示した。古瀬戸縁釉小皿で、15世紀末の製品である。

４）河川跡

SR３河川跡（第６・13図）　W310～320・N40～50グリッドで検出した。東西方向で、幅15m以上の規模と思われたため、南北方向にトレンチを設定し、深さ約1.40mまで掘り下げて調査を行った。堆積土は調査した深度までで５層に分層される。遺物は出土していない。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SR3	1	10YR6/4にぶい黄橙色	砂	-
	2	10YR6/2灰黄褐色	砂質シルト～砂	全体にマンガン斑、酸化鉄の薄層がある。中位に薄い粘土層がはさまる。
	3	-	-	10YR7/4にぶい黄橙色砂・10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト（Ⅳ層ブロック）・10YR8/4浅黄橙色粘土質シルト（Ⅲ層ブロック）を含む。
	4	-	-	10YR6/4にぶい黄橙色砂と10YR6/1褐灰色砂が互層を形成。
	5	-	-	10YR6/3・7/2にぶい黄橙色砂が互層を形成。下位に向かい粒子が粗くなる。

第13図　SR３河川跡断面図

５）性格不明遺構

SX36性格不明遺構（第14図）　W320・N0-S0～N10グリッドで検出した。Ⅲ層で検出したが、Ⅱ層からの掘り込みを確認した。東側の調査区外へ延びるため、形状、深さとも不明であるが、検出した規模は、南北320㎝、東西80㎝である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SX41性格不明遺構（第14図）　W310・N30～40グリッドで検出した。平面形は溝状で弧状に湾曲している。長軸方向はN-23°-Eである。規模は長軸385㎝、短軸35～90㎝、深さ４～17㎝で、断面形は逆台形で、底面には段差を有する。遺物は出土していない。

６）ピット列

46号ピット列（第15図）　W330・N10グリッドで検出した。方向は東西正方位である。SD10、SK32、P511・539と重複関係にあり、本遺構が新しい。検出したピット列の総長は5.86mで、長楕円形・隅丸長方形の大きなピット４基により構成されている。各ピットの間隔は西から1.80m、1.80m、2.25mである。また、各ピットには南北方向に並列する形で底面が２ヶ所認められることから、２本一組の柱を東西方向に連ねて柵あるいは門を構築したものではないかと考えられる。各ピットの規模は長軸107㎝～142㎝、短軸35～55㎝、深さ20～65㎝で、ピットの間隔は約１m、柱痕跡の径は20㎝前後である。堆積土は６層に分層される。遺物は出土していない。

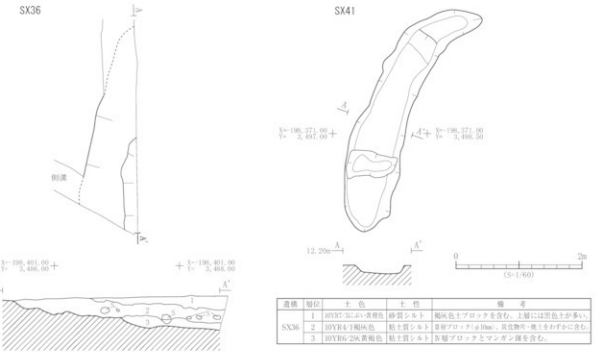
７）溝　跡

SD４溝跡（第６・16図）　W300・N20～30グリッドで検出した。P102・105・106・466と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-10°-Eで、規模は長さ5.70m、幅70～98㎝、深さ12～33㎝である。断面形は幅広のU字形で、堆積土は単層である。遺物は、内黒土師器坏小片が出土した。

SD５溝跡（第６・16図）　W300・N20～30グリッドで検出した。P96・99・100・665と重複関係にあり、P96・100より新しく、他の遺構より古い。方向はN-10°-Eで、規模は長さ7.20m、幅58～93㎝、深さ13～16㎝である。断面形は幅広のU字形で、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

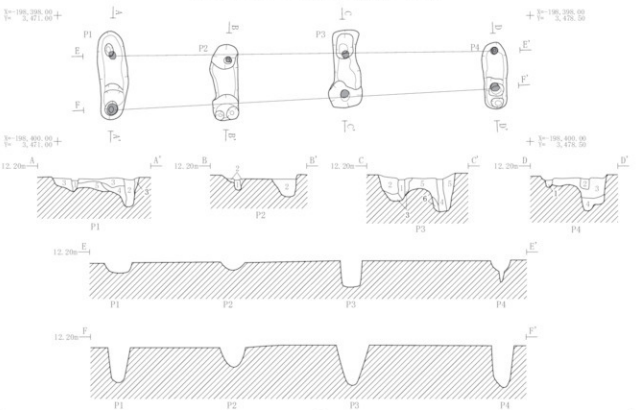
SD６溝跡（第６・16図）　W300～310・N20～30グリッドで検出した。SK39、P51・82・84と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-10°-Eで、規模は長さ12.10m、幅350～450㎝、深さ68～180mである。断面形は漏斗形で、堆積土は５層に分層される。３～５層出土の炭化種実、炭化材の樹種同定を行った。

SD７溝跡（第６・16図）　W310・N20～30グリッドで検出した。SK42・43・45、P３と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向は南北方向がN-15°-E、東西方向がN-75°-Wのほぼ直角に屈折して鉤の手状になる。規模は



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SX36	1	10YR7/3にぶい黄橙色	砂質シルト	褐灰色土ブロックを含む。上層には黒色土が多い。
	2	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	B層ブロック(φ10mm、炭化物片・焼土をわずかに含む。
	3	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	B層ブロックとマンガン調を含む。

第14図　SX36・41性格不明遺構平面図・断面図



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
46号ピット列P1	1	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	(柱痕)
	2	10YR7/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	(柱痕)
	3	10YR6/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	にぶい黄橙色粘土質シルトと褐灰色粘土質シルトの混在。炭化物片を含む。
	4	10YR6/1褐灰色	粘土質シルト	にぶい黄橙色粘土質シルトの小ブロックを含む。
	5	10YR4/1褐灰色	砂質シルト	にぶい黄橙色粘土質シルトの小ブロックを含む。
46号ピット列P2	1	10YR5/1褐灰色	粘土質シルト	(柱痕)
	2	10YR5/1褐灰色	-	褐灰色土主層ブロック(φ20mm)で混在。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
46号ピット列P3	1	10YR6/2灰黄褐色	粘土	(柱痕)
	2	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	主層ブロックを含む。
	3	10YR6/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルトのブロックを含む。
	4	10YR5/2灰黄褐色	粘土	
	5	10YR5/1褐灰色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルト主層がブロック(φ30mm)で混在。
	6	10YR6/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルトのブロックを含む。
46号ピット列P4	1	10YR6/1褐灰色	粘土質シルト	(柱痕)
	2	10YR6/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	(柱痕)
	3	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	主層ブロック(φ30mm)を含む。
	4	10YR5/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	にぶい黄橙色粘土質シルトと褐灰色粘土質シルトがブロック(φ30mm)で混在。

第15図　46号ピット列平面図・断面図

長さ13.50m、幅220～380cm、深さ108～112cmである。断面形は逆台形である。堆積土は11層に分層され、３層は細分される。遺物は、内黒土師器坏小片と土師器甕小片、鉄製品、石製品が出土し、このうち鉄製品１点を第17図10に図示した。紡錘車の軸である。先端の紡錘鈎が遺存している。薄く華奢な作りである。

SD８溝跡（第６・16図）　W330～340・N10～20グリッドで検出した。SD９・48、SE38、P153・154・163・166・271・273・275・282～284・287・293・294・311・312と重複関係にあり、P1231より新しく、他の遺構より古い。方向は南北方向がN-15°-E、東西方向がN-86°-Wのほぼ直角に屈折して逆L字状になり、南東隅が途切れる。規模は長さ17.00m、幅100～150cm、深さ55～65cmである。断面形は逆台形またはU字形である。堆積土は４層に分層される。遺物は、近世陶器、石製品が出土し、第17図に図示した。１は古瀬戸緑釉小皿で、口唇部に緑がかった灰釉が施釉されており、15世紀末の製品と考えられる。２は大堀相馬産の碗で鉄釉が施されており、19世紀前半の製品と考えられる。７は砥石である。上端は摩り切れており、下端は自然面が残されている。

SD９溝跡（第６・16図）　W330～340・N10～20グリッドで検出した。SD8・10・48、P137・139～141・143・159・250～252・256・265～270・454・455と重複関係にあり、SD10以外の遺構より古い。SD10との新旧関係は不明であり、同一の溝跡の可能性がある。方向は南北正方位で、規模は長さ11.60m、幅203～252cm、深さ69～113cmである。断面形はV字形ないしは逆台形で、堆積土は５層に分層される。遺物は出土していない。

SD10溝跡（第６・16図）　W330～340・N0-S0～N10グリッドで検出した。46号ピット列P1、SD９・33、SK44、P456・458・464・467～470・472・487・501・509・511・512・573・574・576・577・580・581・586・606と重複関係にあり、SD33、SK44より新しく、他の遺構より古い。なお、SD９との新旧関係は不明であり、同一の溝跡の可能性がある。方向は東西正方位で、規模は長さ7.00m、幅330～360cm、深さ120cm前後である。断面形はV字形ないしは逆台形で、堆積土は５層に分層される。遺物は、近世陶器類や石製品、須恵器坏・甕小片が出土し、そのうち陶器類・石製品から６点を第17図に図示した。３は産地不明の碗、４は肥前産陶器（唐津）三彩鉢、５は在地産の鉢、６は在地産の甕破片である。19世紀前半を中心とした製品である。８は石碗、９は茶臼の下臼の受けの一部である。出土遺物から本溝跡の最終埋没年代は19世紀前半頃と考えられる。

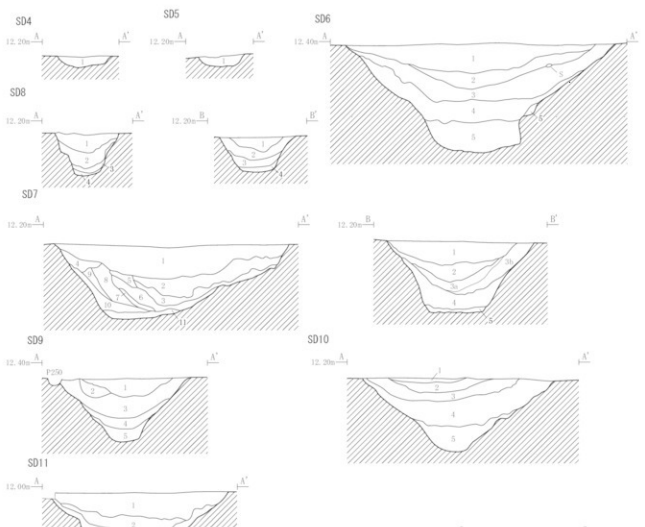
SD11溝跡（第６・16図）　W330～340・N0-S0グリッドで検出した。P594～596・599～602・627～635・637～639・646～653・656～661・663・664と重複関係にあり、本遺構が古い。南側の調査区外へ延びる。検出した規模は長さ12.10m、幅280cm、深さ75cmで、方向は東西正方位と考えられる。断面形は概ね逆台形で、堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SD33溝跡（第６図）　W320～330・N10グリッドで検出した。Ⅲ層で検出したが、Ⅱ層からの掘り込みを確認した。SD10、SK17～19・21・26・28、P498～503・535・543～548・550・551・571と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向は東西正方位で、規模は長さ15.40m、幅20～50cm、深さ３～９cmである。断面形は幅広のU字形と思われる。遺物は出土していない。

SD34溝跡（第６図）　W330・N0-S0～N10グリッドで検出した。P537・642と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-85°-Eで、規模は長さ3.35m、幅20～48cm、深さ５cmである。断面形はU字形で、遺物は出土していない。

SD35溝跡（第６図）　W330・N10～20グリッドで検出した。SK29・30、P168～173・286・289・296・298・306・316・481と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-14°-Eで、規模は長さ9.80m、幅50～75cm、深さ15～21cmである。断面形は逆台形である。遺物は、丸瓦小片、須恵器甕小片が出土した。

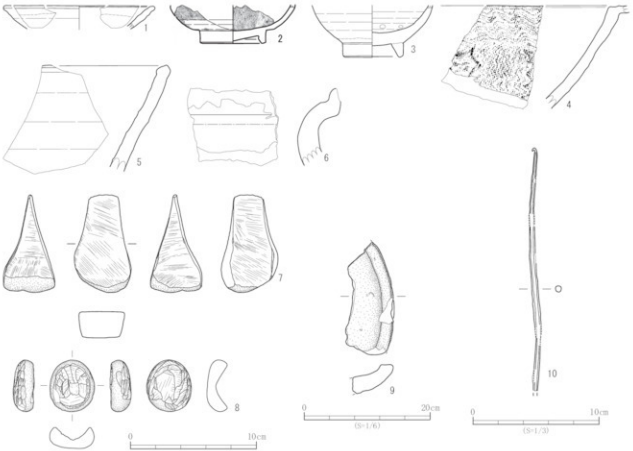
SD48溝跡（第６図）　W330～340・N10グリッドで検出した。SD８・９、P311・312・437～440・443・444・446～451・471と重複関係にあり、SD９より新しく、他の遺構より古い。方向はN-66°-Eで、規模は長さ6.05m、幅40～110cm、深さ5～31cmである。断面形はU字形である。遺物は出土していない。



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SD4	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物を含む。縁まりがある。
SD5	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物を含む。縁まりがある。
SD6	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物・円礫を含む。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量、炭化物・円礫を含む。
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	粘土	両端にマンガンを多量含み、中央部に鉄分と砂をラミナ状に含む。
	4	2.5Y4/2暗灰黄色	粘土	植物遺体・炭化物・鉄分を含み、西壁際に木炭が多量に集積する。両端でマンガンを多量含み、中央部に砂層を一枚はさむ。ややグライ化する。
	5	5Y3/1オリーブ黒色	粘土	植物遺体（ヨシ・クルミ・小枝・流木など）を多量、炭化物・鉄分を少量含む。
SD7 (A-A')	1	10YR4/4褐色	シルト	礫・炭化物を含み、下部に細砂を層状に含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	黄褐色シルトブロックを多量、炭化物を少量含む。
	3	10YR4/2灰黄褐色	粘土	炭化物・鉄分を少量含む。
	4	10YR3/4暗褐色	シルト	黄褐色シルトブロック・炭化物を少量含む。
	5	10YR3/3暗褐色	シルト	にぶい黄色粘土質シルトブロックを多量含む。
	6	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	炭化物・マンガンを少量含む。
	7	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	焼土塊・炭化物・焼土ブロックを多量含む。
	8	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒を少量含む。
	9	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	粘性・縁まりがある。
	10	10YR3/3暗褐色	粘土	黄褐色粘土粒を多量、炭化物を少量含む。
	11	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土	炭化物・鉄分を少量含む。
SD7 (B-B')	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	礫・鉄分を含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SD7 (B-B')	2	10YR4/4褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
	3a	10YR4/2灰黄褐色	粘土	炭化物・鉄分を含む。下半にマンガン斑を少量、細砂を若干含む。ややグライ化。
	3b	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	炭化物を少量含む。ややグライ化。
	4	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	炭化物・鉄分を少量、黄褐色土粒（5.5mm以内）を多量含む。
	5	10YR4/2灰黄褐色	粘土	炭化物・鉄分を少量含む。
SD8	1	10Y3/2オリーブ黒色	シルト	炭化物粒を多量、並層以下のブロックを多量含む。
	2	10Y3/1オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物粒を多量、並層以下のブロックを層下部を中心に多量含む。
	3	5Y5/3灰オリーブ色	粘土質シルト	炭化物粒を多量、並層以下の大ブロックを多量含む。
	4	5Y7/3灰黄色	粘土質シルト	並層以下のブロックを含む。
SD9	1	2.5Y3/2黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。
	2	2.5Y5/4黄褐色	シルト	並層ブロックを含む。
	3	2.5Y3/1黒褐色	シルト	並層ブロック・炭化物・灰を多量含む。
	4	2.5Y2/1黒色	シルト質粘土	並層ブロック・炭化物・灰を多量含む。
	5	2.5Y4/1黄灰色	シルト質粘土	並層ブロック・炭化物・灰を多量含む。
SD10	1	2.5Y4/2オリーブ褐色	シルト	並層ブロックを多量、炭化物粒を少量含む。
	2	2.5Y3/1黒褐色	シルト	並層ブロックを多量、炭化物粒を少量含む。
	3	2.5Y3/2黒褐色	シルト	並層ブロック・炭化物粒を少量含む。
	4	2.5Y3/1黒褐色	シルト	並層ブロックを多量、炭化物粒を少量含む。
	5	5GY4/1暗オリーブ灰色	粘土質シルト	炭化物粒を少量含み、砂を含む。
SD11	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	褐灰色粘土ブロック・並層ブロックを多量含む。
	2	10YR5/1褐灰色	粘土	並層のブロックを多量含む。
	3	10YR4/1褐灰色	粘土	並層の粒子を含み、砂粒を層状に含む。

第16図　SD４～11溝跡断面図



No	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	特徴	産地	時期	写真図版
1	I-3	SD8	－	施釉陶器	褐釉小皿	(11.5)×－×現1.8	ロクロ　口唇部-灰釉	古瀬戸	15世紀末	22-8
2	I-4	SD8	－	施釉陶器	椀	－×5.0×現（2.0）	ロクロ　灰釉	大堀相馬	19世紀前半	22-9
3	I-5	SD10	－	施釉陶器	椀	－×4.4×（4.1）	ロクロ　鉄釉＋墨灰釉	在地？	19世紀前半	22-11
4	I-7	SD10	1	施釉陶器	鉢	－×－×現8.1	ロクロ　三彩（白泥・緑釉・鉄釉）	肥津	18世紀前半	22-12
5	I-6	SD10	－	施釉陶器	鉢	－×－×現8.5	ロクロ　内外面-鉄釉	在地	19世紀前半	22-13
6	I-8	SD10	－	施釉陶器	壺	－×－×現6.0	ロクロ　内外面-鉄釉	在地	19世紀前半	22-14

No	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	長5×幅×厚5(cm)　重量(g)	石材	備考	写真図版
7	Kd-a-1	SD8	3	石製品	紡石	2.7×4.5×4.1　125	凝灰岩		22-10
8	Ke-1	SD10	1	石製品	石錘	5.0×4.3×2.0　30.6	凝灰岩	表裏ℓ方向に2ヶ所，縄状に成形。	22-15
9	Kd-g-1	SD10	2	石製品	砥石	(17.1)×(7.2)×(4.3)　390.0	安山岩	下白河辺産。	22-16

No	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	残長×幅×厚5(cm)	備考	写真図版
10	N-1	SD7	－	鉄製品	経絣棒	現19.1×0.4×0.4	錆進行。	22-17

第17図　溝跡出土遺物

No	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	長5×幅×厚5(cm)　重量(g)	石材	備考	写真図版
1	Kd-a-2	P113	－	石製品	紡石	5.5×4.8×3.4　115	凝灰岩		22-18

第18図　ピット出土遺物

８）ピット（第６図）

664基のピット（Ｐ２～665）を検出した。調査区の全域に分布しているが、Ｗ320～340・Ｎ20～Ｓ10のグリッドに集中する傾向がみられる。遺物は、内黒土師器坏小片、非ロクロ土師器甕小片、須恵器甕小片、須恵器坏小片、不明棒状鉄器（釘等）、石製品小片等が出土した。そのうち、Ｐ113の堆積土から出土した石製品を第18図に図示した。砥石である。端部に長軸に平行する剥痕、側面には成形時の剥離痕がみられる。また、Ｐ302から出土した炭化種実の分析を行った。

（２）Ⅴ・Ⅵ層検出の遺構と遺物（第19図）

１）竪穴住居跡

SI46竪穴住居跡（第20図、図版２）

［位　置］Ｗ310・Ｎ30グリッドに位置する。

［新旧関係］小溝状遺構Ⅲ-３と重複関係にあり、本遺構が古い。また、Ⅲ層検出のSK43、SD７によりカマド奥壁から煙道部及び住居跡中央部が削平されている。

［規模・形態］東西4.75m、南北4.70mの方形と思われる。

［主軸方位］カマド基準でＮ-８°-Ｅである。

［堆積土・構築土］９層に分層した。１～５層は住居堆積土、６・７層は貯蔵穴（Ｐ６）堆積土、８層は周溝内堆積土、９層は掘り方埋土である。カマド内堆積土は９層に分層される。

［壁面］周溝の底面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は北東側では床面から29cmである。

［柱穴］配置・規模からＰ１～３が主柱穴と考えられ、規模は径34～74cm、深さは51～132cmである。Ｐ１～３では径16～25cmの柱痕跡が認められた。また、カマドと対面する南壁近くには梯子穴と思われるＰ４・５が穿たれており、規模は径31・34cm、深さ25・32cmであり、径13～17の柱痕跡が認められた。

［周　溝］カマド周辺を除き住居跡検出範囲に巡る。断面形はＵ字形で、規模は幅18～21cm、深さ６cm前後である。

［カマド］住居跡北壁中央に位置している。SK43・SD７により大半を削平されており、燃焼部の一部と煙道煙出し部が残存している。燃焼部の規模は幅75cm、掘り込みは10cm程である。煙出し部は長軸45cm、短軸25cm、深さ61cmである。

［その他の施設］住居跡北東コーナー付近に位置するＰ６が貯蔵穴と思われる。平面形は歪んだ隅丸方形で、規模は長軸70cm、短軸54cm、床面からの深さは19cmである。

［掘り方］深さ５～18cmで凹凸がある。

［出土遺物］堆積土から土師器・須恵器が出土している。５点を第21図に図示した。１・２は、須恵器の坏である。底部はヘラ切りである。３は土師器小型甕である。４は土師器甕の上半部である。頸部に段を持っている。５は土師器甕の底部である。木葉痕がある。口径に対する底部法量比が大きい１・２の須恵器坏や４の土師器甕から本住居跡の年代は８世紀後半と考えられる。

SI51竪穴住居跡（第22・23図、図版２）

［位置］Ｗ300・Ｎ20～30グリッドに位置する。

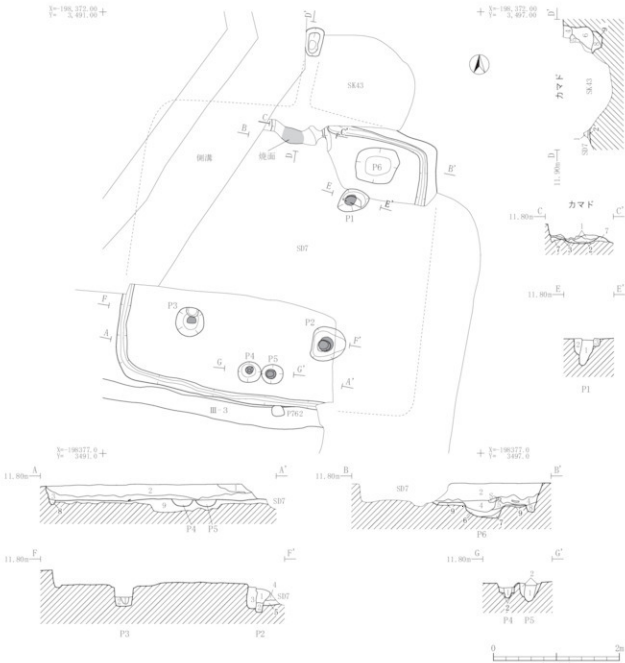
［新旧関係］小溝状遺構Ⅲ-３～５・９、Ⅴ-３～７・９と重複関係にあり、Ⅴ群より新しいが、Ⅲ群より古い。また、西側約1/2をⅢ層検出のSD６により削平されている。

［規模・形態］東西・南北5.10mの方形と思われる。

［主軸方位］カマド基準でＮ-145°-Ｅである。

［堆積土・構築土］23層に分層した。１～４層は住居堆積土、５～８層は掘り方埋土、９～12は旧カマド堆積土、13～23は新カマド関連層位である。

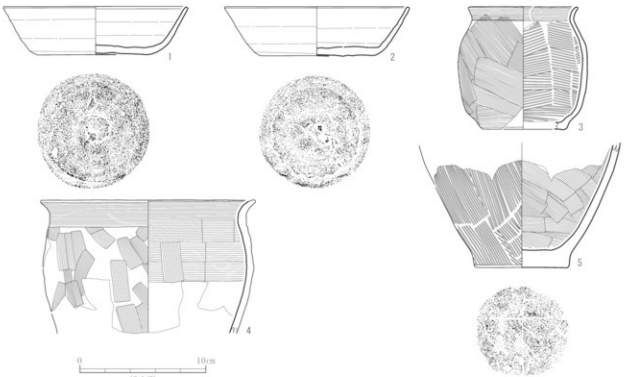
第19図　下ノ内遺跡1B区V・VI層遺構配置図



遺構	層位	土色	土性	備考
SI46	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。ややグライ化。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	3	10YR3/2黒褐色	シルト	締まりがややある。
	4	7.5YR3/3暗褐色	シルト	炭化物・焼土塊・土器細片を多量含む。
	5	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物・焼土粒を微量含む。
	6	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物・土器を含む。
	7	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。（6・7層貯蔵穴埋積土）
	8	10YR4/4褐色	粘土質シルト	炭化物を少量、灰層を含む。
	9	10YR3/3暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを少量含む。（貼床）
SI46 カマド	1	7.5YR3/4暗褐色	シルト	炭化物・焼土塊を多量含む。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	焼土粒・灰を多量、炭化物を少量含む。
	3	7.5YR3/3暗褐色	シルト	焼土粒を少量含む。被熱で赤黒く変色している。
	4	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	焼土塊を多量含む。
	5	10YR3/4暗褐色	シルト	焼土塊を少量含む。
	6	10YR4/4褐色	シルト	焼土塊を多量含む。
	7	10YR3/4暗褐色	シルト	カマド内側が焼けている。（カマド袖部）

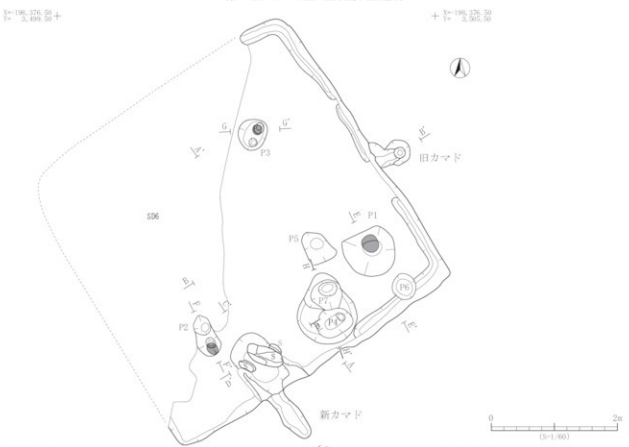
遺構	層位	土色	土性	備考
SI46 カマド	8	7.5YR4/3褐色	シルト	焼土のブロックを多量含む。
	9	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
SI46 P1	1	10YR3/4暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物と灰色の粘土質シルトブロックを少量含む。（柱痕）
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	3	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
SI46 P2	1	10YR3/4暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物・鉄分を少量含む。（柱痕）
	2	10YR4/4褐色	シルト	砂・黒褐色シルトブロックを少量含む。（柱痕）
	3	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	鉄分・炭化物を少量含む。
	4	10YR4/4褐色	シルト	鉄分を少量含む。
	5	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	鉄分を少量含む。
SI46 P3	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。（柱痕）
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
SI46 P4	1	10YR3/3暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物を微量含む。（柱痕）
	2	10YR4/4褐色	シルト	焼土粒・炭化物を微量含む。
SI46 P5	1	10YR3/3暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを少量含む。（柱痕）
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	炭化物を含む。

第20図　SI46竪穴住居跡平面図・断面図



No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	E-2	SI46	-	須恵器	坏	145×89×3.8	ロクロナデ　底部ヘラ切り	ロクロナデ		22-19
2	E-3	SI46	-	須恵器	坏	146×89×3.8	ロクロナデ　底部ヘラ切り	ロクロナデ		22-20
3	C-1	SI46	-	土師器	小型甕	(8.6)×(6.6)×9.6	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ハケメ		22-21
4	C-2	SI46・P6	-	土師器	甕	(16.8)×-×現10.4	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ		22-22
5	C-3	SI46	-	土師器	甕	-×7.5×現8.4	ハケメ	ヘラナデ	底部木葉痕。	22-23

第21図　SI46竪穴住居跡出土遺物



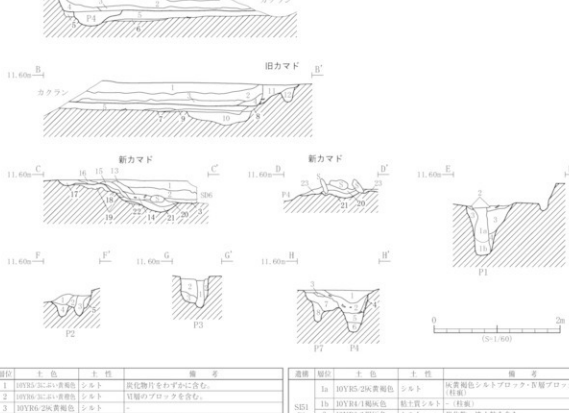
第22図　SI51竪穴住居跡平面図

［壁面］周溝の底面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は東壁で床面から57㎝である。

［柱穴］配置・規模からＰ１～３が主柱穴と考えられ、規模は径34～74㎝、深さは51～132㎝で、Ｐ１～３では径16～22㎝の柱痕跡が認められた。Ｐ５・６は補助的な柱あるいは内部施設に伴う柱穴と思われる。規模は径54・42㎝、深さは９～113㎝である。

［周溝］カマドと貯蔵穴部分を除く壁際を巡るが、部分的に途切れている。断面形はＵ字形で、規模は幅15～34㎝、深さ６㎝前後である。

［カマド］住居跡南東壁南隅寄りに位置している。構造・規模は両袖部が壁面から並行して延び、袖部の長さは48～55㎝、高さは床面から20～30㎝程残存している。また、袖部基部から袖石と思われる被熱した自然礫、燃焼部からは天井部に使用したと思われる自然礫が出土した。燃焼部は奥行き105㎝、幅62㎝である。煙道部は、長さ135㎝、



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SI51	1	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物片をわずかに含む。
	2	10YR6/3にぶい黄褐色	シルト	V層のブロックを含む。
	3	10YR6/2灰黄褐色	シルト	-
	4	10YR4/2灰黄褐色	シルト	炭化物片・焼土をわずかに含む。
	5	10YR6/2灰黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロックと V層ブロックを含む。
	6	10YR7/2にぶい黄褐色	シルト	-
	7	2.5Y7/4浅黄色	砂質シルト	-
	8	10YR6/2灰黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック・V層ブロック・焼土ブロックを含む。1.5～8.9層混在）
	9	-	-	V層に焼土・炭化物・灰を多く含む。
SI51 貯カマド	10	-	-	V層に灰黄褐色シルトを含む。
	11	10YR6/3にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロックを含む。
	12	-	-	V層に炭化物片を多く含む。
SI51 新カマド	13	10YR5/2灰黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	14	-	-	焼土と炭化物の層。
	15	-	-	焼土ブロック層。
	16	10YR6/2灰黄褐色	シルト	焼土ブロックを多く含む。
	17	10YR6/2灰黄褐色	シルト	焼土粒を含む。
	18	-	-	焼土層。
	19	-	-	灰と焼土の層。焼土の細ブロックを含む。
	20	-	-	灰と焼土の層。
	21	-	-	焼土層。
	22	10YR6/2灰黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロックと V層ブロックを含む。
	23	10YR7/3にぶい黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロックを含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SI51 P1	1a	10YR5/2灰黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック・V層ブロックを含む。（柱痕）
	1b	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	（柱痕）
	2	10YR6/1褐灰色	シルト	炭化物・焼土粒を含む。
	3	10YR5/2灰黄褐色	シルト	-
	4	10YR5/1褐灰色	粘土質シルト	V層ブロック・焼土・炭化物片を含む。
SI51 P2	1	10YR6/4にぶい黄橙色	シルト	黄褐色シルトブロックと灰黄褐色シルトブロックが混在。
	2	-	-	V層土に灰黄褐色シルトブロックを含む。
	3	10YR6/1褐灰色	粘土	黄褐色粘土質シルトを含む。締まりがない。（柱痕）
	4	10YR6/4にぶい黄橙色	粘土質シルト	褐灰色粘土ブロックを含む。（古い柱痕）
	5	-	-	V層土に灰黄褐色シルトブロックを含む。
SI51 P3	1	10YR6/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	下半は褐灰色粘土。（柱痕）
	2	10YR6/4にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトのブロックを含む。
	3	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	締まり弱い。
SI51 P4・P7	1	10YR6/3にぶい黄橙色	シルト	-
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	炭化物・焼土粒を含む。土器が多く含まれる。
	3	10YR7/3にぶい黄橙色	砂	-
	4	10YR6/4にぶい黄橙色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロックと灰黄褐色シルトブロックを含む。
	5	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	-
	6	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	砂混じり。
	7	-	-	V層土主体、灰黄褐色シルトの小ブロックを含む。
	8	10YR4/2灰黄褐色	シルト	焼土・炭化物を多く含む。

第23図　SI51竪穴住居跡断面図

幅26～38cm、深さ５cm程で、先端部に向かい緩やかに立ち上がる。また、東壁中央付近で旧カマドを検出した。

［その他の施設］住居跡南東コーナー付近に位置するP４が貯蔵穴と思われる。平面形は若干歪んだ楕円形で、規模は長軸123cm、短軸60cm、深さ19cmである。

［掘り方］深さ５～20cmで、若干の凹凸はあるが、ほぼ平坦な掘り方である。

［出土遺物］堆積土から須恵器・土師器が多量に出土している。23点を第24・25図に図示した。このうち、第24図１～15は土師器坏である。１～３は丸底、口縁部付近で短く外反する器形の一群である。４～６は平底でやや直線的にたちあがり、口縁部付近で短く内傾する器形の一群である。７・８は底部～体部が半球形で、そのまま口縁部にいたる一群である。９は扁平な丸底で口縁部が内湾する坏である。10～12は有段丸底の坏である。13は平底風の底部に半球状の体部、口縁部付近で短く内傾する坏である。14～15は大型の坏である。直線的に立ち上がり、口縁部にいたる。16は須恵器甕の口縁～頸部小片である。短く開く器形で、口縁部と頸部の間の２条の稜線間に櫛描波状文が充填されている。17・18は須恵器坏蓋である。稜は鋭く、口縁部はやや外傾する。17は堆積土２層から出土し、近接するP735出土資料と接合した。18は床下より出土した。２点とも陶邑編年TK208段階のものと考えられる。高坏の坏部の可能性もある。第25図２は、土師器の二重口縁壺である。大型で、口縁部に段があり、胴部は球状で、底部は欠損している。１・３～５は土師器甕である。１の体部は球胴状で、３は甕の口縁部～頸部、４は胴部、５は底部である。丸底、有段丸底、平底を主とした土師器坏の組成、段の形骸化した二重口縁壺、頸部の短い須恵器甕、稜が鋭くやや外傾する須恵器坏蓋などから考えると、本住居跡の年代は、５世紀後半～６世紀初頭と考えられる。

S152竪穴住居跡（第26図、図版２）

［位置］調査区北東側、W300～310・N30～40グリッドに位置し、北東の調査区外へ延びる。

［新旧関係］小溝状遺構Ⅲ-1、Ⅳ-1、P742～746・750とは重複関係にあり、本遺構が古い。また、住居跡北西側はⅢ層で検出したSR３で削平されている。

［規模・形態］検出長は北西-南東が6.84m、北東-南西が1.52mで、方形ないしは長方形であると思われる。

［主軸方位］カマド基準としては不明であるが、北西-南東壁の方位はN-49°-Eである。

［堆積土・構築土］９層に分層した。１～５層は住居堆積土、６層は周溝内堆積土、７～９層は掘り方埋土である。

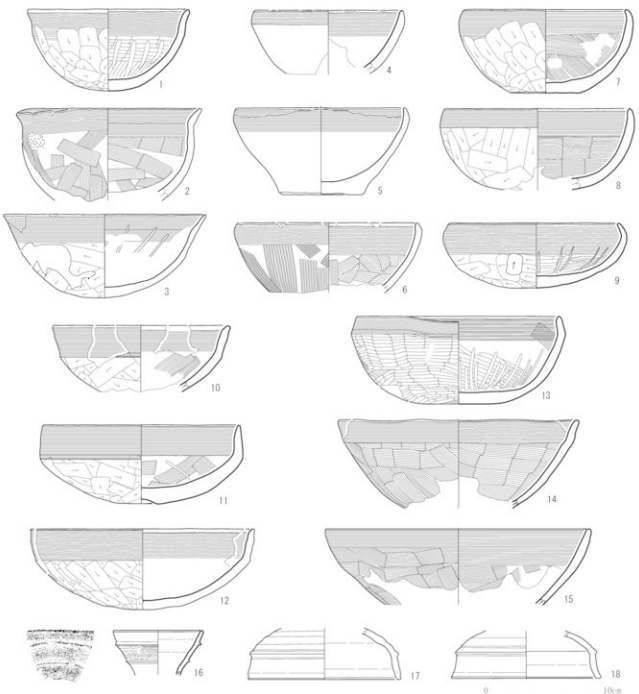
［壁面］周溝の底面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は南東壁で床面から35cmである。

［柱穴］配置・規模からP１・２が主柱穴と考えられ、規模は径57・62cm、深さは50・55cmであり、径24～30cmの柱痕跡が認められる。その他では性格不明の４基のピットが検出されている。規模は径18～57cm、深さ11～21cmである。P５では直径10cmの柱痕跡が確認されている。

［周溝］南壁の一部で途切れるが、その他は全周している。断面形はU字形で、規模は幅11～33cm、深さ３～11cmである。

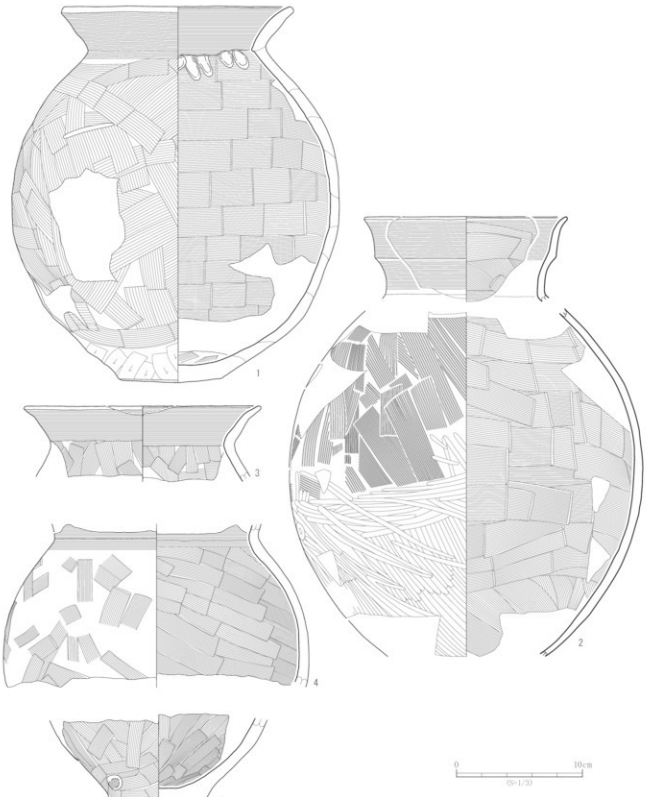
［掘り方］深さ５～10cmで若干の凹凸はあるが、ほぼ平坦な掘り方である。

［出土遺物］堆積土から少量の土師器小片と石製模造品が出土しており、石製模造品４点を第27図に図示した。１～３は有孔円盤である。円形で径１㎜以下の孔が２孔穿たれている。３は長円形で、孔の位置はやや縁辺部に寄っている。４は剣形である。基部半円形で鏑は無い。



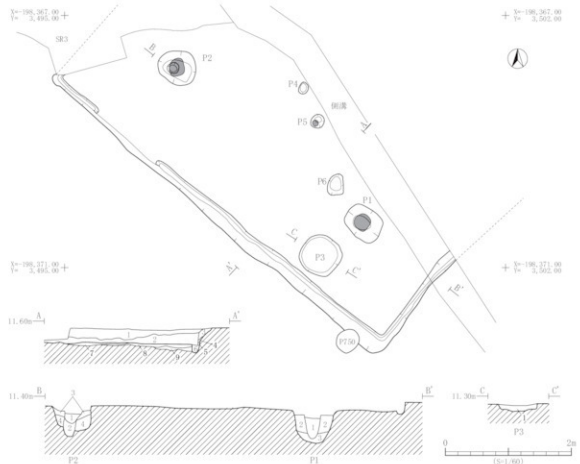
No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-4	SI51	6	土師器	坏	12.8×－×6.5	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ		23-1
2	C-5	SI51	4	土師器	坏	15.0×－×現7.3	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ		23-2
3	C-6	SI51	6	土師器	坏	16.0×－×6.5	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ		23-3
4	C-7	SI51	床面	土師器	坏	(11.9)×－×現4.9	ヨコナデ	ヨコナデ	体部外面調整。	23-4
5	C-8	SI51	6	土師器	坏	13.7×6.7×6.9	ヨコナデ	ヨコナデ	体部外面調整。	23-5
6	C-9	SI51	2	土師器	坏	14.2×－×現5.3	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ヘラナデ		23-6
7	C-10	SI51	6	土師器	坏	12.8×5.2×6.5	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナデ		23-7
8	C-11	SI51	2	土師器	坏	(14.8)×－×現6.4	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナデ		23-8
9	C-12	SI51	－	土師器	坏	13.6×2.5×5.15	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ	放射状ミガキあり。	23-9
10	C-13	SI51	3・4	土師器	坏	(14.0)×－×現5.2	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナデ		23-10
11	C-14	SI51	6	土師器	坏	15.6×－×6.2	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナデ		23-11
12	C-15	SI51カマド・床	6	土師器	坏	17.5×－×6.3	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナデ		23-14
13	C-16	SI51	床面	土師器	坏	16.2×5.0×6.9	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ		23-13
14	C-17	SI51	6	土師器	坏	(19.0)×－×現7.0	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ		23-12
15	C-18	SI51	－	土師器	坏	11.2×－×現6.0	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ		23-15
16	E-4	SI51	－	須恵器	甕	7.0×－×現3.8	ロクロナデ・櫛描波状文	ロクロナデ		23-16
17	E-5	SI51/P753	2	須恵器	蓋	12.4×－×3.7	ロクロナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ	6条1単位。	23-17
18	E-23	SI51	床下	須恵器	蓋	(12.0)×－×現3.6	ロクロナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ	17と同一か？	－

第24図　SI51竪穴住居跡出土遺物（１）



No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-19	SI51	1・6・カマド	土師器	甕	18.2×8.1×29.5	ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナデ・指オサエ		23-18
2	C-20	SI51	－	土師器	甕	(16.0)×－×現34.7	ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラナデ		23-19
3	C-21	SI51	6	土師器	甕	(18.6)×－×現5.9	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ		23-20
4	C-22	SI51	2・6	土師器	甕	－×－×現12.6	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ		23-21
5	C-23	SI51	－	土師器	甕	－×7.1×現7.0	ヘラナデ・指オサエ	ヘラナデ	ドーナツ状底部	23-22

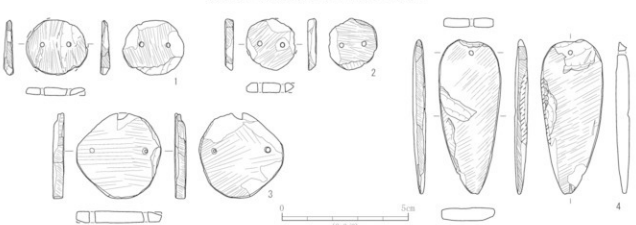
第25図　SI51竪穴住居跡出土遺物（２）



遺構	層位	土色	土性	備考
S152	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量、黒褐色シルトブロックを微量に含む。
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	灰黄褐色粘土質シルトブロックを微量に含む。
	3	10YR3/4暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを少量含む。
	4	10YR3/2黒褐色	シルト	-
	5	10YR3/3暗褐色	シルト	灰黄褐色粘土質シルトブロックを微量に含む。 締まりがない。
	6	10YR3/4暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを少量含む。
	7	10YR4/2灰黄褐色	シルト	焼土粒を微量含む。
	8	10YR3/3暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを多量、3層ブロックを少量含む。
	9	10YR3/4暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを少量含む。(7～9層掘り方埋土)

遺構	層位	土色	土性	備考
S152 P1	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを少量含む。(柱痕)
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	土器を含む。
	3	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
S152 P2	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。(柱痕)
	2	10YR4/4褐色	粘土質シルト	砂・礫・炭化物を少量含む。(柱痕)
	3	10YR3/3暗褐色	シルト	-
	4	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物・黒褐色シルトブロックを少量含む。
S152 P3	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物・黒褐色シルトブロックを少量含む。

第26図　S152竪穴住居跡平面図・断面図



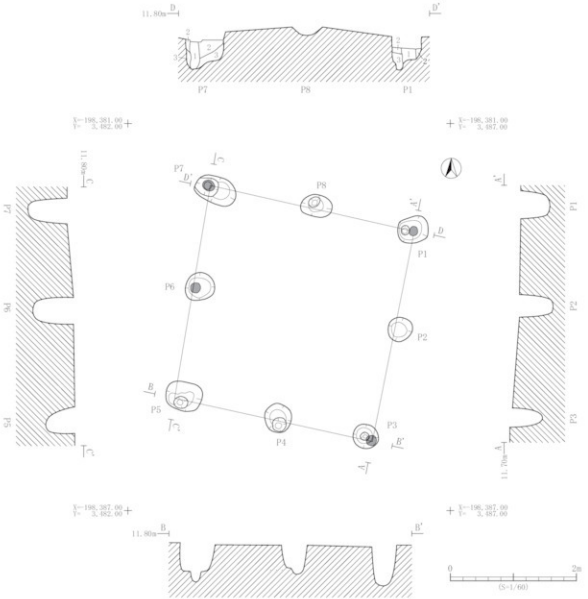
No	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	Kd-e-1	S152	-	石製模造品	有孔円盤	緑色片岩	2.2×2.4×0.4	2.6		24-1
2	Kd-e-2	S152	-	石製模造品	有孔円盤	緑色片岩	2.0×1.9×0.4	2.0		24-2
3	Kd-e-3	S152	-	石製模造品	有孔円盤	緑色片岩	3.3×3.3×1.5	7.6		24-3
4	Kd-e-4	S152	-	石製模造品	剣形	頁岩	6.1×2.0×0.5	9.8		24-4

第27図　S152竪穴住居跡出土遺物

２）掘立柱建物跡

SB50掘立柱建物跡（第28図、図版３）　W320・N20グリッドに位置する。小溝状遺構Ⅰ-31・32、Ⅱ-１と重複し、本遺構が新しい。桁行２間×梁行２間の方形の建物跡で、桁行きの西列北から1.65m＋1.80m、総長3.45m、東列北から1.50m＋1.80m、総長3.30m、梁行の北列西から1.65m＋1.50m、総長3.15m・南列は西から1.50m＋1.35m、総長2.85mの建物である。柱列方向はN-11°-Eである。柱穴掘り方の平面形は楕円形あるいは円形で、規模は径38～63cm、深さ15～63cmであり、P１・３・６・７では18cm前後の柱痕跡が認められる。遺物は出土していない。

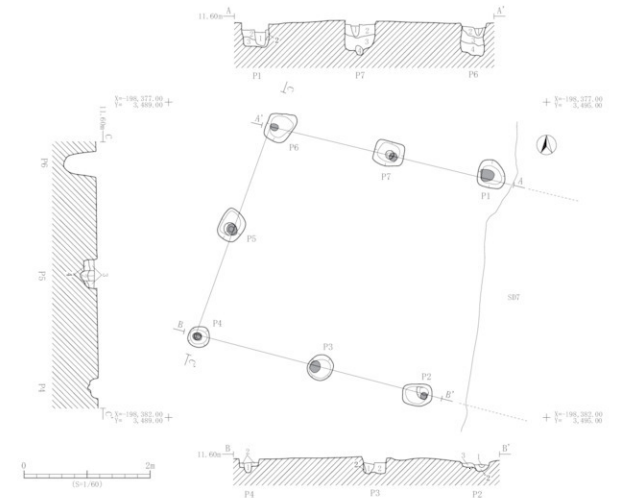
SB53掘立柱建物跡（第29図、図版３）　W310～320・N20～30グリッドに位置する。小溝状遺構Ⅱ-４・５、P763・764・797・805・848・852と重複し、本遺構が新しい。２間×２間以上の東西棟の建物跡と推定され、西列北から1.80m＋1.80m、総長3.60m、南列西から1.95m＋1.50m、検出総長3.45m・北列西から1.95m＋1.80m、検出総長3.75mの建物である。方向はN-76°-Wと思われ、柱穴掘り方の平面形は楕円形あるいは隅丸長方形で、規模



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SB50 P1	1	10YR5/2灰黄褐色	シルト質粘土	(柱痕)
	2	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	5%程小ブロックを含む。
	3	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	5%程小ブロックを含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SB50 P7	1	10YR5/1褐灰色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルトブロックと10%程黄褐色粘土質シルトブロックを含む。(柱痕)
	2	10YR5/1褐灰色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルトと5%程ブロックを含む。
	3	10YR5/2灰黄褐色	シルト質粘土	-

第28図　SB50掘立柱建物跡平面図・断面図



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SB53 P1	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。（柱痕）
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	-
	3	10YR4/4褐色	シルト	炭化物・砂を含む。
SB53 P2	1	10YR3/3暗褐色	シルト	柱痕。
	2	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	細砂を含む。
	3	-	-	-
SB53 P3	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。（柱痕）
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	-
SB53 P4	1	10YR4/4褐色	シルト	柱痕。
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	-

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SB53 P5	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物を含む。（柱痕）
	2	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト	ややグライ化。（柱痕）
	3	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	4	10YR4/4褐色	シルト	鉄分を少量含む。
SB53 P6	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。（柱痕）
	2	10YR4/4褐色	シルト	-
	3	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	4	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
SB53 P7	1	10YR3/4暗褐色	シルト	柱痕。
	2	10YR4/4褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	3	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を含む。
	4	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性が強い。

第29図　SB53掘立柱建物跡平面図・断面図

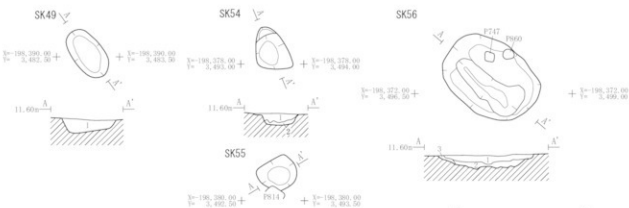
は径33～52cm、深さ15～50cmであり、径14～24cmの柱痕跡が認められる。遺物は出土していない。

３）土　坑

SK49土坑（第30図）　W320・N10～20グリッドで検出した。小溝状遺構１-28と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-35°-Wである。規模は長軸85cm、短軸48cm、深さ21cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は北側に傾斜する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK54土坑（第30図）　W310・N30グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-22°-Wである。規模は長軸74cm、短軸54cm、深さ17cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK55土坑（第30図）　W310・N30グリッドで検出した。P814と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-72°-Eである。規模は長軸61cm、短軸50cm、深さ21cmで、壁面は急角度で立ち上がる。



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SK49	1	10YR5/1褐灰色	粘土質シルト	マンガン粒・酸化鉄粒・吉備小ブロックを含む。
SK54	1	10YR5/6にぶい黄褐色	シルト	細砂を多く含む。
	2	10YR4/4褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
SK55	1	10YR5/6にぶい黄褐色	シルト	炭化物を少量、細砂を多く含む。
	2	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	粘性・締まりがある。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SK56	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルトブロックを多量、炭化物を少量含む。
	3	10YR4/4褐色	シルト	–

第30図　SK49・54～56土坑平面図・断面図

断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

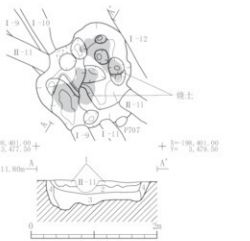
SK56土坑（第30図）　W310・N30グリッドで検出した。P747・748・860と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-50°-Wである。規模は長軸158cm、短軸116cm、深さ15～26cmで、壁面は開きぎみに立ち上がる。断面形は幅広のU字形で、底面には凹凸がある。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

４）性格不明遺構

SX48性格不明遺構（第31図）　W330・N0-S0～N10グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ-９～12、Ⅱ-11・P６と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、規模は長軸165cm、短軸160cm、深さ30～50cmである。長軸方向はN-35°-Eで、断面形は逆台形である。底面には凹凸がある。堆積土は４層に分層され、炭化物片、焼土粒を多く含む。遺物は出土していない。

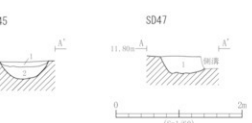
５）溝　跡

SD45溝跡（第19・32図）　W320～330・N10～20グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ-16・19～21・26、P693・699・700と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-55°-Wで、規模は長さ20.00m、幅65～140cm、深さ19～35cmである。断面形はU字形で、堆積土は２



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SX48	1	10YR5/1褐灰色	シルト	炭化物・焼土粒をわずかに含む。
	2	10YR6/3にぶい黄橙色	砂質シルト	炭化物片を少量、焼土粒を多く含む。
	3	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物片を少量、焼土粒を多く含む。
	4	–	–	3層土主体で、焼土混じりのにぶい黄褐色シルトブロックを含む。

第31図　SX48性格不明遺構平面図・断面図

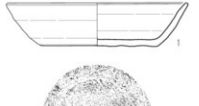


遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SD45	1	10YR7/3にぶい黄橙色	シルト	締まりがある。
	2	10YR6/3にぶい黄橙色	砂質シルト	にぶい黄橙色シルトブロック(φ50mm)を含む。東端はクライむしている。
SD47	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物・木炭・土器片を多く含む。

第32図　SD45・47溝跡断面図

層に分層される。遺物は出土していない。

SD47溝跡（第19・32図）　W300・N20グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅲ-４・５、V-５～７、P739と重複関係にあり、小溝状遺構Ⅴ群より新しく、他の遺構より古い。方向はN-14°-Eで、規模は長さ4.54m、幅50～75cm、深さ7～27cmである。断面形は逆台形で、堆積土は単層である。遺物は、須恵器坏が出土し、第33図に図示した。平底で、調整はヘラ切りで、８世紀後半のものと考えられる。



No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)
1	E-9	SD47	1	須恵器	坏	14.3×9.1×3.5
	外面調整		内面調整		備　考	写真図版
ロクロナデ　底部ヘラ切り			ロクロナデ			24-5

第33図　SD47出土遺物

６）小溝状遺構群（第19・34・35図）　畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向と重複関係からⅠ～Ⅴ群に分けられる。Ⅳ・Ⅴ群→Ⅲ群→Ⅱ群→Ⅰ群の変遷が考えられる。

Ⅰ群（第19・34図）　W310～340・N20～N0-S0グリッドで検出され、32条の小溝で構成されている。Ⅱ群と重複し、本群が新しい。Ⅴ層からの掘り込みを確認した。方向はN-18～48°-Wで、検出長は1.00～17.10m、幅14～70cm、深さ１～52cm、小溝の間隔は概ね1.0m程であるが、隣接して掘削されている小溝もあり、数度の掘り直しがなされているものと思われる。遺物は出土していない。

Ⅱ群（第19・34図）　調査区中央から南西部のW310～340・N20～N0-S0グリッドで検出され、15条の小溝で構成されているが、全体的にまばらな分布状況である。Ⅰ・Ⅲ群と重複し、Ⅲ群より新しく、Ⅰ群より古い。方向はN-68～83°-W、N-57～78°-Eで、検出長0.85～15.10m、幅15～58cm、深さ１～37cm、小溝の間隔は0.8～2.4mとばらつきがあり、数度の掘り直しがなされている箇所もある。遺物は出土していない。

Ⅲ群（第19・35図）　W300～320・N20～30グリッドで検出され、６条の小溝で構成されている。Ⅱ群と重複し、本群が古い。方向はN-80°-W～東西で、検出長2.35～21.65m、幅20～48cm、深さ７～58cm、小溝の間隔は0.4～1.0mとばらつきがある。遺物は出土していない。

Ⅳ群（第19・35図）　調査区北東部のW310～320・N30グリッドで検出され、９条の小溝で構成されている。方向はN-８°-E・N-18～42°-Wで、検出長0.80～3.30m、幅20～35cm、深さ２～45cm、小溝の間隔は隣接しているか0.40m程である。遺物は出土していない。

Ⅴ群（第19・35図）　調査区北東部のW300～320・N20～30グリッドで検出され、11条の小溝で構成されている。Ⅲ群と重複し、本群が古い。方向はN-74°-E、N-18～80°-Wで、検出長0.60～3.75m、幅15～35cm、深さ３～16cm、小溝の間隔は0.8～1.5mとばらつきがある。遺物は出土していない。

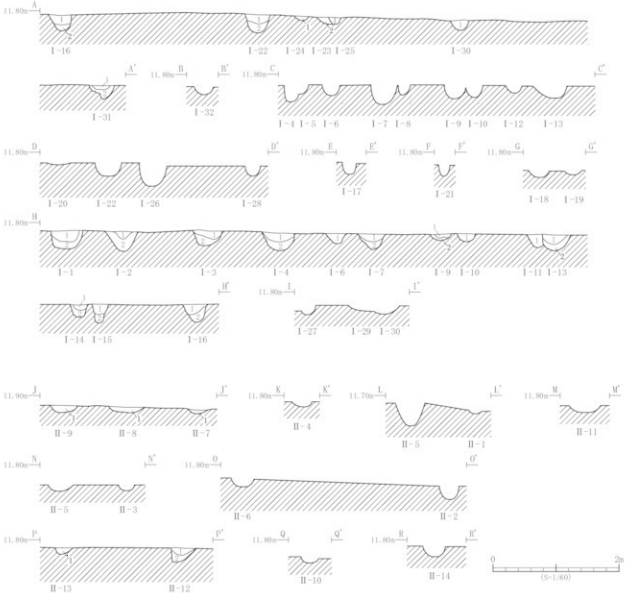
７）ピット群（第19図）

145基のピット（P686～847）を検出し、調査区中央部やや北東側を中心に分布する。遺物は、土師器小片、須恵器小片が出土した。

（３）Ⅶ層検出の遺構と遺物（第36図）

１）性格不明遺構

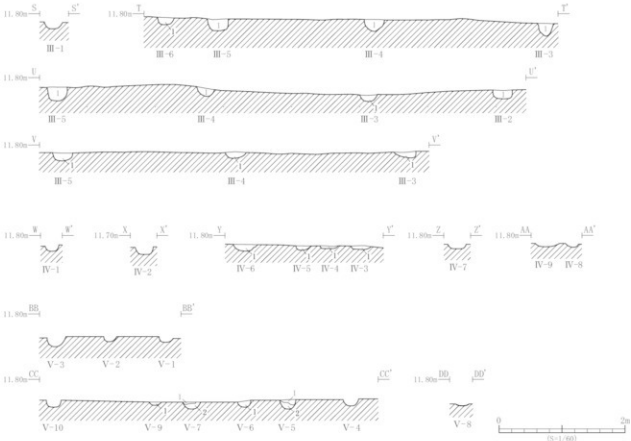
SX59性格不明遺構（第38図）　W340・N0-S0グリッドで検出した。平面形は不整な円形で、規模は径105cm、深さ35cmで、堆積土は５層に分層される。断面形は開いたU字形である。遺物は、縄文土器２点、土製円盤１点、剥片１点が出土し、縄文土器２点、土製円盤１点を第39図１～３に図示した。１は深鉢の胴部破片で輪積み部分で剥離している。３は深鉢の胴部破片を利用した土製円盤である。



遺構	層位	土色	土性	備考
I-1	1	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	-
	2	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトとにぶい黄橙色砂を含む。
I-2	1	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	-
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトとにぶい黄橙色砂を含む。
I-3	1	10YR6/3にぶい黄橙色	シルト	-
	2	10YR4/1褐灰色	シルト	褐灰色シルトとにぶい黄橙色シルトを含む。
I-4	1	10YR5/1褐灰色	粘土質シルト	-
	2	10YR5/1褐灰色	シルト	褐灰色シルトとにぶい黄橙色シルトを含む。
I-6	1	10YR7/4にぶい黄橙色	シルト	にぶい黄橙色シルトと褐灰色シルトをブロック状に含む。
I-7	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	-
	2	10YR5/1褐灰色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルトとにぶい黄橙色砂を含む。
I-9	1	10YR7/3にぶい黄橙色	シルト	-
	2	10YR5/1褐灰色	シルト	褐灰色シルトとにぶい黄橙色砂を含む。
I-10	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルトとにぶい黄橙色砂を含む。
I-11	1	10YR6/2灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色砂を含む。
I-13	1	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	-
	2	10YR6/3にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトとにぶい黄褐色シルトを含む。
I-14	1	10YR5/2灰黄褐色	シルト	-
	2	10YR5/2灰黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトとにぶい黄橙色砂を含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
I-15	1	10YR5/1褐灰色	シルト	-
	2	10YR5/1褐灰色	シルト	黒褐色シルトとにぶい黄橙色砂を含む。
I-16	1	10YR6/3にぶい黄橙色	シルト	-
	2	10YR6/3にぶい黄橙色	シルト	にぶい黄橙色シルトを含む。
I-22	1	10YR5/2灰黄褐色	シルト	-
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	シルトと黒褐を含む。
I-23	1	10YR5/1褐灰色	シルト	シルトと黒褐を含む。
I-24	1	10YR5/1褐灰色	シルト	シルトと黒褐を含む。
I-25	1	10YR5/1褐灰色	シルト	シルトと黒褐を含む。
I-30	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロックを含む。黒褐をわずかに含む。
I-31	1	10YR5/2灰黄褐色	シルト	-
	2	10YR4/1褐灰色	シルト	シルトと黒褐を含む。
II-7	1	10YR6/2灰黄褐色	シルト	黒褐を含む。
II-8	1	10YR5/2灰黄褐色	シルト	黒褐を含む。
II-9	1	10YR6/2灰黄褐色	シルト	黒褐を含む。
II-12	1	10YR6/3にぶい黄橙色	シルト	-
	2	10YR5/1褐灰色	シルト	褐灰色シルトとにぶい黄橙色砂を含む。
II-13	1	10YR5/2灰黄褐色	シルト	灰黄褐シルトブロックとにぶい黄橙色砂(黒褐)を含む。

第34図　小溝状遺構群断面図（１）



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
Ⅲ-2	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物・焼土粒を少量含む。
Ⅲ-3	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。火山灰ブロックが観察される。
Ⅲ-4	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。火山灰ブロックが観察される。
Ⅲ-5	1	10YR4/4褐色	シルト	炭化物・焼土粒を少量含む。
Ⅲ-6	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物・焼土粒を少量含む。
Ⅳ-3	1	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物を少量含む。
Ⅳ-4	1	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物を少量含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
Ⅳ-5	1	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物を少量含む。
Ⅳ-6	1	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物を少量含む。
Ⅴ-5	1	10YR5/1褐灰色	シルト	Ⅵ層の小ブロックを少量含む。
	2	-	-	Ⅵ層主体、褐灰色ブロックを含む。
Ⅴ-6	1	-	-	Ⅵ層主体、褐灰色ブロックを含む。
Ⅴ-7	1	10YR5/1褐灰色	シルト	Ⅵ層の小ブロックを少量含む。
	2	-	-	Ⅵ層主体、褐灰色ブロックを含む。
Ⅴ-9	1	-	-	Ⅵ層主体、褐灰色ブロックを含む。

第35図　小溝状遺構群断面図（２）

（４）Ⅸ層検出の遺構と遺物（第36図）

１）性格不明遺構

SX69性格不明遺構（第38図）　W340・N0-S0～N10グリッドで検出した。SX59と重複関係にあり、本遺構が古く、西側は調査区外に延びる。平面形は不整形で、検出規模は長軸方向100cm、短軸80cm、深さ19cmで、長軸方向はN-59°-Eである。堆積土は単層である。底面には凹凸が見られ、断面形は皿状である。遺物は、縄文土器１点が出土し、第39図４に図示した。口縁部が緩やかに開いて立ち上がる深鉢である。

（５）Ⅺ層上面検出の遺構と遺物（第37図）

１）竪穴住居跡

SI100竪穴住居跡（第40図、図版３）

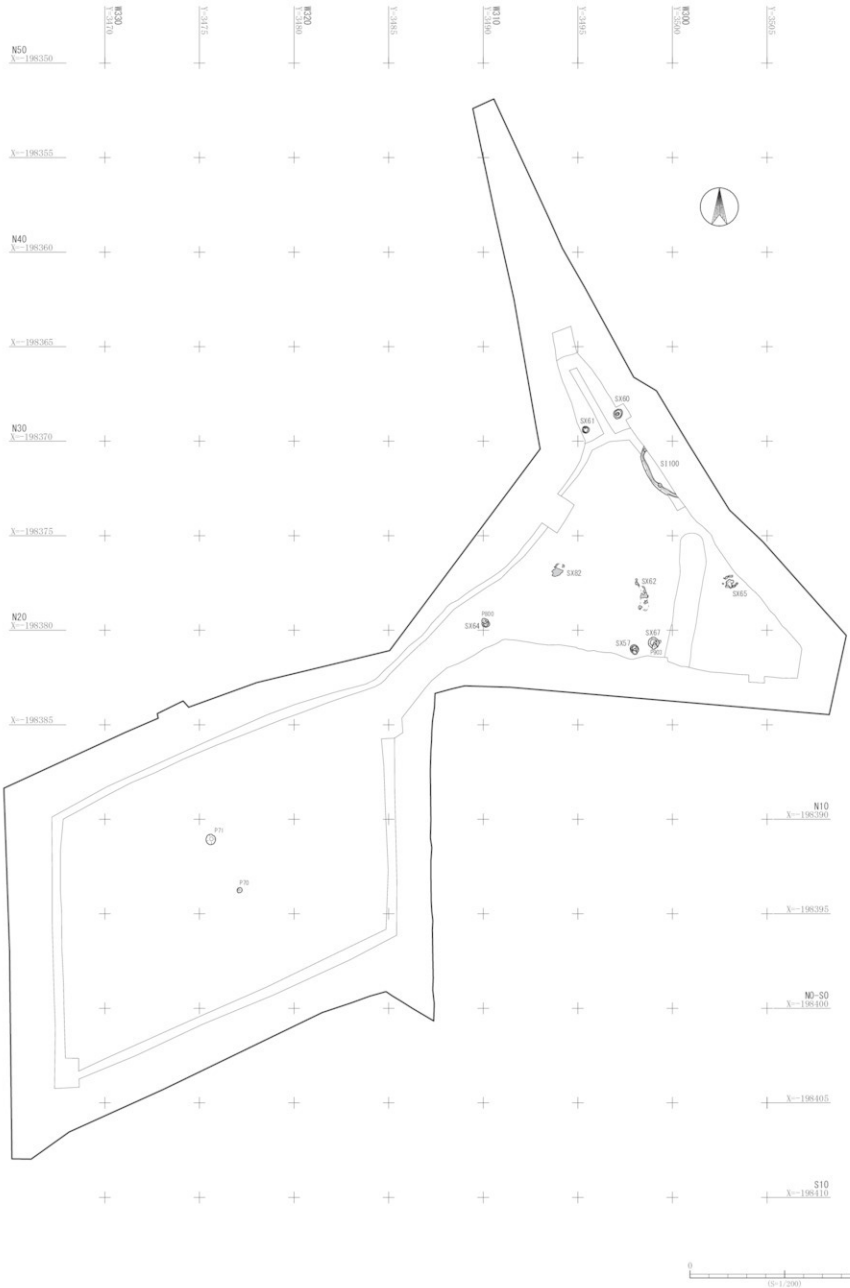
［位置・検出面］W300～310・N30グリッドに位置し、北東側の調査区外へ延びる。

［新旧関係］検出部分では他の遺構と重複関係はない。

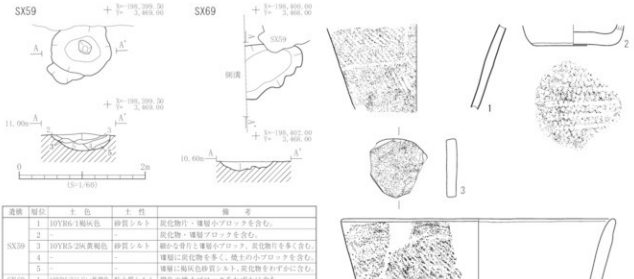
［規模・平面形］全体の規模は不明である。平面形は円形を基調としたものと思われる。

［堆積土］７層に分層される。1～６層は住居跡堆積土で、４層には炭化物が多く含まれる。７層はピット及び周溝の埋土である。

第36図　下ノ内遺跡１B区Ⅶ・Ⅸ層遺構配置図



第37図　下ノ内遺跡1B区XI層上面遺構配置図



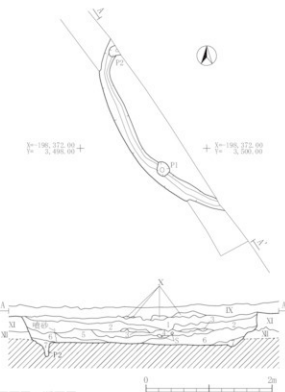
遺構	層位	土色	土性	備考
SX59	1	10YR6/1褐灰色	砂質シルト	炭化物片・壁土小ブロックを含む。
	2	-		炭化物・壁土ブロックを含む。
	3	10YR5/2灰黄褐色	砂質シルト	細かな骨片と壁土小ブロック、炭化物片を多く含む。
	4	-	-	壁土に炭化物を多く、焼土のみブロックを含む。
	5	-	-	壁土に褐灰色砂質シルト、炭化物をわずかに含む。
SX69	1	10YR6/3にぶい黄色	粘土質シルト	橙色の焼土ブロックをわずかに含む。

第38図　SX59・69性格不明遺構平面図・断面図

No	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-717	SX59	-	縄文土器	深鉢	胴部-LR縄文		24-6
2	A-718	SX59	-	縄文土器	深鉢	底部-網代痕		24-7
3	P-44	SK59	-	土製品	土製円盤	無文	45×44×8mm　19g	24-8
4	A-724	SX69	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部-LR縄文		24-9

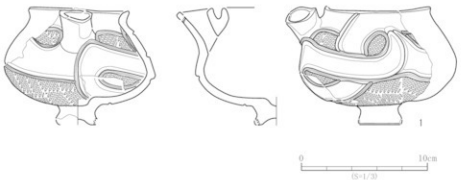
第39図　SX59・69性格不明遺構出土遺物

［壁面］周溝及びピットから比較的緩やかに立ち上がるが、上半はほぼ垂直となる。壁高は22～65㎝である。
［床面］掘り方の底面である㈫層を直接床面としている。
［柱穴］住居跡の検出範囲内から２個のピットを検出した。規模は直径15～20㎝、深さは9～22㎝で、周溝内の小型のピットであることから補助的な役割のものと考えられる。
［周溝］住居跡の検出範囲内では壁面に沿って全周している。断面形はU字形で、規模は幅８～18㎝、床面からの深さは３～７㎝である。
［炉］住居跡の検出範囲内では確認されていない。



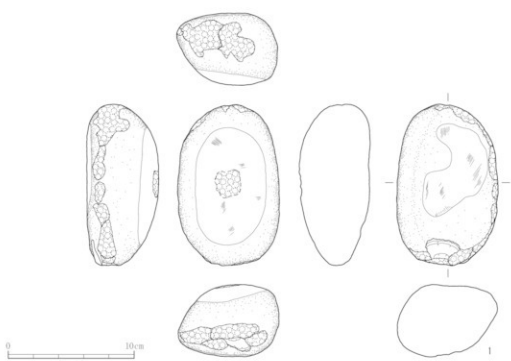
遺構	層位	土色	土性	備考
SI100	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	2	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物を少量、壁土小ブロックを含む。
	4	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物・壁土小ブロックを多量、焼土粒を少量含む。
	5	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	壁土小ブロックを含み、炭化物を少量含む。
	6	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	壁土小ブロックに暗褐色シルト粒と炭化物粒を少量含む。
	7	10YR4/4褐色	砂質シルト	壁土小ブロックと暗褐色シルトブロックの混合。

第40図　SI100竪穴住居跡平面図・断面図



No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-728	SI100	4	縄文土器	注口土器	口縁～胴部-隆沈線文区画・「O」字状文・羽L縄文	底部有孔 底端内側に指ふき。	24-10

第41図　SI100竪穴住居跡出土遺物（１）



No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g)	備　考	写真図版
1	Kc-a-1	SI100	4	礫石器	磨石	安山岩	12.6×7.9×5.6　788.0	磨1+1、敲1+0+上下+横1。	24-11

第42図　SI100竪穴住居跡出土遺物（２）

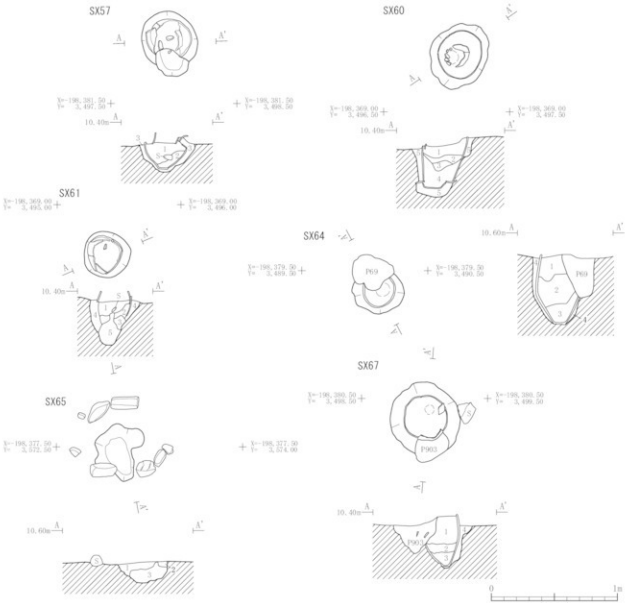
［出土遺物］堆積土から縄文土器及び石器が出土した。土器は注口土器１点を第41図に図示した。口縁部及び注口部の一部を欠損する。胴部中位に最大径をもつソロバン玉状の器形で、頸部から口縁部にかけて強く外反する。胴部には「S」字状あるいはクランク状の隆沈線文による文様帯が横位に連結して展開する。底部には柱状の台が付き、内面は凹んでいる。石器は二次加工のある剥片１点、磨石が１点出土し、磨石１点を第42図に図示した。表裏の平坦面に研磨痕が観察され、器体の正面には研磨よりも古い敲打痕が残されている。さらに上下面と左側縁に敲打痕が認められ、敲打に伴う剥離も認められる。

２）埋設土器

SX57埋設土器（第43図、図版４）　W310・N20グリッドで検出した。掘り方の平面形は長軸52cm、短軸44cmの不整楕円形で、深鉢が正位の状態で埋設されていた。検出面から掘り方底面までの深さは25cmである。断面形はU字形で、堆積土は３層に分層される。第44図は埋設されていた土器である。口縁部が胴部上半から大きく外反し、

稜をもち大きく膨らむ胴部中位に最大径をもつ。文様帯は胴部中位を境に大きく上下に分けられ、上段部分では隆線文及び隆沈線文による文様帯が、「S」字状・「C」字状文に連結する。内側に巻く部分では鰭状隆線文となり、区画内には刺突文が充填される。一方の下段の文様帯には稜を持つ胴部中位から帯状の無文帯が下垂し、２単位に区画される。区画を形成する無文帯及び口縁部内面には赤彩が残る。

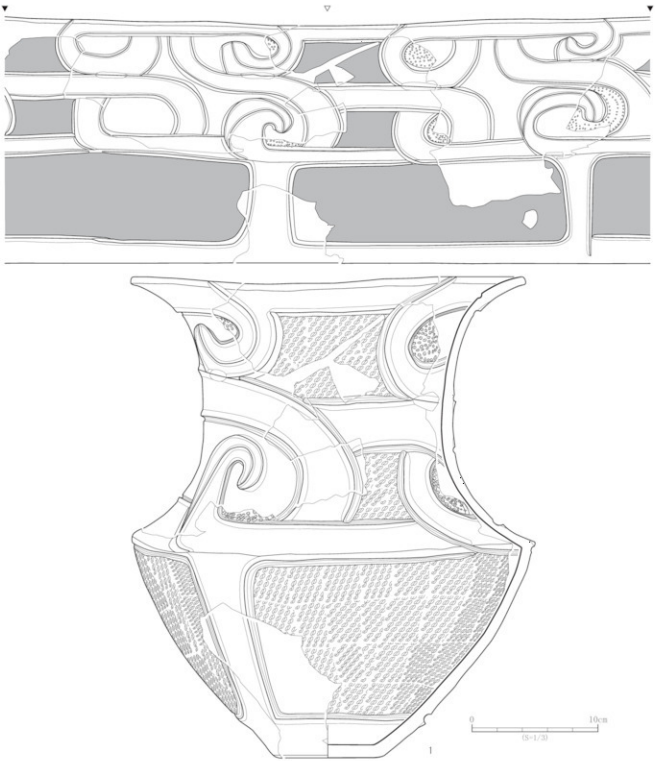
SX60埋設土器（第43図、図版４）　W310・N40グリッドで検出した。掘り方の平面形は長軸55cm、短軸45cmの



遺構	層位	土色	土性	備考
SX57	1	10YR5/2灰黄褐色	シルト	炭化物片をわずかに含む。
	2	10YR5/2灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色砂を多く含む。
	3	10YR5/1褐灰色	砂質シルト	凝層の小ブロックを含む。掘り方埋土。
SX60	1	10YR5/1褐灰色	砂質シルト	炭化物をわずかに含む。
	2	-	-	凝層主体。
	3	10YR6/4にぶい黄橙色	砂質シルト	-
	4	-	-	凝層ににぶい黄橙色土ブロック、炭化物をわずかに含む。
	5	10YR5/1褐灰色	砂質シルト	凝層の小ブロックを含む。掘り方埋土。
SX61 SX61	1	10YR5/2灰黄褐色	砂質シルト	炭化物片をわずかに含む。
	2	10YR4/1褐灰色	砂質シルト	炭化物を多量、凝層の小ブロックを含む。
	3	-	-	凝層主体。褐灰色砂質シルト小ブロックを含む。
	4	10YR5/1褐灰色	砂質シルト	凝層の小ブロック、炭化物片をわずかに含む。掘り方埋土。
	5	10YR6/1褐灰色	粘土	自然層。（地震・水流の影響？）

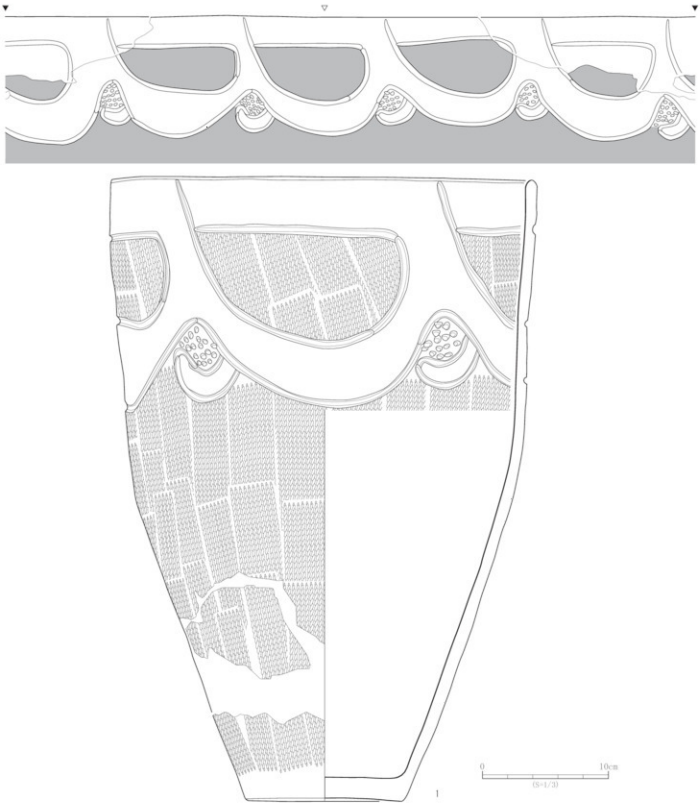
遺構	層位	土色	土性	備考
SX64	1	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	砂を含む。
	2	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	凝層の小ブロックを含む。
	3	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物を多く含む。
	4	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	砂を含む。掘り方埋土。
SX65	1	10YR6/3にぶい黄橙色	シルト	焼土を含む。本層上面が焼面と考えられる。
	2	10YR5/2灰黄褐色	シルト	礫が抜けた痕跡か？
	3	10YR6/3にぶい黄橙色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロック・灰黄褐色シルトブロック・凝層、焼土ブロック（φ10mm以下）をわずかに含む。
SX67	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	凝層のブロック、炭化物片をわずかに含む。
	2	-	-	凝層主体。灰黄褐色粘土質シルトの小ブロックを含む。
	3	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	凝層の小ブロックをわずかに含む。
	4	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	下半に凝層のブロック（φ30mm）を多く含む。掘り方埋土。

第43図　SX57・60・61・64・67埋設土器、SX65性格不明遺構平面図・断面図



No	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-1094	SX57	-	縄文土器	壺	1.1縁～胴部-微沈線文区画・「C」・「S」字状区画・鰭状降線文・刺突文・RL束縄文	帯状区画に赤彩。	24-12

第44図　SX57埋設土器



No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-744	SX60	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部-沈線文区画・「コ」字状・刺突文・L撚糸文　底部-ナデ		25-1

第45図　SX60埋設土器

不整な楕円形で、深鉢が正位の状態で埋設されていた。検出面から掘り方底面までの深さは45cmである。断面形はU字形で、堆積土は５層に分層される。第45図は埋設されていた土器である。口縁～胴部には沈線文区画が「コ」字状に横位に連結し、区画間の玉抱き部には刺突文が充填される。

SX61埋設土器（第43図）　W310・N40グリッドで検出した。掘り方の平面形は径35cmのほぼ円形で、深鉢が正位の状態で埋設されていた。検出面から掘り方底面までの深さは35cmである。断面形はU字形で、堆積土は５層に分層される。第46図は埋設されていた土器である。口縁部及び胴部下半から底部を欠損している。

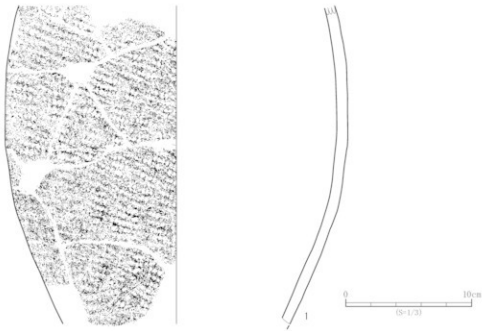
SX64埋設土器（第43図、図版４）　W310～320・N30グリッドで検出した。P69と重複関係にあり、本遺構が古く、北側が一部削平されている。掘り方の平面形は径42cmの不整な円形と思われ、深鉢が正位の状態で埋設されていた。検出面から掘り方底面までの深さは55cmである。断面形はU字形で、堆積土は４層に分層される。第47図は埋設されていた土器である。胴部中位に最大径をもつ樽形の深鉢である。

SX67埋設土器（第43図、図版４）　W310・N20グリッドで検出した。P903と重複関係にあり、本遺構が古い。掘り方の平面形は径55cmの不整な円形で、底部が穿孔された深鉢が正位の状態で埋設されていた。検出面から掘り方底面までの深さは42cmで、堆積土は４層に分層される。第48図は埋設されていた土器である。胴部に最大径をもつ樽形の深鉢である。その他に二次加工のある剥片１点が出土した。

２）性格不明遺構

SX62性格不明遺構（第37図）　W310・N30グリッドで検出した。不整な帯状に焼土が分布している遺構であり、遺構配置図に示してある。焼土の分布範囲は南北に180cm、東西に60cmである。焼土は４cm程の浅い掘り込みに堆積している。遺物は出土していない。

SX65性格不明遺構（第43図、図版４）　W300・N30グリッドで検出した。８個の自然礫により構成される石囲炉と思われる。自然礫に囲まれた内側に不整形の掘り込みを持ち、掘り込み内の堆積土は３層に分層され、焼土を主体とする。規模は石囲範囲で径70cm程、内側の掘り込みの規模は長軸45cm、短軸35cm、深さ17cmである。遺物は出土していない。



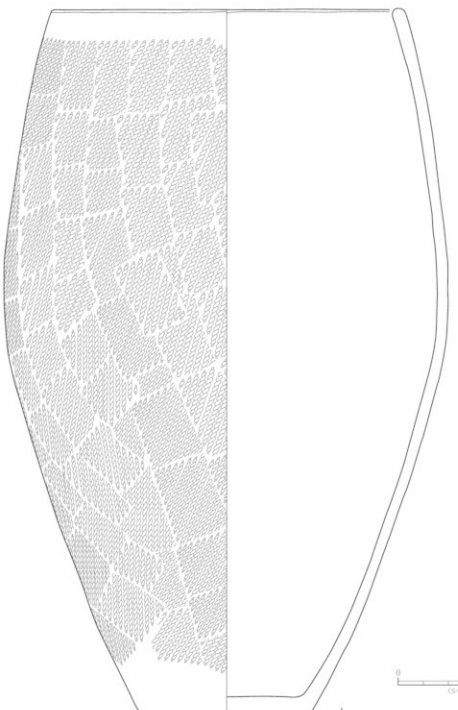
No.	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-747	SX61	-	縄文土器	深鉢	胴部・LR縄文		25-2

第46図　SX61埋設土器

SX82性格不明遺構（第37図）　W310・N30グリッドで検出した。不整な帯状に焼土が分布している遺構であり、遺構配置図に示している。焼土の分布範囲は南北に70㎝、東西に55㎝である。焼土は４㎝程の浅い掘り込み内に堆積している。遺物は出土していない。

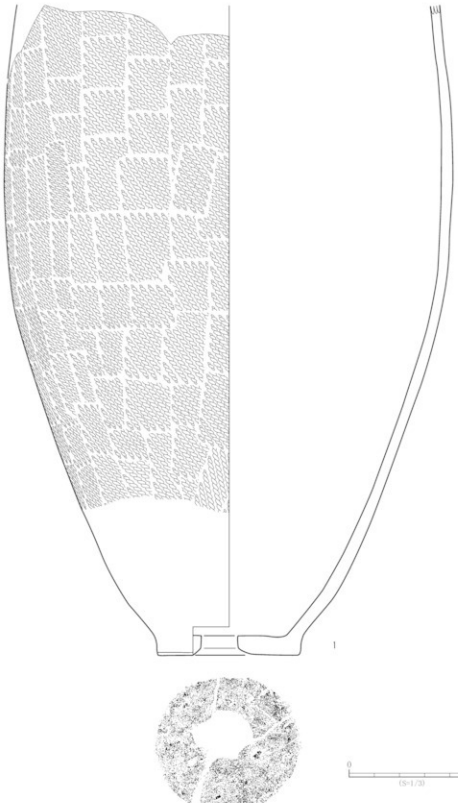
３）ピット（第37図）

ピットはW330・N10グリッドで２基検出した。出土遺物はない。



No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-746	SX64	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部-羽上縄文　底部-無文		25-3

第47図　SX64埋設土器



No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-745	SX67	－	縄文土器	深鉢	口縁～胴部-L R縄文　底部-木葉痕	底部穿孔。	25-4

第48図　SX67埋設土器

（６）刃層中位検出の遺構と遺物（第50図）

１）土　坑

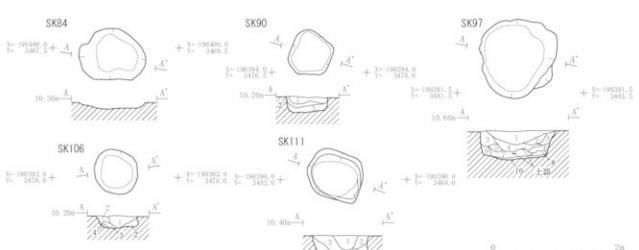
SK84土坑（第49図）　W340・N0-S0～N10グリッドで検出した。平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-85°-Wである。規模は長軸105cm、短軸82cm、深さ８cmである。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。遺物は、台石が１点出土した。

SK90土坑（第49図）　W330・N10グリッドで検出した。平面形は五角形で、長軸方向はN-25°-Eである。規模は長軸70cm、短軸65cm、深さ25cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK97土坑（第49図、図版５）　W320・N10グリッドで検出した。平面形は不整な円形で、規模は径125cm、深さ44cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は10層に分層される。遺物は、縄文土器・石器が出土し、縄文土器３点を第50図１～３に図示した。１はやや内湾しながら開く深鉢である。４単位の双輪状突起を有する波状口縁の間に山形の小突起が付く。胴部上半には沈線文区画の「Ω」字状・「Ｄ」字状文が展開する。２・３は数本単位の条線文が弧状に描かれる。石器は不定形石器１点、二次加工のある剥片１点、剥片３点、砥石１点が出土し、不定形石器１点を第50図６に図示した。上半部を欠損するが、素材となる剥片の両側縁に連続する二次加工が施された削器である。

SK106土坑（第49図）　W330・N10グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で、規模は径70cm、深さ20cmである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は４層に分層される。遺物は出土していない。

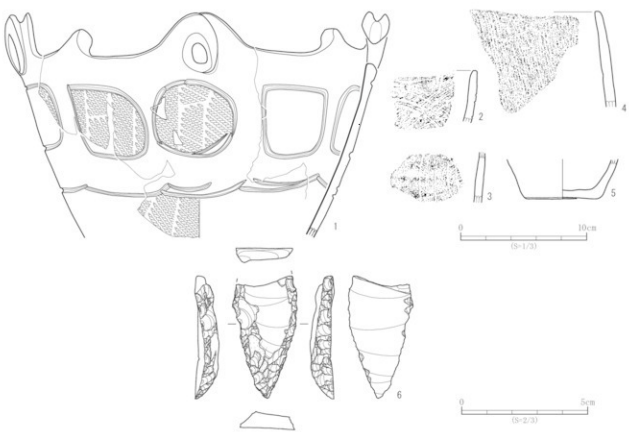
SK111土坑（第49図）　W320・N10～20グリッドで検出した。平面形は不整な楕円形で、長軸方向はN-75°



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SK90	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	-
	2	10YR7/3にぶい黄色	粘土質シルト	-
	3	10YR6/3にぶい黄色	粘土質シルト	-
SK97	1	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
	2	10YR6/3にぶい黄色	粘土質シルト	-
	3	10YR8/4浅黄橙色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロックを含む。
	4	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	10層の小ブロック、炭化物を少量含む。
	5	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	10層の小ブロック、炭化物をわずかに含む。
	6	10YR8/4浅黄橙色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロックを含む。
	7	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物が多く、土器・骨片をわずかに含む。
	8	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	10層の小ブロック、炭化物をわずかに含む。
	9	10YR8/4浅黄橙色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロックを含む。
	10	10YR6/2灰黄褐色	砂質シルト	炭化物が少量混じり、締まりがある。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SK106	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物片をわずかに含む。
	2	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	3層のブロックを含む。
	3	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物片を少量含む。
	4	-	3層土体、灰黄褐色粘土質シルトをわずかに含む。	
SK111	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	-
	2	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	3層のブロック（φ30mm以下）を含む。
	3	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	3層のブロック（φ30mm以下）を多く含む。
	4	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物片をわずかに含む。
	5	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	3層のブロック（φ30mm以下）を多く含む。
	6	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	3層の小ブロックをわずかに含む。締まりがある。

第49図　SK84・90・97・106・111土坑平面図・断面図



No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-649	SK97	2	縄文土器	深鉢	双輪状突起・波状口縁・突起間に小突起　口縁部-沈線文区画・「○」字・「D」字状文		26-1
2	A-654B	SK97	2	縄文土器	深鉢	口縁部-波状口縁・条線文	A-654Cと同一	26-2
3	A-654C	SK97	2	縄文土器	深鉢	胴部-条線文	A-654Bと同一	26-3
4	A-158	SK111	－	縄文土器	深鉢	口縁部-条線文		26-5
5	A-652	SK111	－	縄文土器	深鉢	底部-ナデ		26-6

No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g)	備　考	写真図版
6	Ka-s1-1	SK97	2	打製石器	不定形石器	珪質岩石	(4.8)×(2.5)×1.0　(8.6)	脚部、上部欠損。	26-4

第50図　土坑出土遺物

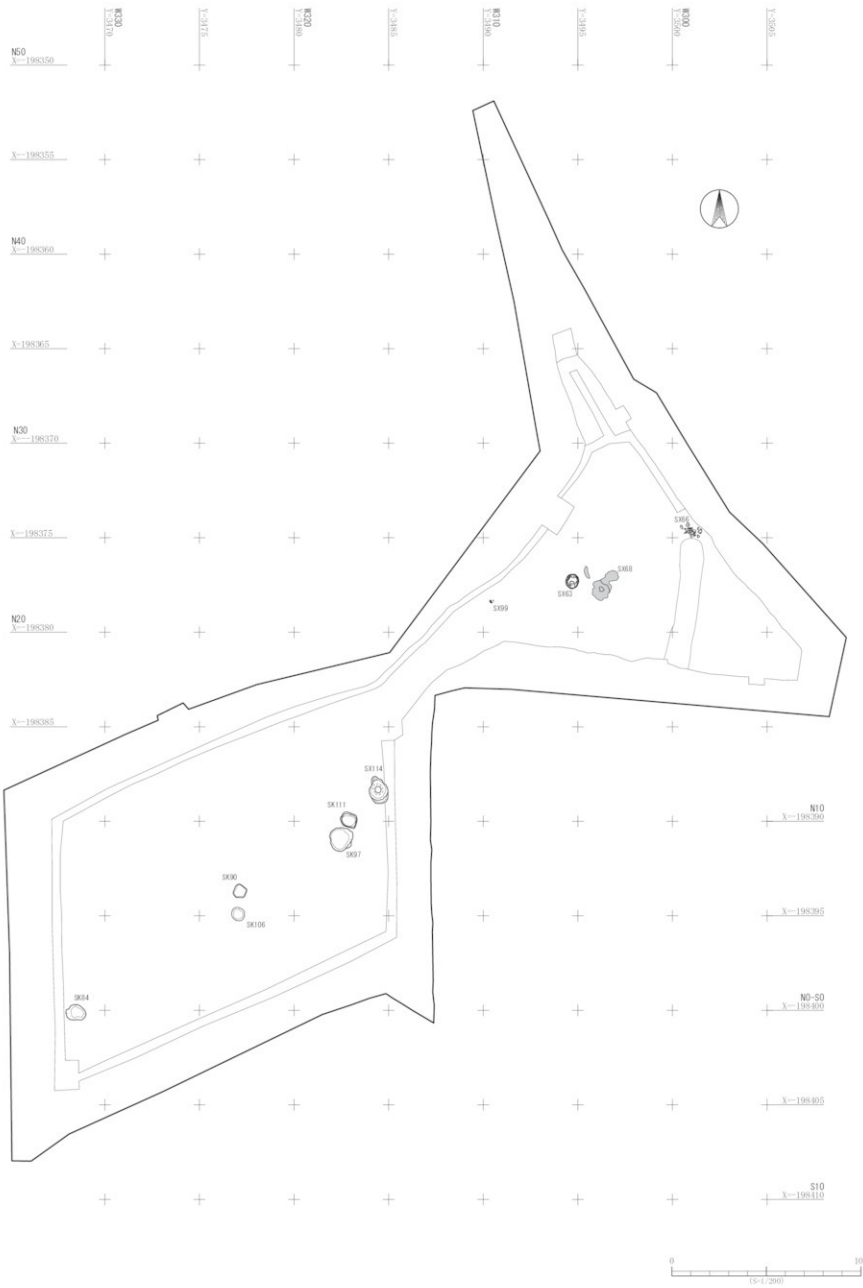
－Wである。規模は長軸90cm、短軸76cm、深さ48cmである。壁面はほぼ垂直または一部オーバーハングして立ち上がり、断面形は円筒形～フラスコ状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は６層に分層される。遺物は、縄文土器２点が出土しており第50図４・５に図示した。４は口縁部が内湾して樽形となる深鉢である。

２）性格不明遺構

SX63性格不明遺構（第52図、図版４）　W310・N30グリッドで検出した。10～30cm大の自然礫を用いて楕円形状に囲い、内側には深鉢が埋設されていた。掘り方の規模は長軸80cm、短軸68cmで、堆積土中に炭化物や骨片が混入した焼土が４cm程堆積していたことから炉の可能性がある。堆積土は５層に分層される。第53図は埋設されていた土器で、胴部下半から底部を欠損している。胴部上半に最大径をもち、口縁部はやや内湾する。「S」字状文が横位に連続して展開し、４単位の文様帯となる。胴部上半部は左方向へ連続押捺される鱗状刺突文が施文される。

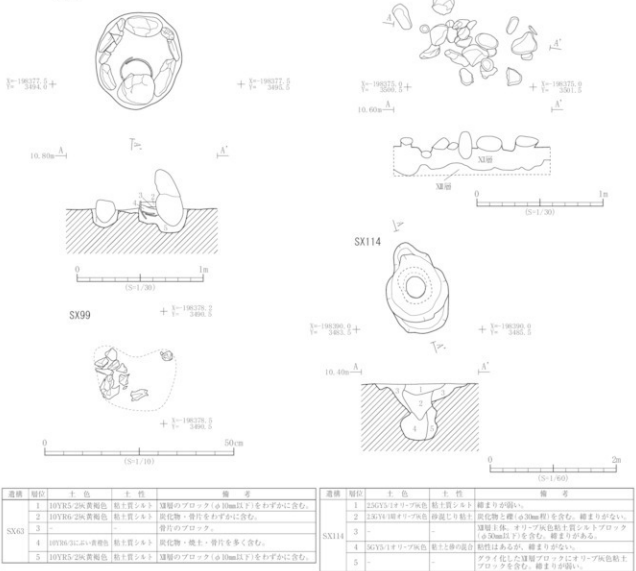
SX66性格不明遺構（第52図）　W300・N30グリッドで22個の礫のまとまりを検出した。範囲は東西120cm、南北60cmである。この中に磨石１点、凹石１点があり、磨石１点を第54図に図示した。表裏面に研磨痕が観察される。

SX68性格不明遺構（第51図）　W310・N30グリッドで検出した。不整形な浅い掘り込みにブロック状の焼土が堆積しているもので炉の可能性がある。範囲は北東から南西170cm、北西から南東100cm、深さ10cm程である。遺物は出土していない。



第51図　下ノ内遺跡１Ｂ区Ⅺ層中位遺構配置図

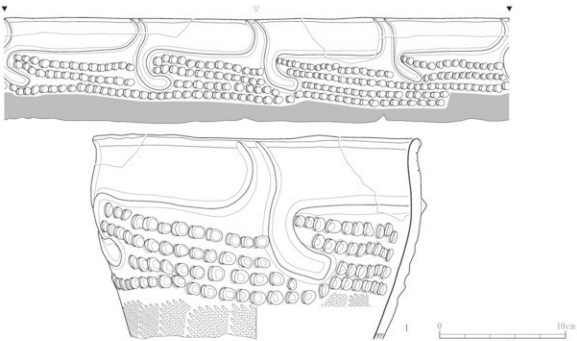
SX99性格不明遺構（第52図、図版４）　W310・N30グリッドで検出した。20×15cmの範囲に打製石器等が29点集中して出土したものであるが、掘り方等は検出していない。石器の器種別の内訳は石鏃１点、不定形石器４点、微細剥離痕のある剥片16点、剥片８点、石核１点である。４個の母岩から剥離されたものと考えられ、そのうちの２母岩に接合関係が認められた。以上のことからこの一括遺物は打製石器の素材として集められていたが、遺棄されたものと推測される。なお、石核との接合関係はない。これらの内、石鏃１点、不定形石器２点、接合関係を持つ微細剥離痕のある剥片６点を第55・56図に図示し、その他の石器は図版26・27に写真を掲載した。第55図１は石鏃である。表裏に平行剥離による加工が施されるが、表裏のそれぞれ右側縁の一部に素材面が残されており、先端部の作り出しが実測状ではないことから未製品と考えられる。２は不定形石器の削器である。素材の側縁部に連続した二次加工を施して刃部を作出したものである。刃部加工は素材に対して鋭角に施されている。３～６は微細剥離痕のある剥片の接合資料である。それぞれの縁辺部や稜線の一部に微細な剥離痕が観察されるが、使用によるものか不明である。７は３～６の接合図である。この図からは、剥離面を打面として縦長剥片が連続して剥離されている状況が認められ、打点が石核に対して左方向へ横移動していく様子が理解できる。なお、A－1剥片の背面に



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SX63	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	X線のブロック（φ10mm以下）をわずかに含む。
	2	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物・骨片をわずかに含む。
	3	-	-	骨片のブロック。
	4	10YR6/3にぶい黄橙色	粘土質シルト	炭化物・焼土・骨片を多く含む。
	5	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	X線のブロック（φ10mm以下）をわずかに含む。

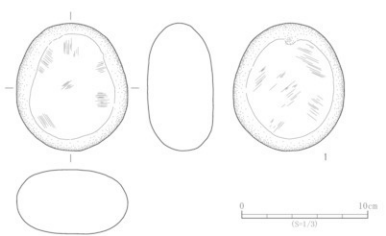
遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SX114	1	2.5GY5/1オリーブ灰色	粘土質シルト	締まりが弱い。
	2	2.5GY4/1オリーブ灰色	粘質土り粘土	炭化物と礫（φ30mm程）を含む。締まりがない。
	3	-	-	X線主体、オリーブ灰色粘土質シルトブロック（φ50mm以下）を含む。締まりがある。
	4	5GY5/1オリーブ灰色	粘土と砂の混合	粘性はあるが、締まりがない。
	5	-	-	グライ化した X線ブロックにオリーブ灰色粘土ブロックを含む。締まりが弱い。

第52図　SX63・66・99・114性格不明遺構平面図・断面図



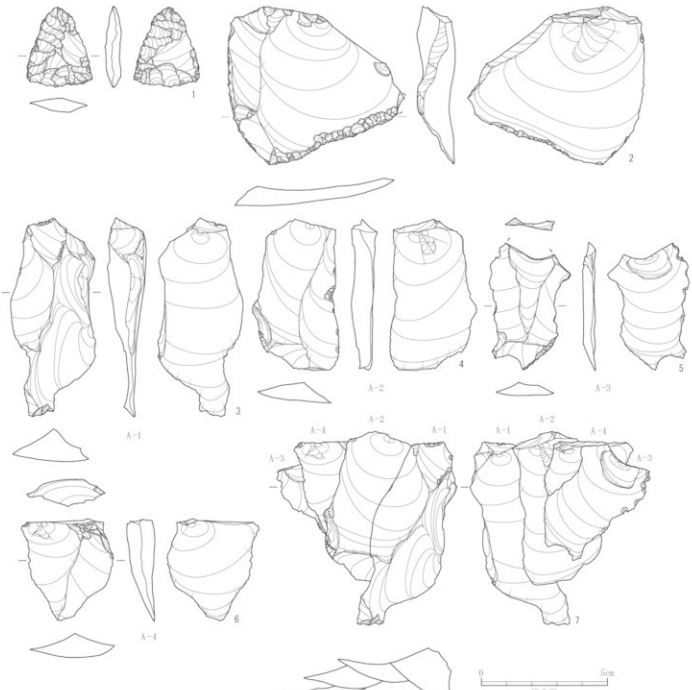
No.	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-727	SX63P-周辺土器	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部-隆線文区画・「S」字状文・横状刺突文・L R縄文		26-7

第53図　SX63性格不明遺構出土遺物



No.	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g)	備考	写真図版
1	Kc-a-2	SX66	-	礫石器	磨石	安山岩	10.2×8.8×5.2　655.0	磨1+1。	26-8

第54図　SX66性格不明遺構出土遺物



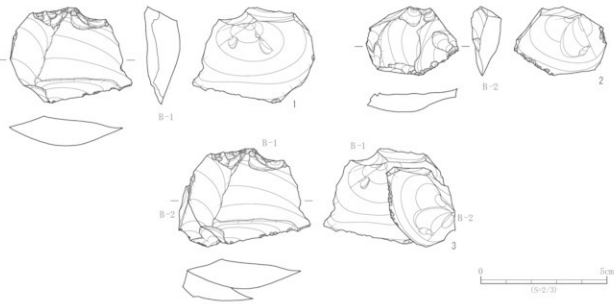
No	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g)	備考	写真図版
1	Ka-a2-1	SX99	－	打製石器	石鏃	珪質頁岩	3.2×2.6×0.7　4.4	平基鏃、未製品、接合資料とは別個体。	26-9
2	Ka-e1-2	SX99	－	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	6.2×7.0×1.5　41.5	削器、接合資料とは別個体。	26-10
3	Ka-k-1	SX99	－	打製石器	微細剥離痕のある剥片	珪質頁岩	7.8×3.4×1.5　25.6	接合資料A-1。	－
4	Ka-k-2	SX99	－	打製石器	微細剥離痕のある剥片	珪質頁岩	6.0×3.5×1.0　13.4	接合資料A-2。	－
5	Ka-k-3	SX99	－	打製石器	微細剥離痕のある剥片	珪質頁岩	5.0×3.2×0.5　5.6	打面欠損。接合資料A-3。	－
6	Ka-k-4	SX99	－	打製石器	微細剥離痕のある剥片	珪質頁岩	4.1×3.7×1.1　11.0	接合資料A-4。	－
7	Ka-k1+2+3+4					珪質頁岩	7.7×7.2×2.1　55.6	接合資料A接合図。	26-11

第55図　SX99性格不明遺構出土遺物（１）

は横方向からの剥離痕も観察されていることから、90度の打面転移を行っている状況も推測される。

第56図１・２は微細剥離痕のある剥片と不定形石器の接合資料である。１は微細剥離痕のある剥片である。打面は剥離面打面であり、背面の打面部には頭部調整も認められる。２は不定形石器であり、器体の下面部に二次加工が施される。打面は剥離面打面であり、背面の打面には頭部調整が認められる。３は１・２の接合図である。この図から２点の接合から90度の打面転移が認められ、さらにB－１剥片の背面に残された剥離痕の方向から180度の打面転移も観察される。

SX114性格不明遺構（第52図）　W320・N20グリッドで検出した。不整な楕円形で、長軸方向はN－18°－Wである。規模は長軸148cm、短軸98cm、深さ90cmである。壁面は底面から大きくオーバーハングし、途中から外側に開いて立ち上がり、断面形はフラスコ状～擂鉢状である。底面はほぼ平坦である。堆積土は５層に分層される。遺物は出土していない。



No.	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Ka-k-5	SX99	－	打製石器	微細剥離痕のある剥片	珪質頁岩	3.8×4.9×0.9　17.9	横長剥片。接合資料B-1。	－
2	Ka-e6-1	SX99	－	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	2.8×3.7×1.2　8.3	RF。横長剥片。接合資料B-2。	－
3	Ka-e6-1+Ka-K-5					珪質頁岩	3.9×5.3×1.7　26.2	接合資料B接合図。	26-12

第56図　SX99性格不明遺構出土遺物（２）

（７）Ⅻ層検出の遺構と遺物（第58図、図版３）

１）掘立柱建物跡

SB139掘立柱建物跡（第57図、図版３）　W310・N30グリッドで検出した。SK85・113、P898・899・902と重複関係にあり、SK85・113より古く、他の遺構より新しい。８本の柱穴が亀甲形に配置され、長辺は３本の柱からなり、総長3.80mである。短辺は３本の柱が屈折しており、総長は3.00mである。方向はN-18°-Eである。柱穴の掘り方はほぼ円形で、規模は径39～71cm、深さは40～63cmである。P１～５・７・８から直径15～40cmの柱痕跡を検出した。本遺構中央には Ⅻ層上面で検出されたSX68が存在し、炉の可能性も考えられる。遺物は、磨石１点が出土した。

２）土　坑

SK72土坑（第59図）　W300・N20グリッドで検出した。東側の調査区外へ延びる。SK83と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形と思われ、検出した規模は東西80cm、南北70cm、深さ32cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面は擂鉢状である。堆積土は２層に分層される。遺物は、縄文土器１点、磨石が１点出土し、縄文土器１点を第63図１に図示した。胴部上位に最大径をもつ深鉢で隆沈線文による区画文様帯が横位に展開する。また、玉抱き状隆線文の先端部は鰭状となる。

SK74土坑（第59図）　W300・N20グリッドで検出した。SK94、P882・883と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で長軸方向はN-2°-Wである。規模は長軸68cm、短軸55cm、深さ18cmである。壁面は開いた角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面は擂鉢状である。遺物は、磨石が１点出土し、第66図１に図示した。扁平な円礫の表裏の平坦面に研磨痕が観察される。研磨面の中央部に研磨以前の敲打痕も認められる。

SK75土坑（第59図）　W300・N20グリッドで検出した。SK94と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で、規模は径80cm、深さ17cmである。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK76土坑（第59図）　W300・N20グリッドで検出した。P886と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-25°-Eである。規模は長軸65cm、短軸45cm、深さ29cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は４層に分層される。遺物は、縄文土器１点が出土し、第63図２に図示した。隆沈線文で文様が構成される。中期中葉の遺物で混入品と思われる。

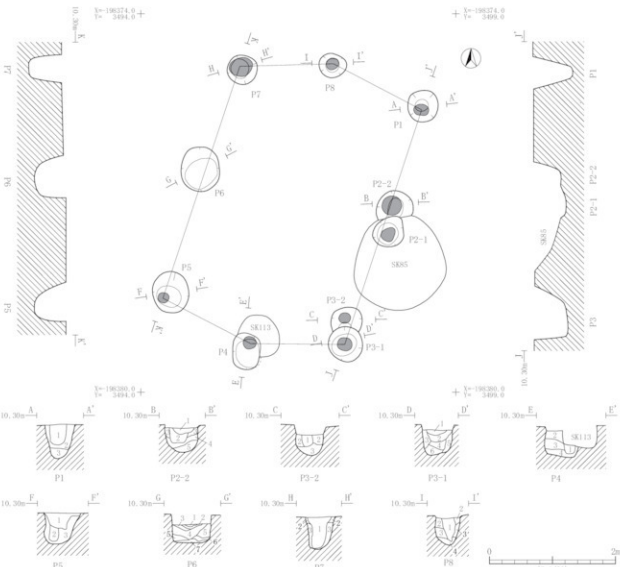
SK78土坑（第59図）　W300・N20グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。平面形は楕円形と考えられ、長軸方向はN-54°-Wである。検出した規模は長軸方向105cm、短軸60cm、深さ37cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は不整形で、底面には凹凸がある。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK79土坑（第59図）　W300・N20～30グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-50°-Eである。規模は長軸105cm、短軸70cm、深さ20cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は幅広のU字形で、底面はほぼ平坦で、南隅にピット状の掘り込みを有する。堆積土は２層に分層される。遺物は、縄文土器が１点出土した。

SK81土坑（第59図）　W300・N30グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で、規模は径100cm、深さ35cmである。壁面は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。底面はほぼ平坦である。堆積土は４層に分層される。遺物は、縄文土器が１点出土し、第63図３に図示した。

SK82土坑（第59図）　W300～310・N30グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-13°-Eである。規模は長軸115cm、短軸80cm、深さ32cmで、壁面はやや急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面は浅い擂鉢状である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK83土坑（第59図）　W300・N20～30グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。SK72と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形はほぼ円形と思われ、規模は径70cm、深さ23cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SB139 P1	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物粒を少量含む。（柱痕）
	2	10YR4/4にぶい黄褐色	砂質シルト	基盤の小ブロックを多量含む。
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト小ブロックを少量含む。
SB139 P2-2	1	10YR3/4暗褐色	シルト	〃
	2	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物を少量含む。（柱痕）
	3	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを多量含む。
	4	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを多量含む。
	5	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	基盤のブロックを多量含む。
SB139 P3-1	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。（柱痕）
	2	10YR4/4にぶい黄褐色	シルト	基盤の小ブロックを多量含む。（柱痕）
	3	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを多量含む。
	4	10YR3/4暗褐色	シルト	〃
	5	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを多量含む。
	6	10YR4/4にぶい黄褐色	シルト	基盤の小ブロックを少量含む。
SB139 P3-2	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。（柱痕）
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	基盤の粒子を多量含む。
	3	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを含む。
SB139 P4	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。（柱痕）
	2	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SB139 P4	3	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを含む。
	4	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを含む。
SB139 P5	1	10YR3/4暗褐色	シルト	基盤の粒子を多量含む。
	2	10YR2/3黒褐色	シルト	（柱痕）
	3	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを多量含む。
SB139 P6	1	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	〃
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	〃
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	〃
	4	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	〃
	5	10YR2/3黒褐色	シルト	〃
	6	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	〃
	7	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを含む。
SB139 P7	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物粒を少量含む。（柱痕）
	2	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを多量含む。
	3	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを多量含む。
SB139 P8	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物粒・基盤のブロックを多量含む。（柱痕）
	2	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	炭化物粒・基盤のブロックを少量含む。
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	基盤のブロックを少量含む。
	4	10YR5/6黄褐色	砂	基盤のブロックを含む。

第57図　SB139掘立柱建物跡平面図・断面図

第58図　下ノ内遺跡1B区XII層遺構配置図

字形で、底面は凹凸があり、ピット状の掘り込みが３ヶ所確認された。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK85土坑（第59図）W310・N30グリッドで検出した。SB139、SK121、P901・902と重複関係にあり、SB139より古く、他の遺構より新しい。平面形はほぼ円形で、規模は径150cm、深さ45cmである。壁面は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。底面は浅い擂鉢状である。堆積土は３層に分層される。遺物は、縄文土器１点、二次加工のある剥片１点、石核１点が出土し、縄文土器を第63図４に図示した。小型の深鉢で、沈線文による区画を有する。

SK88土坑（第59図、図版５）W310・N30グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-87°-Eである。規模は長軸95cm、短軸82cm、深さ25cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層され、礫・土器を含む。また中央部分では長さ70cmほどの大型の礫が横倒しになった状態で検出されている。遺物は、縄文土器１点が出土した。

SK91土坑（第59図）W300・N30グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で、規模は径82cm、深さ12cmである。壁面はやや急角度で立ち上がり、断面形は幅広のU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK92土坑（第59図）W300・N30グリッドで検出した。P780・782と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-65°-Wである。規模は長軸95cm、短軸75cm、深さ20cmで、壁面はやや急角度で立ち上がる。断面形は幅広のU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は３層に分層される。遺物は、縄文土器１点、石錐１点、剥片１点が出土し、石錐１点を第66図２に図示した。錐部を欠損するが、縁辺部を中心に施された二次加工によってつまみ部と錐部が作出されている。

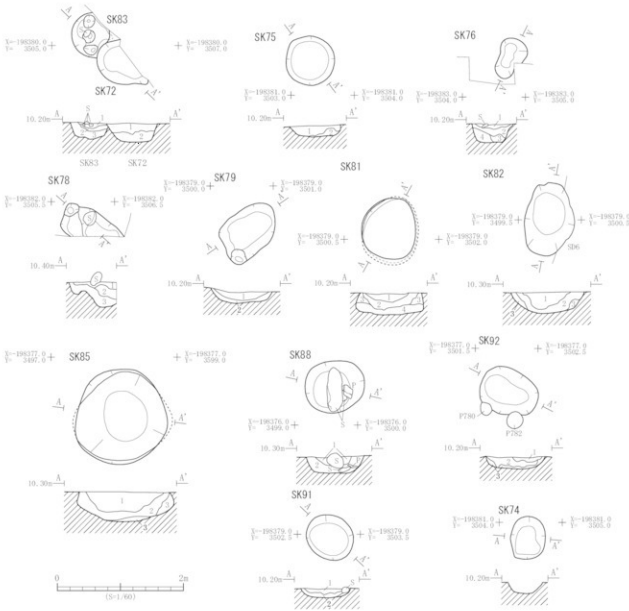
SK93土坑（第60図、図版５）W300・N20～30グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で、規模は径73cm、深さ27cmである。壁面は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。底面には凹凸がある。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK94土坑（第60図）W300・N20グリッドで検出した。SK74・75、P883と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整な楕円形で、長軸方向はN-87°-Wである。規模は長軸150cm、短軸122cm、深さ25cmで、壁面はやや急角度で立ち上がる。断面形は幅広のU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は５層に分層される。遺物は、縄文土器１点が出土した。

SK95土坑（第60図、図版５）W310・N30グリッドで検出した。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-45°-Eである。規模は長軸150cm、短軸方向の検出長123cm、深さ80cmである。壁面は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。底面は浅い擂鉢状である。堆積土は６層に分層される。２・３・６層は炭化物を含みクルミが出土し、樹種同定を行った。遺物は、縄文土器２点、土製円盤１点、石器は石鏃２点、二次加工のある剥片３点、剥片４点が出土し、土器・土製品を第63図５～７、石器を第66図３・４に図示した。第63図５は山形突起で沈線文区画内には円形刺突文が充填されている。７は土製円盤で胴部破片を打ち欠いて成形されている。第66図３・４は石鏃である。基部の抉りが浅い。調整加工は両面に施され、特に３では表裏に平行剥離痕が観察され、表裏中央稜線上にはタール状の黒色付着物が認められた。

SK96土坑（第60図）W300・N20～30グリッドで検出した。SK94と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸方形で、規模は長軸115cm、短軸100cm、深さ28cmである。長軸方向はN-4°-Eである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

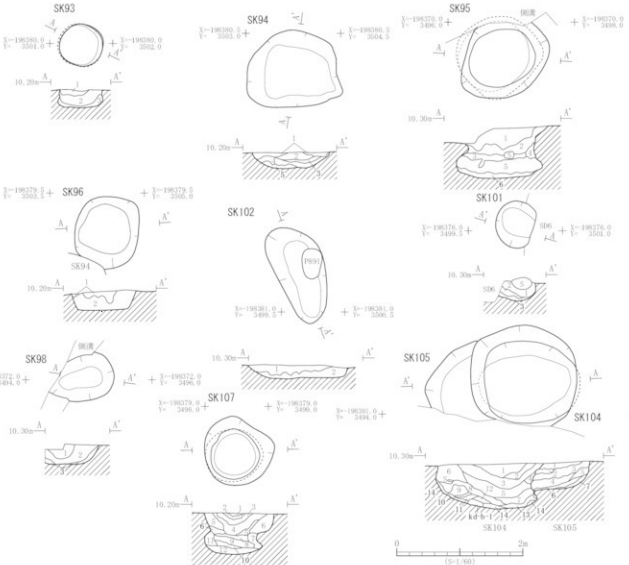
SK98土坑（第60図）W310・N30グリッドで検出し、西側の調査区外へ延びる。P895と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形と思われ、検出した規模は長軸108cm、短軸70cm、深さ30cmである。長軸方向は



遺構	層位	土色	土性	備考
SK72	1	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒を少量含む。
	2	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒を多量含む。
SK75	1	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒を少量含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。
SK76	1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物粒を多量含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。
	3	10YR4/4褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。
	4	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。
SK78	1	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。
	3	10YR4/6褐色	砂質シルト	炭化物粒を多量含む。
SK79	1	2.5GY3/1暗オリーブ色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。グライ化している。
	2	2.5GY4/1暗オリーブ色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。グライ化している。
SK81	1	2.5GY3/1暗オリーブ色	砂質シルト	炭化物を少量、又層下部のブロックを多量含む。グライ化している。
	2	2.5GY4/1暗オリーブ色	砂質シルト	炭化物を多量含む。又層下部のブロックを少量含む。グライ化している。
	3	5GY4/1暗オリーブ色	砂質シルト	炭化物・又層下部のブロックを少量含む。グライ化している。
	4	2.5GY4/1暗オリーブ色	砂質シルト	炭化物・又層下部のブロックを少量含む。グライ化している。

遺構	層位	土色	土性	備考
SK82	1	2.5Y5/4黄灰色	シルト	炭化物粒を少量含む。
	2	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	シルト	又層の小ブロックを多量、炭化物粒を少量含む。
	3	2.5Y5/4黄褐色	砂質シルト	又層のブロックに黄灰色シルト粒を多量含む。
SK83	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物粒を多量含む。
	2	10YR3/3にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルトブロックを多量含む。
	3	10YR3/3にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物・暗褐色砂質シルトブロックを多量含む。
SK85	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物粒・焼土粒を少量含む。
SK88	2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	又層のブロックを多量含む。
	3	10YR4/4褐色	砂質シルト	又層のブロックを含む。
SK88	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物粒を少量含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	、
SK91	1	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む。
SK92	1	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。
	2	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	又層のブロックに炭化物粒を少量含む。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	又層のブロックに炭化物粒を少量含む。

第59図　SK72・74～76・78・79・81～83・85・88・91・92土坑平面図・断面図



遺構	層位	土色	土性	備考
SK93	1	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。
	2	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒・礫のブロックを多量含む。
	3	10YR4/2にぶい黄褐色	砂質シルト	礫のブロックに炭化物粒を少量含む。
SK94	1	2.5Y7/6明黄褐色	砂質シルト	炭化物粒・焼土粒を含む。
	2	2.5Y6/6明黄褐色	砂質シルト	炭化物粒を含む。
	3	2.5Y7/6明黄褐色	砂質シルト	炭化物粒・焼土粒を含む。
	4	2.5Y6/6明黄褐色	砂質シルト	炭化物粒を含む。
	5	2.5Y7/6明黄褐色	砂質シルト	焼土粒を含む。
SK95	1	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	炭化物粒・礫のブロックを少量含む。
	3	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物（ラミ片を含む）を多量、礫のブロックを少量含む。
	4	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト小ブロックを含む。
	5	10YR5/6黄褐色	砂	礫層の大ブロックに暗褐色シルト小ブロックを少量、炭化物粒を含む。
	6	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物を多量、礫のブロックを少量含む。
SK96	1	2.5Y7/6明黄褐色	砂質シルト	炭化物粒・焼土粒を含む。
	2	2.5Y6/6明黄褐色	砂質シルト	炭化物粒を含む。
	3	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物粒を少量含む。
SK98	2	10YR4/2にぶい黄褐色	砂質シルト	礫のブロックを多量含む。
	3	10YR5/2にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト小ブロックを少量含む。
SK101	1	10YR3/4暗褐色	シルト	礫のブロックを少量含む。
	2	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	礫のブロックを多量含む。
	3	10YR5/8黄褐色	砂質シルト	礫のブロックに暗褐色シルト粒を少量含む。
SK102	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物粒・礫のブロックを少量含む。
	2	10YR5/8黄褐色	砂質シルト	礫のブロックを多量含む。
SK104	1	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物粒を多量含む。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物粒を多量、礫のブロックを少量含む。
	3	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物粒・礫のブロックを少量含む。
	4	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物粒・礫のブロックを多量含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
SK104	5	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物粒・礫層のブロックを少量含む。
	6	10YR4/4褐色	砂質シルト	礫層のブロックを多量含む。
	7	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物粒・礫層のブロックを少量含む。
	8	10YR3/3暗褐色	シルト	礫層のブロックを多量含む。
	9	10YR5/6黄褐色	砂	礫層のブロックを含む。
	10	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物・礫層のブロックを少量含む。
	11	10YR5/6黄褐色	砂	礫層のブロックを含む。
	12	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物・礫層のブロックを少量含む。
	13	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物（ラミ片が含まれる）を多量含む。
	14	10YR5/2にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物・礫層のブロックを含む。
SK105	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物・焼土粒を少量含む。
	2	2.5Y4/4オリーブ褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒を少量含む。
	3	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を多量含む。
	4	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物を多量含む。
	5	10YR5/6黄褐色	砂	礫層のブロックを含む。
	6	10YR4/4褐色	シルト	礫層のブロックに炭化物を少量含む。
	7	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	礫層のブロックが多量、炭化物を少量含む。
SK107	1	10YR4/4褐色	シルト	炭化物粒・礫層の小ブロックを少量含む。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物粒を含む。
	3	10YR4/4褐色	シルト	炭化物粒・礫層の小ブロックを少量含む。
	4	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物粒を含む。
	5	10YR4/4褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量、礫層のブロックを多量含む。
	6	10YR3/4にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量、礫層のブロックを多量含む。
	7	10YR5/6黄褐色	砂	礫層のブロックを含む。
	8	10YR3/4にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量、礫層のブロックを多量含む。
	9	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	炭化物粒を多量含む。
	10	10YR3/4にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量、礫層のブロックを多量含む。
	11	10YR5/6黄褐色	砂	礫層のブロックを含む。
	12	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む。

第60図　SK93～96・98・101・102・104・105・107土坑平面図・断面図

Ｎ-71°-Ｅである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はＵ字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

ＳＫ101土坑（第60図）　Ｗ300～310・Ｎ30グリッドで検出した。東側がⅢ層検出のＳＤ６に削平されている。平面形は円形または楕円形で、規模は南北72㎝、東西の検出長60㎝、深さ29㎝である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はＵ字形で、底面は浅い擂鉢状である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

ＳＫ102土坑（第60図）　Ｗ300～310・Ｎ20～30グリッドで検出した。Ｐ891と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はＮ-20°-Ｗである。規模は長軸160㎝、短軸80㎝、深さ20㎝で、北壁は緩やかに立ち上がるが、南壁は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

ＳＫ104土坑（第60図、図版５）　Ｗ310・Ｎ20～30グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。ＳＫ105と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で、規模は径170㎝、深さ70㎝、壁面は底面からオーバーハングして立ち上がる。断面形はフラスコ状で、底面は浅い擂鉢状である。堆積土は14層に分層される。遺物は、土器・石器が出土し、土器を第63図８に図示した。沈線区画文が施文される。石器は敲石１点、石棒１点が出土し、石棒を第66図６に図示した。土坑底面から出土した。大型円柱礫で頭部を欠損する。残存部では礫の形状を変えていないが、底面の一部に敲打痕が認められ、胴部には敲打による凹みもある。

ＳＫ105土坑（第60図、図版５）　Ｗ310・Ｎ20グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。ＳＫ104と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は円形または楕円形と思われるが、規模は不明で、深さ40㎝である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形と思われる。底面はほぼ平坦で、堆積土は７層に分層される。遺物は、土器・石器が出土した。縄文土器は４点出土し、そのうち２点を第63図10・11に図示した。10は緩やかな波状口縁、11は沈線文区画が玉抱き状となり、刺突文・Ｌ撚糸文が施文される。石器は不定形石器１点、微細剥離痕のある剥片３点が出土し、不定形石器１点を第66図５に図示した。下半部を欠損するが、両側縁に二次加工が施された削器である。なお、欠損面にも二次加工が認められる。

ＳＫ107土坑（第60図）　Ｗ310・Ｎ20～30グリッドで検出した。Ｐ905・907と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整な円形で、規模は径110㎝、深さ66㎝である。壁面は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状で、底面は皿状である。堆積土は12層に分層される。遺物は、縄文土器１点、土製円盤１点、微細剥離痕のある剥片２点、剥片１点が出土し、土製円盤１点を第63図９に図示した。

ＳＫ108土坑（第61図、図版５）　Ｗ310～320・Ｎ20～30グリッドで検出した。ＳＫ133と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で、規模は径120㎝、深さ45㎝である。壁面は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は８層に分層される。遺物は、縄文土器２点、微細剥離痕のある剥片１点が出土し、縄文土器２点を第63図12・13に図示した。12は胴部中位から口縁部にかけてほぼ垂直に立ち上がる深鉢である。

ＳＫ109土坑（第61図）　Ｗ310・Ｎ30グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で、規模は径65㎝、深さ25㎝である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形である。底面の中央に浅いピット状の掘り込みが認められ凹凸がある。堆積土は３層に分層される。遺物は、縄文土器２点、土製円盤１点が出土し、第64図１～３に図示した。１・２は波状口縁で隆線文及び隆沈線区画文を有する。３は土製円盤で胴部破片を利用している。

ＳＫ112土坑（第61図）　Ｗ310・Ｎ20～30グリッドで検出した。Ｐ910と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は径90㎝のほぼ円形で、深さ20㎝である。壁面はやや急角度で立ち上がり、断面形は幅広のＵ字形である。底面にはやや凹凸がある。堆積土は３層に分層され、遺物は出土していない。

ＳＫ113土坑（第61図）　Ｗ310・Ｎ30グリッドで検出した。ＳＢ139のＰ４と重複関係にあり、本遺構が新しい。平

面形はほぼ円形で径65cm、深さ31cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は４層に分層される。遺物は、剥片１点が出土した。

SK115土坑（第61図）　W310・N30グリッドで検出した。P915と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で径70cm、深さ22cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形で、底面にはやや凹凸がある。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK116土坑（第61図）　W320・N30グリッドで検出し、北西側の調査区外へ延びる。平面形は円形または楕円形と思われ、検出した規模は北東から南西98cm、北西から南東85cm、深さ15cmである。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面は擂鉢状である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK117土坑（第61図）　W320・N20グリッドで検出した。P918と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN－42°－Wである。規模は長軸83cm、短軸72cm、深さ23cmである。壁面は急角度で立ち上がる。断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は、剥片２点が出土した。

SK130土坑（第61図）　W320・N20グリッドで検出し、北側の調査区外へ延びる。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN－50°－Wである。規模は長軸検出長98cm、短軸72cm、深さ25cmで、壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は幅広のU字形で、底面は皿状である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK132土坑（第61図）　W320・N20グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で径55cm、深さ23cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK133土坑（第61図）　W310～320・N20～30グリッドで検出した。SK108と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN－76°－Wである。検出した規模は長軸方向で100cm、短軸90cm、深さ17cmである。壁面はやや急角度で立ち上がり、断面形は幅広のU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

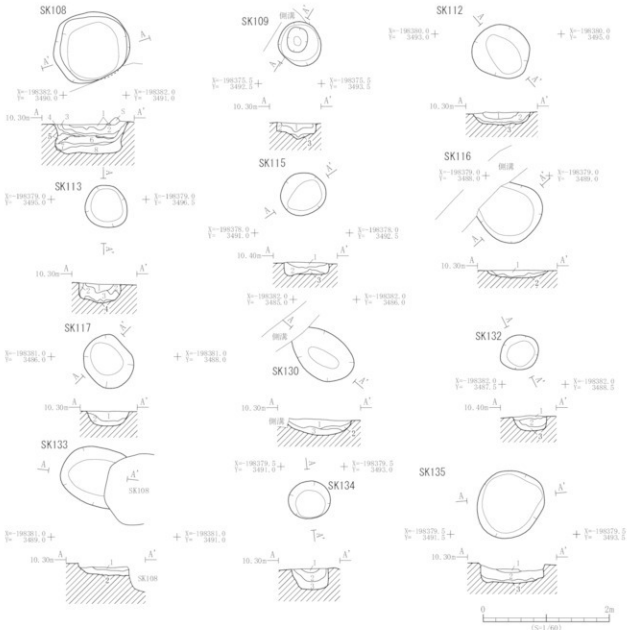
SK134土坑（第61図）　W310・N20～30グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で径65cm、深さ30cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK135土坑（第61図）　W310・N30グリッドで検出した。平面形はほぼ円形で径105cm、深さ29cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK141土坑（第62図）　W310・N40グリッドで検出した。遺構上面を撹乱で削平されている。平面形はほぼ円形で径60cm、深さ35cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はU字形で、底面は皿状である。遺物は、縄文土器が１点出土し、第64図４に図示した。深鉢胴部の破片で隆沈線文が施文される。中期中葉のものである。

SK142土坑（第62図）　W310・N40グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN－44°－Wである。検出した規模は北西から南東68cm、北東から南西30cm、深さ25cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

SK143土坑（第62図）　W310・N40グリッドで検出した。河川跡（SR3）と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不明である。検出した規模は東西134cm、南北98cm、深さ24cmで、壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は幅広のU字形と思われ、底面はほぼ平坦である。遺物は、縄文土器２点、剥片１点が出土し、縄文土器２点を第64図５・６に図示した。いずれも深鉢の口縁部破片である。



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SK108	1	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物・灰を多量含む。
	2	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物・灰を少量含む。
	3	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物・灰を多量含む。
	4	10YR5/6黄褐色	砂	SK108のブロックに炭化物を少量含む。
	5	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物・灰を多量含む。
	6	10YR5/6黄褐色	砂	SK108のブロックに炭化物を少量含む。上面が堅い。
	7	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	8	10YR5/6黄褐色	砂	SK108のブロックに炭化物を少量含む。
SK109	1	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物粒を少量含む。
	2	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックを含む。
SK112	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物・SK108のブロックを少量含む。
	3	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む。
SK113	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物粒・焼土粒・灰・骨粉を多量含む。
	2	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む。SK108のブロックを含む。
	3	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物・SK108のブロックを多量含む。
	4	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックに炭化物を少量含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SK115	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	2	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	SK108のブロックを少量含む。
	3	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックを多量含む。
SK116	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	2	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックを多量含む。
SK117	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	2	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックを多量含む。
SK130	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	2	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックを多量含む。
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックを多量含む。炭化物を少量含む。
SK132	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	2	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックを多量含む。
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックを多量含む。
SK133	1	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	SK108のブロックを少量含む。
	2	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックを含む。
SK134	1	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックを含む。
	2	10YR5/2にぶい黄褐色	シルト	SK108のブロックを多量含む。
	3	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックを多量含む。
SK135	1	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	SK108のブロックを多量含む。
	3	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	SK108のブロックを多量含む。

第61図　SK108・109・112・113・115～117・130・132～135土坑平面図・断面図

第62図　SK141～143土坑平面図・断面図

３）性格不明遺構

SX89性格不明遺構（第65図）　W320～330・N10グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向はN-5°-Eである。規模は長軸448㎝、短軸60～285㎝、深さ35～70㎝である。床面には段差を有し、断面形は不整形である。遺物は、縄文土器が１点出土しており、第67図に図示した。胴部下半から底部を欠損する。口縁部から垂下する隆線文が胴部中位からやや上で横方向へ湾曲して４単位の区画を構成し、区画内には鱗状の刺突文が３～４段にわたって左方向から右方向へ連続して施される。

４）ピット

ピット（第58図）　調査区中央部から東部に分布し、56基のピット（P86・119・121・124～129・131（柱痕有り）、873～902・904～919）を検出した。遺物は、P86から縄文土器が１点出土し、第68図１に図示した。小型の鉢または壺で胴部中位から底部が残存する。底部は上げ底風となる。内面には黒色の有機物が付着している。また、P919より楔形石器が１点出土し、第68図２に図示した。裏面に主要剥離面の一部が残される。素材の剥片を横方向に用いて、上下から両極打法による二次加工が施され、左側面には上方向からの裁断面も観察される。

（８）遺構外出土の遺物（第69～89図）

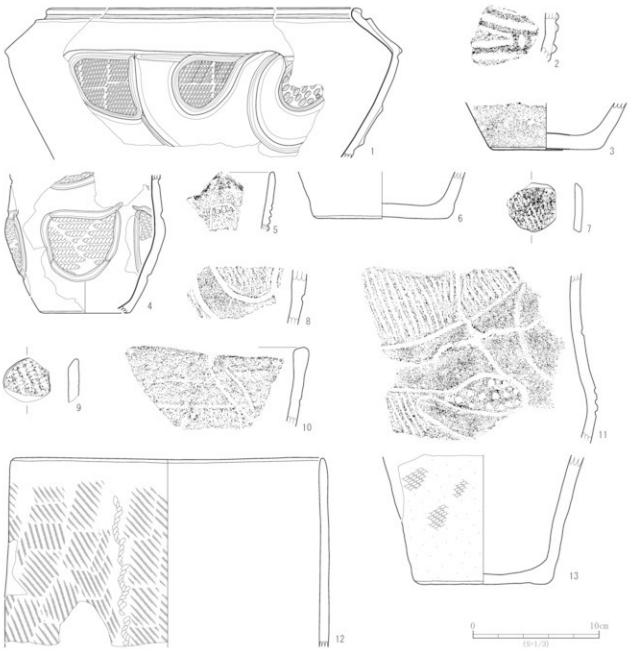
中・近世陶磁器類、古代・古墳時代の土器及び金属製品、弥生土器、縄文土器及び土製品、石器が出土した。縄文時代から述べる。なお、縄文時代の遺物は遺物量が多いことから土器・土製品、石器の順で各層ごとに記述する。

１）縄文時代

Ⅸ層出土土器・土製品（第69～71図、図版29・30）　縄文土器31点、土製品２点を図示した。第69図１は頸部でわずかに括れて胴部が若干張る深鉢で、刻目を有する隆線文により十文字に区画される。上段の区画は無文、下段の上半に円形刺突文が施文される。２はやや小型の深鉢で波状口縁である。文様の詳細は不明であるが、２本あるいは３本が一単位となる沈線文が施文されている。５は小型の深鉢で、４単位の波状口縁で、頸部に一条の沈線文が巡る。７は底部中央が穿孔されている。８は頸部が強く括れる深鉢で、口縁部には胴部と一対になると思われる橋状の取手が付く。第70図１・２は同一個体で、沈線区画により文様が構成され、区画内には刺突文が施される。５は波状口縁の突起部下が沈線文で区画され、刺突文が充填される。また、６は波状の口縁に並行して沈線文がめぐり、縦位の短沈線文が等間隔で施される。７は隆沈線区画の無文帯が文様を構成し、突起下には鰭状隆線文がみられる。12・13・15・16は同一個体である。胴部が張り、口縁部が内傾する樽形の器形となるもので、やや幅広の断面Ｄ字状のカマボコ形の隆線沿いに沈線文が配される。12・15は隆線文上に刺突文がみられる。第70図４・11、第71図１・２は並行する沈線文によって文様が構成される。第70図11、第71図１・２は無文帯幅が狭い。第71図３は「S」字状沈線文が入り組んで鎖状となる。７・８の土製円盤はいずれも胴部破片を打ち欠いて成形されている。

Ⅹ層出土土器（第71図、図版30）

縄文土器１点を第71図９に図示した。口縁部が外側に緩やかに開く深鉢である。外面及び口唇部にＬＲ縄文が施文される。

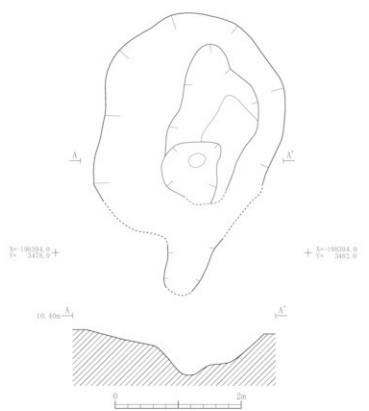


No.	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-599	SK72	-	縄文土器	鉢	Ⅰ指～胴部-隆沈線文区画・「Ｏ」字・「Ｄ」字状文・刺突文充填・Ⅰ Ⅱ Ⅲ縄文		27-14
2	A-604	SK76	-	縄文土器	深鉢	胴部-隆沈線文・Ⅰ Ⅱ縄文		27-16
3	A-611	SK81	1	縄文土器	深鉢	胴部-Ⅰ Ⅱ縄文・ナデ　底部-ナデ		27-17
4	A-618	SK85	1	縄文土器	小型土器	胴部-沈線文区画、Ⅰ Ⅱ縄文　底部-ナデ		27-18
5	A-643	SK95	3	縄文土器	深鉢	Ⅰ指隆-山形突起・沈線文区画文・刺突文		28-1
6	A-637	SK95	1	縄文土器	深鉢	胴部-ナデ　底部-ナデ		28-2
7	P-48	SK95	1	土製品	土製円盤	Ⅰ 撚糸文	39×39×6mm　11g	28-3
8	A-676	SK104	2	縄文土器	深鉢	胴部-沈線文区画・刺突文・Ⅰ 撚糸文（直前段反撚）		28-6
9	P-6	SK107	-	土製品	土製円盤	Ⅰ Ⅱ縄文	36×34×9mm　11g	28-11
10	A-601A	SK105	底面	縄文土器	深鉢	Ⅰ指隆-沈線文区画・沈線文		28-8
11	A-602	SK105	底面	縄文土器	深鉢	胴部-沈線文区画・刺突文・Ⅰ 撚糸文		28-9
12	A-695	SK108	1	縄文土器	深鉢	Ⅰ指～胴部-鏡餅文・Ⅰ 縄文		28-12
13	A-700	SK108	1	縄文土器	深鉢	胴部-Ⅰ Ⅱ縄文　底部-ナデ		28-13

第63図　土坑出土遺物（１）

No	登録番号	出土遺構	層　位	種　別	器　種	文　様　等	備　考	写真図版
1	A-701	SK109	-	縄文土器	深鉢	波状口縁・隆線文・RL縄文		28-14
2	A-672	SK109	1	縄文土器	深鉢	口縁～胴部-波状口縁・隆沈線文・LR無文	内面に炭化物付着。	28-15
3	P-47	SK109	1	土製品	土製円盤	LR無文	31×30×8mm　9g	28-16
4	A-706	SK141	1	縄文土器	深鉢	口縁部-隆沈線文・RL充縄文		28-17
5	A-710	SK143	1	縄文土器	深鉢	胴部-LR L縄文		28-18
6	A-711	SK143	1	縄文土器	深鉢	口縁部-沈線文・LR無文		28-19

第64図　土坑出土遺物（2）



第65図　SX89性格不明遺構平面図・断面図